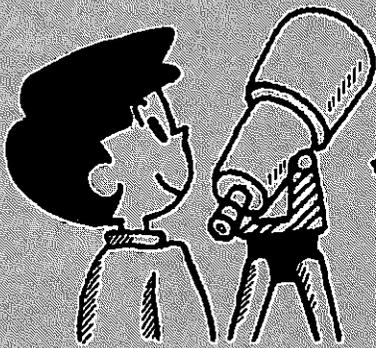


日曜学校教案誌

vol. **6**
2002. 7. 8. 9月号

すばるとオリオンを造り
闇を朝に変え
昼を暗い夜にし
海の水を呼び集めて地の裏に注がれる方
その御名は主
アモス書5:8



日本キリスト改革派教会 中部中会教育委員会

も く じ

まえがき	相馬伸郎	3
巻頭説教「あなたを解放するあなたの神」	春名義行	4
夏季学校のアイデア集	大西敏雄	8
日曜学校・教会学校訪問		
名古屋教会		11
中学生・高校生のための教会史 第14課～第25課	杉山明	14
2002年7・8・9月分カリキュラム		29
聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例		31
7月7日		32
7月14日		40
7月21日		48
7月28日		56
8月4日		64
8月11日		72
8月18日		80
8月25日		88
9月1日		96
9月8日		104
9月15日		112
9月22日		120
9月29日		128
付録(十戒カード、十戒の替え歌)		136
2002年10・11・12月分カリキュラム		139
2002年度カリキュラム(2002年4月～2003年3月)		140
編集後記		142

まえがき

相馬 伸郎 (名古屋岩の上传道所宣教師)

お手元に第6号をお届けする事が出来ます事を、素直に喜んでおります。貧しいものかもしれませんが、精一杯の奉仕を捧げました。すべて皆様のお祈りとご協力のお陰であります。心から神と関係各位、読者の皆様に感謝申し上げます。

今、創刊号(第一号)の前書きを記したときのことを鮮やかに思い起こします。「日本キリスト改革派教会としての『日曜学校教案誌』がどうしても欲しい、必要である。」非力をも顧みず、中部中会の有志でこの企画を立ち上げ、実行致しました。(このあたりの事は、第4号の小生の講演録をご参照下さい。)後日(!)、中部中会2001年度第一回定期会で、事業会計の援助を頂くことが可決されました。このようにして、子どもカテキズム1000部、日曜学校教案誌毎号400部が中部中会教育委員会より出版する道が開かれました。以来、第6号まで発行を継続することができ、しかも、教派を越えて採用して下さる同志の教会も与えられています。まことに感謝に堪えません。

当初、「石にかじりついてでも」、この二年間の「カテキズム」をカリキュラムにした企画を全うしたいと祈りました。しかし、季刊発行の現実、予想以上に困難を覚えさせられています。その頃、ある教師から、「教案誌の発行は、誰かが牧会を離れて専属でことに当たる体制が整わないと無理だと思う」と伺いました。その時には、「あまり高い目標を掲げずに、出来る能力の範囲内で、しかし開始することの方

が大切ではないか」と思いました。今でも、その気持ちのままで奉仕させていただいております。しかし、専門家あるいは、専念する教師が必要であるとの思いは、ついつまいます。やはり、将来的には、そのような教会教育の専門家、少なくとも体制の整備は不可欠と信じます。しかし、そのためには、なお、時間をかけなければならないでしょう。それまで何もしないで、待つだけであってはならないと思います。むしろ、このような業の中で、そのような奉仕者も育ち、活躍の場が与えられると信じます。それまでは、石にかじりつくのではなく、「神に信頼して」、この灯火を消さないように、励んで参りたいと存じます。

志と祈りのあるところには、神が必要な奉仕者、経済も備えられると信じております。第7号、そして『子どもカテキズム』による本カリキュラムの結びである第8号のため、さらには来年度以降の継続のためにも、お祈りとご支援を賜り、ご感想とご要望などをお聞かせ願いますように、心からお願い申し上げます。奉仕者一同、僅かずつでもより良き内容へと成長したいと願っております。

これからも、皆様の教会と共に「一人でも多くの子どもに、たった一人の子どもに」心を熱くして、主イエス・キリストの福音を説く労苦と共に励んで参りたいと祈り願っております。皆様の教会の日曜学校の業が、祝福され、良き実りを結ばしめられますように!

「あなたを解放するあなたの神」

- 出エジプト記 20 章 1, 2 節による説教 -

春名 義行 (津島伝道所宣教教師)

たいていどの国でも憲法が制定されています。その憲法には前文があって、続いて憲法そのものの内容が記されています。それは日本国憲法でも同様です。憲法の前文は、憲法の本文の内容を規定しています。憲法の内容は、その前文の規定の中で解釈されなければなりません。

この十戒の前文もさまざまな憲法の前文と同様、十戒の内容を規定しています。十戒の内容は、前文の規定の中で解釈されるべきものなのです。ですから、この十戒の前文は非常に大切です。

この十戒の前文はまず神様の自己紹介です。神様は御自身を「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。」と示してておられるのです。

神様はこの自己紹介において一つのことを語っておられます。それは、「主」という事柄と深く関わっています。この「主」という呼び名は、神様が自己紹介をなさるときたびたび用いられる名であり、救いの歴史の重要なときに神様はしばしばこの名をもって御自身を示されました。この箇所も、救いの歴史の重要なときにほかなりません。イスラエルをエジプトから導き出された、出エジプトの出来事なのです。

この前文においてまず、イスラエルの民にエジプトから導き出されたという出来事を思い起こさせるのです。そして、その出エジプトの出来事を通して示された神様の恵みを思い起こさせるのです。そのことによって、この十戒をお与えになった神様がイスラエルの民を贖い出さ

れ導かれた恵みの神様であることを、イスラエルの民はもちろん、私たちにも示すのです。

しかし、この前文において神様の恵みを示しているというだけではありません。さらに、この前文において、イスラエルの民をエジプトから導き出されたほどに御自身の民を愛される神様の熱愛、また情熱が示されています。この十戒を与えられた神様は御自身の民を愛しておられるのです。それはただ愛しているのではなく、熱愛しておられ、その愛故に民を奴隷の家から導き出され、最後の時まで守り導いてくださる方であることが明らかにされているのです。しかも、イスラエルの民が何かしたから奴隷の家から導き出すというのではなく、神様の一方的な恵みによって導きだしてくださるのです。それほどに神様はイスラエルの民を、すなわち御自身の民を深く愛しておられます。この神様の愛は、イスラエルはもちろん、いま神の民とされているあなたにも示されているのです。

神様は御自身の民を愛され、その愛故に大きな恵みを示し、また出エジプトによって示されますようにどんな局面にあっても御自身の民を守られます。それはあなたに対しても同じであるのです。神様はそうにして御自身の熱愛を御自身の民に示されました。

この十戒を与えられた神様は、御自身の民を熱愛なさり、そのために情熱を傾けられ、恵みと導きを与えてくださる方です。私たちの神様はそのような方であることが、この前文を通して明らかに示されているのです。そして、この

神様の熱愛を知り、それを思うことができるならば、神様の戒めに従えるはずであるということがこの前文において示されています。この主への従順こそが主との関係において、最も重要な事柄です。

この民を熱愛し、恵みを与えてくださりそれゆえに私たちに従順を求められる神様が、この十戒という戒めを与えられたのは、イスラエルの民に対してでした。しかし、この前文を見ますと、「わたしはあなたの神。あなたを・・・」と続きます。このところで、イスラエルの民に対して「あなたがた」といわず、「あなた」と呼びかけておられるのです。イスラエルの民は集団でありますから「あなたがた」と呼びかけるほうが自然であるはずであるのに、このところで神様は「あなた」と呼びかけておられるのです。

神様はこのところで「あなた」と二人称単数で呼びかけておられるのは、まず何よりも、この民の一人一人に対して呼びかけておられるからです。まさに「あなた」なのです。十把一絡げにいい加減に呼び掛けておられるのではありません。また、この呼びかけはイスラエルの民の一人一人に対して呼ばれていると同様に、今聖書を手にしてこの箇所を読んでいるあなたにも呼びかけられてる呼びかけです。まさにあなたであるのです。この「あなた」というところにあなたの名前を入れて読むことができます。この戒めを与え、御自身の民を愛されそのために情熱を傾けてくださるこの神様は「あなた」の神様なのです。その神様は、先に見ましたようにあなたを深く愛され、あなたに情熱を傾けておられるのです。その神様が今あなたにこの戒めを語ろうとしておられるのです。

しかし、この「あなた」という呼びかけは、確かに個々人に対してなされている呼びかけですが、もう一方でイスラエルの共同体を一つの人格的存在として、一人の人と見なしてなされ

ているものでもあります。この呼びかけは個々人になされていると同時に共同体に対してもなされているのです。これは教会共同体に対しても同じなのです。神様はイスラエルの共同体も教会共同体も一人の人としてごらんになり、その共同体に対して、今あなたと呼びかけておられるのです。共同体はキリストをかしらとするキリストの体ですから、一人の人のように一つでなければならないのです。

そのあなたと呼ばれる一人一人に、そして、その教会共同体に対して、神様は、「わたしはあなたの神」とおっしゃってくださいなのです。つまり、神様は情熱と深い愛をもって「あなた」の神となっておっしゃってくださいしているのです。神様は今この御言葉を聞いているあなたの神様となって下さり、この御言葉を聞いているこの教会共同体の神様となって下さると約束してくださっているのであり、まさに、あなたのそしてこの教会の神様となって下さっているのです。そのような関係になって、神様はあなたを愛し導いてくださるのです。

神様は遠くにいる神様ではありません。あなたの神様として、また、この教会共同体の神様として、あなたのすぐ側にいて下さる方なのです。その方が、今あなたに深い愛と情熱を示して下さい、戒めを与えて下さるのです。ですから、このようにあなたの神様となって下さった方に対して、私たちは従順に従っていくのです。それは、強制ではなく、わたしの神様となって下さった神様に喜びと感謝をもってなす事のできる事柄です。

神様はイスラエルを愛し、イスラエルを守るイスラエルの神様として御自身を示されました。その神様のイスラエルに対する恵み深いお働きは、「エジプトの地、奴隷の家から導き出した」と記されている事柄です。神様はイスラエルを奴隷の束縛の中から贖い出されたのです。その贖いの御業は神様の一方的な恵みに

よって与えられたものでありました。

民が奴隷の状態から贖い出されたということは、民に自由が与えられたということです。神様の恵みの恵みによる贖いの御業が示され、自由が与えられたのです。この神様が与えられた自由は、神様を礼拝する自由であったのです。モーセは、「神様に献げ物をささげ、礼拝をするために、荒れ野に行かせて欲しい」とファラオに願っていました。つまり、奴隷とされている間、神様に自由に礼拝をささげることができなくなっていたということでもあります。しかし、この神様の贖いの御業によって、イスラエルの民は神様に従い、神様に礼拝を捧げることができる自由を得たのです。

民に自由を与えられた神様が民に与えられたこの戒めは、民を縛るためのものではありません。神様はこの戒めをお与えになったとき、民に対して「わたしはあなたの神である」と宣言なさっているのです。つまり、この民は神様から神の民となると約束されただけでなく、神の民となっているのです。その民に対して神様は戒めを与えられたのです。しかし、神様は束縛から導き出された神様ですから、その愛する民を束縛しようとこの戒めを与えられたではありません。この戒めは、神様によって贖われ神様の民とされたものがどのように生きればよいかを教えてくれるものです。神様は深い愛と熱情を以てイスラエルを導かれ、御自身の民とされました、その民がいかに生きるべきか、それが、与えられた戒めなのです。

その神様が与えられた戒めが示す自由は、先ほども少し言いましたように、神様に従い、神様を正しく礼拝し、神様に祈りと賛美をささげることのできる自由です。奴隷の状態では自由にするのでできなかったことが自由にできるようにされたのです。神様への礼拝と賛美と祈りに向かう生活、神様を生活の中心とし、神礼拝を生活の中心とする、そのような生活を示し

ているのです。それこそ、神様の民イスラエルがなすべき生活であり、神様がイスラエルに求め続けられた生活であるのです。また、そのような自由をイスラエルに与えてくださったのがこの神様であるのです。そして、神様を中心とし、神様を自由に礼拝することができる状態とは、人間が創られたときに与えられていた、幸いな状態を回復したということにほかなりません。

イスラエルに与えられたこの自由は、主イエスの贖いの御業に与り、主イエスを神様の御子また、救い主と信じるあなたにも与えられているものです。私たちは生まれたままの状態では罪の奴隷でした。罪の奴隷とされている者たちは、神様に背き、神様の方を向こうとせず、神様に逆らい続ける存在なのです。神様を礼拝するように造られた人間が、神様を礼拝できないように罪が束縛し、本来の自由を奪われてしまっているのです。あなたもそうであったのです。しかし、あなたは、主イエス・キリストの贖いの御業と神様の私たちへの愛により、救いへと入れられたのです。それによってあなたはもはや罪の奴隷ではなくなったのです。罪の奴隷ではなくなったということは、神様を自由に礼拝でき、神様を自分の中心に据えることのできる本当の自由を獲得したということです。この与えられた自由は、あなたにそれを得るのに相応しい何かがあったからではありません。この自由は、「わたしはあなたの神である」と宣言され、私たちを深く愛し、情熱をもって導いてくださる神様が一方的に与えてくださったものなのです。

先にも言いましたように、この与えられた自由を十分に用い、神様に従い神様を第一とし、神様を礼拝することをその生活の中心として生きる生き方、つまりは神様の民がどのように生きるべきかが、この十戒という戒めに記されているのです。

この事実が、あの短い「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隸の家から導き出した神である。」との言葉によって示されているのです。そして、「わたしはあなたの神主であつて、あなたをエジプトの地、奴隸の家から導き出した者である。その私を知っているならば、これこれのことをするはずはない」と、この前文が全ての戒めを規定するのです。

この前文は神様の恵みと愛を示し、神様がどれほどあなたを愛し、あなたのために情熱を示されているかを示す言葉です。そして、この神様があなたに自由を与えられたことを示している言葉です。もしこの前文がなければ、十戒は

非常に冷たい厳しい戒めとなってしまうでしょう。しかし、神様の与えてくださった愛と恵みと自由がこの前文に示されています。この前文に規定されて、この十戒を読むとき、あなたに示された十戒の恵みと慰めを知ることができるのです。

そのことをよく心に置き十戒に示されたあなたへの恵みを今一度覚えようではありませんか。主はまず、「わたしはあなたの神、主である。あなたをエジプトの地、奴隸の家から導き出した神である」と、あなたにも御自身を示し、くださっているのです。

夏季学校のアイデア集

大西 敏雄（尾張旭教会牧師）

夏季学校は、日曜学校の生徒のために夏休み期間を利用して行う特別行事です。主日の朝の限られた時間とスペースの中では、特別プログラムを盛り込むことはほとんどできません。しかし、夏季学校では、時間的にも十分にとることができ、場所も教会とはかぎらないところで行うことができます。生徒同志、生徒と教師との交わりも豊かにもつことができます。ですから、主日の日曜学校とは、目的も違ってきます。

目標を明確に

まず、夏季学校を行うにあたり、教師会で話し合っ、今回の夏季学校の目標を定めることが必要です。学習内容を何にするか。子どもたちが何をつかむことを目標とするか。また学習よりも親睦を図るとか、新しい教師が生徒と親しくなるためとか。子どもたちの普段見ることができない部分の発見とか。林に囲まれた自然の中での生活とか。テント生活の楽しい経験とか。目標を明確にしましょう。

基本姿勢

1. 楽しい内容

子どもたちがこれは楽しそうだ、おもしろそうだと期待する、また期待できる内容でなければなりません。そのためには教師自身が楽しく準備できる内容、これならばきっと子どもたちが楽しんでくれるにちがいないと予想できる内容でなければなりません。では、逆に楽しくないものとはどんなものでしょうか。大人の視点だけで計画されたものや義務的な思いでおこなわれるものではないでしょうか。

2. 思い切った発想転換を

夏季学校がいつもの日曜学校の内容と全く同じであったならば、ただいつもよりも時間が長いだけであるならば、夏季学校を実施する意味はほとんどありません。夏季学校でなければできない内容、夏季学校だからこそできる内容を盛り込むことが大切です。その事例は後で記します。

3. 子どもたちの状況に合わせて期日を決める

悪い例は子どもの状況を全く考慮せずに、教会の事情にしたがって実施することです。子どもたちの事情や状況に合わせて夏季学校を行わないと、せっかく準備したのに参加者はほとんど無しということになりかねません。

子どもたちの林間学校とか、登校日とか、旅行シーズンとかがありますので事前に調査し参加しにくい時期は避けるべきです。たとえば、小中学校の行事は、夏休みの初め頃（7月）と終わり頃に集中します。また夏休み中頃は家族の旅行シーズンです。それでは夏季学校ができないではないかということになります。

好機はやはり7月か8月下旬ということになります。つまり学校行事や教会行事の間をぬって、なるべく子どもたちの参加しやすい時期を選ばねばならないのです。

4. 学年(年齢)に合わせた工夫を

日曜学校の行事には生徒全員が同じように参加することも大切ですが、宿泊の場合は何年生以上と年齢制限をするのも一つの工夫です。例えば4年生以上になると、他の施設に行つて宿泊できるとか、他教会との合同の夏季学校に参加できるとか工夫するのです。「上級生になつ

たら〇〇キャンプに参加できる！」となると、子どもたちにとって励みとなり、楽しみとなります。その代わりに宿泊できない下級生のため、教会で下級生中心の夏季学校も行うのです。

5. 学習内容

夏季学校のテキストは、いろいろなケースを想定して作成されますので、どうしても内容が多くなっています。ですから、テキストを全部消化しなければならない、教えなければならないと考えて、学習ばかりを盛り込んだ夏季学校のプログラムはあまり関心しません。その日曜学校の事情や生徒に合わせて、思い切って内容を限定することが効果を上げるためには必要です。それは、夏季学校の目標と関係します。

たとえば、4月から7月までに学んだ中から一つのポイントをあげて、子どもたちの理解を深めたり、信仰的姿勢を養うことを目指すのも必要かも知れません。

夏季学校内容具体例

1. ゲーム

どの内容にも共通して言えることですが、ゲーム担当者は実行を想定した準備をすることが（楽しさをイメージしつつ準備すめことが）大切です。これが成功の秘訣です。担当者は教会関係のものに限らずいろいろな資料を参考にし、生徒に合わせて工夫し準備しましょう。

2. 紙芝居

最近は紙芝居を見る機会が少ないので、子どもたちに結構受けます。一人で読むだけでなく、二、三人で演技するように読むのも変化があります。また、〇〇先生の知られざる一面を発揮（披露）できて、おもしろい（効果がある）場合もあります。

3. ビデオ鑑賞

アニメもいろいろありますが、描写や人物の

動きがはるかに時代遅れで退屈させてしまうものもあるので、事前に見ておく必要があります。テレビ画面で見るよりも、液晶ビジョンがあれば、映画館のような雰囲気になります。ナイトシアターと題して行ったら、これもまた楽しいです。

4. 花火

教会の庭で行うよりも、ナイトハイクも兼ねて近くの公園に行き、打ち上げ花火もやれると盛り上がります。ただしマナーをちゃんと守るように指導する必要があります。

5. 風呂

多くの子どもが交替で家庭風呂にはいるのは時間がかかって大変です。今、ジャグジーや露天風呂などいろいろな風呂がセットになっているスパがはやっているの、そういう風呂に行けると楽しいです。みんな一度に入れるので時間がかかりません。車移動で行ける所にあるといいですね。

6. 工作

教案誌に載っている工作の他に、インターネット等で情報を得ていろいろと工夫してみましょう。男の子用と女の子用を準備したり、両方の要求を満たすようなものを工夫するとよいです。

バルーンもやってみてはどうですか。バルーン用の細長い風船はおもちゃ屋で売っています。ポンプも売っています。作り方は本に出ていますので、本を購入するか図書館で捜すかして、練習しましょう。作り方の基本を教えれば、あとは自由に工夫できます。

『風船でつくろう！たのしいどうぶつ園』

高田佳子(よしこ)著、金の星社

『風船でつくろう！フラワーガーデン』

高田佳子(よしこ)著、金の星社

7. 料理

朝食や夕食を自分たちで作る。これもまた楽しい。おやつ作りもたのしい。婦人会の協力を得てすべて作ってもらうのもひとつですが、一部を一緒に作るのもどうでしょうか。かえって面倒かも知れませんが、婦人会が日曜学校を理解するのによい機会かも知れません。

8. 泥だんご作り

泥だんご作りはなかなかの根気とわざが必要です。まんまるでピカピカの泥だんごにするには達人のわざが必要になります。だんご作りには適した土を手に入れるのも大変ですが、挑戦して見てはいかがですか。この企画があるだけでも参加者は増えます。作り方はインターネットなどで知ることができます。尾張旭教会では年に数回「あそぼう会」という行事をおこなって

いますが、この泥だんご作りと米の粉を使った本物のだんご作りをセットにして行い、好評でした。

9. 紙ひこうき作り

これは男の子に人気があります。ケント紙で作る高度なものです。紙ひこうき作りの本を手に入れ、指導できるように誰かが練習しておく必要があります。切り抜いて貼り合わせただけでは飛びません。そのあと調整をしなければなりません。

10. フリーターキングや個人的に話を

聞いてあげられる機会を

特別にプログラムに入れる必要はありませんが、自由時間というか、それが自然にできる時と場があるといいですね。

名古屋教会日曜学校の紹介

名古屋教会日曜学校 校長 伊藤 英樹

皆さんお元気ですか？

こちらは愛知県の名古屋市西区にある名古屋教会です。(地下鉄鶴舞線浄心駅から徒歩5分)



教会の前でみんなで記念撮影！

小さい子どもが多く、これからが楽しみ
(これからが大変?) です。

みんな元気で大きくなーれ！

私たち名古屋教会の日曜学校の紹介を
いたしますので、どうぞよろしく願
います。

1. クラス分け

1) 幼稚科



幼稚科の分級の様子！

まだ字が読めないお友だち。

でもイエスさまは知っています。

パソコンでクイズを出してみんなで考
えたり、工作で盛り上がったり、みんな
で分級を楽しんでいます。

2) 小学校下級科



小学校下級科の分級の様子！

最初はたどたどしかった読み書きも、日
を追うごとにめきめき上達しています。お
祈りも一人でできるようになったり、とに
かく成長の早さにびっくり。

最近、聖書の箇所を早開きを楽しんでい
ます。まさに楽しみながら神さまのこ
とを学んでいます。

3) 小学校上級科



小学校上級科の分級の様子

「神さまって本当にいるのかなー？」

「僕たち・私たちが何のために生きているの？」

いろんな疑問もわいてきます。そして聖書は私たちにどんな答えを示しているのでしょうか。お父さん・お母さんに連れられてくる教会から、一步前へ踏み出そうとする心の芽生えの時期です。

4) 中学科

中学科は小学科以下とは別プログラムで分級を行っています。

今年の3月までは、長老1名・執事1名によって実施していましたが、今年の4月からは牧師（鈴木先生）が朝の若葉会として担当して下さることになりました。

心と体が急激に成長するこの時期、信仰の成長にとっても、大切な時期です。教会としても、信仰告白の準備期間として位置づけて、大切に見守りたいと思います。

2. 使用教材

中部中会『日曜学校教案誌』と『子どもカテキズム』・・・今年4月から。

3. おもな年間行事

1) 進級式

みんなに図書券をプレゼント！

2) 春の特別集会

イースター特伝になることもあります。

3) 春のピクニック

暖かな5月の土曜日に公園に行きます。

4) 母の日・父の日

日頃の感謝を込めて、教会のお父さん・お母さんにプレゼント。今年のプレゼントは何か？みんな楽しみにしています。

5) 花の日

お花を持って、消防署・派出所等を訪問。
「いつもご苦労様」とお花を渡します。

6) 夏のお楽しみ会

去年は、岩の上、豊明、名古屋の三教会合同キャンプを行いました。毎年教会でお泊り会をしていた時期もありました。

さて今年は何をしようかな？

7) 秋のハイキング

不定期ではありますが、青少年公園、森林公園等に出かけます。

8) クリスマス会

日曜学校のメインイベント。近所の子供たちもいっぱい集まり、イエス様の誕生をお祝いします。クリスマスツリーやリースをみんなで作ります。

4. 集会の案内

1) 小学生以下の部

9時30分から合同礼拝・・・出席ごとにスタンプを押して、10回出席でプレゼント！

9時50分頃から10時20分までは各科に分かれて分級。

2) 中学生の部

9時40分～10時10分、朝の若葉会（求道者会）。牧師室にて。

5. その他特記事項

1) 当教会では、午前の礼拝時の説教の、最初の5分程度の時間を子供向けのお話の時間として実施しています。この時間は、子どもたちが前の席に呼び集められ、牧師先生も子どもたちの顔を見ながら説教をされます。全員が礼拝に参加するという礼拝本

来の趣旨と、子どもたちも教会の一員であるという理解が深められているものと思います。

2) 日曜学校の生徒たちがすべて契約の子か、信者の親の子です。地域の子どものつながりのために対応が必要です。アドバイスをお待ちしております！



日曜学校を支える先生たち！

子どもに神さまの御言葉を伝える奉仕を通して、教師自身も教えられ、成長しています。

奉仕は確かに大変なこともあります、同じ重荷を分かち合う者、先生たちの結束も固く、和気あいあいと楽しく奉仕しています。

中学生・高校生のための教会史

杉山 明 (瑞浪伝道所宣教教師)

第 14 課 教会の純潔と寛容

棄教者の復帰論争

北アフリカも西方教会と呼ばれる地域に属していた。この地域から福音のために戦い、貢献した教父たちがでた。3 世紀の前半に活躍した一人がカルタゴの主教であったキブリアーヌス (200 ~ 258 年) である。彼は、デキウス皇帝の迫害のときに難をさげ、教会に手紙を書いて励ましを与えて指導をした。そのころ激しい迫害によって棄教した信者たちは、迫害が終わると、教会に復帰を願った。教会は、彼らをかかへ取り扱うべきかという問題に直面した。

十分な悔い改めの実を結ばなければ、復帰を許さないという厳格な立場を取る者と、比較的寛大な態度を取る者が対立した。前者はローマの司祭ノヴァティアヌスであり、後者は 251 年ローマ教皇となったコルネリウスであった。キブリアーヌスは最初厳格な態度を取ったが、やがて寛容な態度を取り、適当な改悔の後には受け入れるべきであると、教皇コルネリウスの立場を擁護した。しかし、次の教皇ステファヌス一世が異端者であるとみなされる司祭から受けた洗礼が有効であると主張したことについては、キブリアーヌスは強く反対した。ステファヌスは洗礼の有効性は受ける者の信仰に基づくと考えたが、キブリアーヌスは授ける者の権威に基づくと考え、「教会の外に救いはない」と語り、教会の外にある異端者からの洗礼の無効を主張した。彼の殉教によって、結論は後の時代に持ち越されたが、ローマの教会観確立のために貢献した。

西方教会最大の教父

ノヴァティアヌスとキブリアーヌスの論争は、礼典が有効であるのは何に立脚するのか、また、教会が持つべき純潔と寛容をどのように調和すべきかという論争であったが、彼らの死後も数十年間くすぶり続け、迫害が終わった後アフリカで再燃した。この問題の解決に貢献したのが西方教会最大の教父アウグスティヌス (354 ~ 420 年) であった。アウグスティヌスは、北アフリカの町ヒッポの司祭を経て、監督になったが、ヒッポより 250 キロばかり東にあるカルタゴ教会では棄教者の受け入れについて激しい論争がなされて来た。

その論争再燃は、コンスタンティヌス大帝がミラノの勅令を発する 2 年前の 311 年に執行された、カルタゴ教会司教の叙任式に端を発した。カエキリウスが司教に叙任されたのであるが、叙任式を執行したフェリクス司教が迫害によって教会を一度捨てた人物であった。そのため反対派は独自の司教としてマヨリヌスをたて、北アフリカの教会は二つに分裂した。反対派論陣の旗頭がドナートゥスであった。彼は棄教者たちが復帰するためには、まず洗礼を受けなおすべきであり、教職者の場合にはその人物が施す洗礼や礼典は無効であると主張した。それから 100 年間にわたって論争が続き、コンスタンティヌスの管理のもとで、314 年に教会会議が召集され、ドナートゥス派の主張を断罪した。316 年に、皇帝に訴えてきたが、皇帝は彼らに不利な決定を下して国家の統一を守ろうとした。ドナートゥス派はますます激しく反対し、テロ事件にまで発展した。405 年になると

皇帝ホノリウスはドナトゥス派禁止令を発し、411年に、カルタゴに教会会議を召集し、両派の監督を集め、その中からそれぞれ7人の討論者を立てて討論をさせた。その論争時に正統派の論客の一人としてアウグスティヌスが選ばれ、活躍した。

4世紀末、彼がヒッポに着任した時からこの論争に巻き込まれ、対話による解決を心がけたが討論になかなか応じてもらえなかった。400年には大著「洗礼論」をドナトゥス派の指導者に書き送って、神学的にも歴史的にも正統派の主張が正しいことを述べ、説得しようとした。

第15課 アウグスティヌスと恩寵の勝利

西方教会最大の論争の主題

第13課で、東方教会と西方教会の気質の違いについて言及した。東方教会は三位一体論やキリスト論など抽象的で理論的な問題を取り扱い、西方教会はより具体的な問題を取り扱う傾向を持っていたことを簡潔に紹介した。西方教会が取り組んだことは、教会の組織、制度、礼典、監督の任務や権威についてであった。それに加えて、人間の罪贖と恩寵とがどう関係しているのか、「人はいかにして救われるのか」という具体的な実際問題を解決した。その最後の問題である「人はいかにして救われるか」という確立への貢献者は、ドナチスト論争でも活躍したヒッポの司教アウグスティヌスである。

救いについての異説の始まり

原始エルサレム教会の時代から、すべての人はイエスをキリストと信じる信仰によって救われるという教えが、キリスト教会の根本的な理解であり、教えであった。ところが400年頃、イギリスからローマにきたペラギウスと呼ばれた修道士が教会の道徳的状態が低いのを知り、その原因が恩寵を説いて、人間の意志の訓練を軽んじる教会の教えにあると考えた。そこで、

アウグスティヌスの論点は、バプテスマを施す教職者は器に過ぎず、司祭の道徳的価値によって無効にはならない。バプテスマは本来キリストのものであり、キリストの権威において罪が赦されるということであった。カルタゴ会議の結果、ドナトゥス派の主張に論拠がなく、誤りであると認めた。ドナトゥス派は敗北し、集会を禁じられ、さらに414年には皇帝から市民権の剥奪と同派の集会出席者に対する死刑命令が出され、次第に勢力を失っていった。こうして教会の純潔と寛容に関するカトリック教会の原則が確立していった。

ペラギウスは個人の責任を強く教え、多くの同調者を得た。アウグスティヌスもペラギウスのことを耳にし、その道徳の高さに好意を寄せていたのであるが、やがてこの二人が「救われるのは神の恩寵によるのか、それとも人間の善である意思に基づく善き業によるのか」という問題について異なる意見を持ち、論争の代表者として相対するようになった。

411年、西ゴート族の攻撃にあつてローマから身を避けて、多くの人々が北アフリカに渡った。ペラギウスも、法律家である弟子のケレスティウスをともなってカルタゴに逃れてきた。ペラギウスはバレスチナに去ったが、ケレスティウスはカルタゴに留まり、長老になろうとした。カルタゴ滞在中のミセノの助祭パウリヌスがケレスティウスの信仰に異議を唱え、413年、カルタゴ教会は会議を開いてケレスティウスの教会加入を退けた。ケレスティウスはエペソに行き、そこで長老となり、自説を主張し、論争が広がった。やがてペラギウスもこの論争に加わりケレスティウスを支持した。北アフリカの教会はカルタゴ教会の主張を支持し、アウグスティヌスもこの論争に加わり、ペラギウス論争と呼ばれる大論争へと発展した。

ペラギウス説の要点

ケレスティウスとペラギウスの著書は残っていないが、カルタゴ会議での異端宣告文やアウグスティヌスの論文を読むと、彼らの主張の要点は次のようである。アダムは罪を犯さなくても死ぬものとして創造されたと罪と死との関係を否定したこと、アダムの罪は自分（感情）だけを損ねたが、人類には無関係であること、新しく生まれる子孫は墮落前のアダムと同じ状態で生まれること、アダムの墮落もキリストの復活も人間の滅びと救いに影響を及ぼさないこと、子供は洗礼を受けなくても永遠の命にいたること、律法は福音と同様に救いの導き手であること、キリスト降誕以前にも罪のない人々がいたこと、などである。救いは罪に影響されていない意志と自然的能力によって獲得できると、自力救済主義を唱えたのである。

アウグスティヌスの主張の要点

原罪を否定するペラギウス説に対して、罪と腐敗はすべての子孫に及んでいること、自然的才能も意志も罪によって破壊されており罪の呪いのもとにあること、善を行なうことが出来るならそれは神の恩寵によるものであること、この恩寵は人間の功績に対して与えられるものではなく、神の選び（主権的意志）によることなど、福音的救済論を説き、ペラギウス説の誤りを、聖書を用いて退けようとした。

論争の結果

415年にペラギウス主義者はパレスチナの地方会議に訴えたが敗北し、416年には、北アフリカの地方会議もペラギウス説を否認し、431年のエペソ公会議はネストリウス説と共に、ペラギウス説を異端として退けた。こうして恩寵による救いの教理が勝利を得た。しかし、完全な勝利ではなかった。

第16課 信者の信仰生活

セミ(半)ペラギウス主義の台頭

前課で、アウグスティヌスの恩寵論がエペソ公会議で勝利を占めたと書いたが、当時のすべての教会や学者たちに受け入れられたのではなかった。ペラギウス説の誤りには賛同しながらも、アウグスティヌスが展開する神の選びの教理については、異を唱える修道士たちがいた。現在のフランスに属するマルセイユの修道院を建てたカッシアヌス、レランスの修道士ヴィンケンティウス、レイエの監督になったファウストウスたちである。彼らは、神の恩寵によらなければ救われないことを認めているが、その「神の恩寵は、人間の心に善がきざすのを見て働きかける」ものであると述べ、また「提示された恩寵を人間は受け入れ、あるいは拒む自由をもっている」と主張した。神の予定を、予知された人間の信仰と従順に基礎付けよ

うとした。それは、救いにおいて神の恩寵と人間の自由意志とを対等の要因であると考えたアウグスティヌス説の修正主義であり、ペラギウス主義への逆走であるので、セミ・ペラギウス主義と呼ぶ。475年のリヨンの地方会議で、この修正主義が是認されたこともあり、中世のローマ教会の信仰に大きな影響を及ぼすこととなった。

教会の生活

信教の自由を獲得してから、教会はこれまで述べた多くの教理的異端と論争し、正統信仰を確立したのであるが、その間、信徒たちはどんな信仰生活を過ごしていたのであろうか。まず、日曜礼拝に教会に集った。そこでは、詩篇以外の賛美歌が以前よりも多く歌われるようになり、東方ではクリソストム、ナジアンソスのグ

レゴリオス、キュリロス、西方ではアンブロシウス、アウグスティーン、教皇レオ一世など秀でた説教家がでて、講解説教に耳を傾けることができた。祈りも聖餐式も礼拝で行なわれていた。日曜礼拝ばかりでなく、週日に短い礼拝が朝と夕べに捧げられるようになった。教会暦が形成され始めたのもこの期間である。復活祭は、キリスト教の歴史と共に古くから持たれていたが、東方教会はユダヤの過越祭と同じニサンの月の14日に祝い、西方教会は、キリストが復活した年の日曜日を記念して「春分の後の満月の次に来る日曜日」に祝った。ニカイア会議でその調整が図られ、西方教会のように、日曜日に祝われることになった。クリスマスが12月25日に祝われるようになったのもこの頃である。この日をローマ教会がクリスマスとして最初に祝ったのは、354年であると記録されており、コンスタンティノポリスでも379年にはこの日に祝うようになり、次第に12月25日に主の降誕を祝うようになった。

一般信者の信仰生活

3世紀の初め頃には、キリスト者たちは迫害の時代に殉教した聖徒たちを偲んで、毎年彼らが殉教した日に追悼の集いを開いた。また、殉教者たちの遺骨を宝石より大切にし、やがて崇

拝の対象にした。コンスタンティーンスの守護を得て多くの異教徒たちが回心するようになると、この傾向が膨れ上がった。4世紀末には、殉教者を記念するだけでなく、特別な地位を与えるようになった。殉教者は神との間の仲介者であり、信者の保護者であり、祈りの対象としなければならないとの思いが高揚し、教会の指導者たちもこの思いを禁じることなく、容認した。民衆は殉教者だけでなく、異端と戦った指導者や禁欲的な行者をも崇拝の対象に加えるようになった。

また、最も尊敬され、崇敬され、崇拝されるに相応しい人物としてキリストの母マリアが登場してきた。マリアの画像はローマのカタコンベに残っているので、早くから礼拝に用いられたと思われるが、4世紀になると異教の女神信仰の影響もあり、また、禁欲的傾向の強い修道士たちの間では永遠の処女としてのマリア観が影響を与え、マリアに対する関心が広まった。4世紀はマリアを崇めることとマリア礼拝することとの区別を明らかに保っていたが、5世紀になると、マリアを「神の母」と呼び、431年のエペソ会議がこれを承認して、マリアを礼拝し、マリアに会堂を献じることが始まった。

このように、一般大衆キリスト者の宗教生活は、聖書の信仰に背を向け始めた。

第17課 皇帝ユスティニアヌスと教皇グレゴリウス一世

古代最後の世紀の教会

キリスト教会史の時代区分は、一般的に600年までを古代と呼び、それ以後ルターの宗教改革までの約900年間を中世と呼ぶ。これまで、1世紀から5世紀の歩みをたどってきた。古代最後の世紀である6世紀にどのような出来事が起きたをこの課でみよう。

平和と論争が入り混じった5世紀の歩みも落ち着き、古カトリック教会がローマ世界に浸透していく時代が6世紀であった。それは中世の

ローマ・カトリック教会への足場作りの時代である。西ローマ帝国が476年に滅亡したとはいえ、永遠の都ローマという理念は失われることなく、また、ローマ教会の権威が失われることはなかった。ゲルマン民族の多くがアリウス主義を信奉するか異教徒であったが、フランスに領土を獲得したフランク族は496年頃にクローヴィス王が回心し、ローマのキリスト教を受け入れ、ローマ教会を支持する国となった。数年後、ガリア地方（フランスの南部）に住んでい

たブルグンド族も同様に正統派を受け入れた。これら二部族の回心は、次の時代に他のゲルマン諸族がキリスト教化へする足場となった。

統一ローマ帝国の再建を志す

皇帝ユスティニアヌス

6世紀には、東ローマ帝国にローマ帝国の統一国家再建を目指す皇帝が出現した。ユスティニアヌス一世（在位527～565年）である。軍事力をもって旧ローマ帝国領をほぼ回復すると、東西教会の関係を結びつけ宗教的統一をも図ろうとした。彼の宗教統一の理念は、皇帝が教会の元首であり、教会の権威である教皇より上位にあるという「皇帝教皇主義」であった。コンスタンティヌスが抱いていた一つの帝国、一つの宗教という理想を実現するために、ユスティニアヌスはローマ法を改正し、集大成となる「ユスティニアヌス法典」作成に着手、529年に発布した。この法律は後世のキリスト教世界に大きな影響を及ぼすことになる。

皇帝はこの法律の遂行のために教会の神学問題の解決に乗り出し、カルケドン信条を否定したエウテューケス主義の単性論と正統主義の融和を図り、ローマ教皇を呼びつけて単性論を受け入れるように強要した。またキリスト教を統一の柱とすることによって、異教や無神論を禁止し、ユダヤ人を迫害し、ギリシア哲学も排除した。こうして非キリスト教的なものの排除が行なわれた。中世には、皇帝と教皇の関係が逆転し、「教皇皇帝主義」となるが、国家と教会とが蜜月の関係を維持した点では変化がない。ユスティニアヌス法典に基づいて、異なる思想や分派を厳しく排除する姿勢が継続された。

教皇グレゴリウス一世(540～604年)

歴代のローマ教皇の中でも偉大な教皇の一人が、グレゴリウス一世（在位590～604年）である。彼の時代の旧西ローマ帝国領土は、民族移動の後退症により、物質的にも、宗教的にも、知識的にも、また、道徳的にも、混乱を極めていた。これらを回復させる指導者が求められていた。グレゴリウスは、ローマの長官という政治家の生まれであり、彼自身もその職についていたが、父の死によって長官を辞し、修道院を建て、自らも修道士となった。このような経歴を持つグレゴリウスは、教皇に就任するとローマ教会の改革をもって社会の回復を図ろうと努めた。

彼の業績は次のとおりである。第一に、ローマ教会の監督権を強化拡大した。自らは「普遍的教皇」と呼ばれることを拒絶したが、実質的にはローマ教会監督が他の教会の監督に勝るといふ首位権の確立に努めた。第二に、イギリス人の少年奴隷を目撃するとイギリス伝道を命じ、先住のケルト人教会を凌ぐ勢力となり、ローマ教会の勢力拡張を図った。第三に、ローマ教会管区で得られる富で、軍隊を組織し、異端を信奉するゲルマン部族の侵入に対処するなど、教会行政の事業に乗り出した。第四に、優れた教会賛美歌を編纂し、教会音楽の発展に寄与した。第五に、神学的には、罪は遺伝するが、罪の咎は遺伝せず、意志は自由であると主張し、セミ・ペラギウス主義に近い恩寵論を普及させた。また煉獄の思想を採用し、教会の伝承に聖書と同等の地位を与え、教職者の独身制を奨励するなど、中世のカトリック教会の神学的基礎を据えた。このため中世は彼から始まると見られている。

第18課 フランク王国とイスラム教の出現

フランク王国とローマ教会の進展

ゲルマン民族の中で、フランク族が最初にローマ教会との関係を樹立したことは既に述べ

た。586年、クローヴィスはフランク王国を建設し、キリスト者であったブルグンドの王女と結婚し、東にいた強敵アラミアンとの戦いで勝

利したのが神の加護によるものと信じ、また、政治的思惑も働いてアリウス派のキリスト教ではなく、ローマ教会との協力をを選び、改宗した。ローマ教皇は周りのゲルマン諸族をローマ教会に改宗させようと願っており、クローヴィスの改宗を歓迎した。クローヴィスは改宗後、強大な教皇権を背景にした「異教徒鎮圧の大義名分」と「教皇の守護者の称号」を手に入れ、周辺への勢力拡大を図ると共に、ローマ教会の拡大に積極的な支援をした。こうして、ローマ教会は近くに政治的守護者を得て、教会と国家の結合関係を樹立した。

フランク王国は、その後、実際にヨーロッパとローマ教会を守る大きな役割を果たしていった。たとえば、ドイツの伝道とキリスト教化は、フランク王国の支持を受け、ローマ教会が派遣したボニファーティウス(672～754年)によって8世紀に果たされた。また、7世紀に急速に台頭したイスラム軍が北アフリカを征服し、8世紀にはスペインに侵入し、北上してヨーロッパ大陸を征服しようとした時、ヨーロッパを救ったのも、フランク王国が派遣したカール・マルテルの軍勢であった。カール軍は南下し、トゥール・ボワティエの戦いでイスラム軍を破り、北上を阻止した。

教会と国家の相互関係の深まり

751年にフランク王国でメロヴィング王朝が倒され、カロリング王朝と交代するが、ローマ教会とフランク王朝の関係は解消されることなく、より密接になった。新しい王ピピンは、ローマ教皇に土地を寄進し、ローマ教皇領を生み出した。また800年、王カール(カール大帝)は、教皇レオ三世から西ローマ皇帝としての戴冠を受け、帝国と教会の関係の密着ぶりを示した。さらに、カロリング王朝が断絶し、東フランク王国(ドイツ国王)が成立すると、二代目の王オットーは、962年にカール大帝にならってローマ教皇ヨハネス12世より戴冠を受け、神聖ローマ帝国を創設し、皇帝オットー一世とし

て君臨した。中世の間、フランク王国の支配者が交代したにもかかわらず、教会と国家の持ちつ持たれつの相互関係は維持されてきた。

イスラム教の出現

中世のキリスト教のみならず、ローマ世界を恐怖に陥れ、また大きな影響を与えた出来事は、イスラム教の出現と進撃であった。イスラム教の創始者マホメット(570年～632年)は、パレスチナ旅行をしたとき、ユダヤ教とキリスト教を知り、帰国して宗教的瞑想の後に、610年、創造主なる神の啓示を受け、新しい宗教の伝道者として活動を始めた。彼の生家の宗教はカアバ神殿の神(黒い石)を拝む偶像宗教であったので、故郷のメッカでは受け入れられず、迫害に会い、メディナに逃れ、そこで多くの信奉者を得た。その教えの要点は、唯一の創造者たる神(アラー)を礼拝の対象とすること。キリストの神性を否定し、預言者として認めること。自分はコーランと共に神から遣わされた最後で最高の預言者であること。信徒の義務は、一日五回、アラーに祈るためメッカに向かって礼拝し、信条を毎日朗読すること、断食や施しをすること。また、一生に一度、聖地の巡礼に参加することなどである。キリスト教との道徳的違いは、一夫多妻や奴隷を容認したことである。マホメットの死後から100年の間に、「コーランの教えか剣か」という二者択一の方法をもって伝道し、世界各地に広がった。キリスト教の発祥地パレスチナの諸都市も、アンティオキアやアレクサンドリア、北アフリカのカルダゴもイスラム教に征服され、トルコもその支配下に下った。その勢力にヨーロッパとキリスト教世界は脅威にさらされた。また、東ローマ帝国は、かろうじて首都を維持した。東方のキリスト教会は聖像を容認していたので、イスラム教から偶像崇拜をしているとの批判にさらされ、神学的挑戦を受けた。その影響により8世紀に東西教会間でイコノクラスム論争(画像破壊論争)が起き、教会分裂の一原因となった。

第 19 課 東西教会の分裂

中世の時代区分

ローマ・カトリック教会の歴史とって過言ではない中世のキリスト教史は、次のように区分される。教皇によるカール大帝の皇帝位戴冠の 800 年までをローマ・カトリック教会成立の過渡期と呼び、それ以後 1073 年までをローマ教会成長時代と呼んでいる。1073 年は、グレゴリウス七世が教皇に就任した年である。この教皇のもとに教皇皇帝主義が勝利のシンボルである「カノッサの屈辱」と呼ばれる事件が生じ、ローマ教会の全盛期を迎えた。13 世紀末から 14 世紀の初頭にかけて王権の巻き返しが始まり、教皇ボンifaceティウス八世は、フランスの王に逮捕される屈辱を味わった。この時代から宗教改革までをローマ・カトリック教会の衰退時代と呼ぶ。

成長時代に生じた東西教会の分裂

ローマ・カトリック教会の成長時代が終わる少し前に、教会にとって一大事件が生じた。それは、これまで東西教会がそれぞれの特徴を持ちつつ、またいろいろ対立しながらも一つの教会を形成してきた教会が、ついに 1054 年 7 月 16 日、分裂を迎えたことであつた。東はコンスタンティノポリスを本拠地としたギリシア正教会、西はローマを本拠地としたローマ・カトリック教会として分裂し、現在まで別々の道を歩むことになった。

分裂の原因

なぜ分裂にいたつたのか、その原因を考察してみよう。分裂が生じたのには両教会の歴史的に積み重なつた対立点、すなわち、間接的原因と、分裂を引き起こした直接的原因となつた出来事とが絡み合っている。

(1) 最初の間接的な原因には、カール大帝が勝手に西ローマ皇帝の戴冠をローマ教皇から受

けたという政治的出来事が関係している。西ローマ帝国は歴史から消滅し、教会は残つた東ローマ帝国を守護者として頼ると期待されたのに、フランク王国の王を西ローマ帝国の皇帝と承認し、これに依存しようとしたことは、東ローマ帝国皇帝と東方教会にとっては、ゆゆしい問題であり、分裂の自然的原因となつた。

(2) 東西の人種の相違。ローマ人とギリシア人の相違だけでなく、西方では多くのゲルマン民族が混合し、東方でもスラブ人や西アジア人が交じり合い、その結果、考え方の相違がより鮮明になつたことも分裂を生む原因であつた。

(3) 第二回コンスタンティノポリス公会議で採択された「ニカイア・コンスタンティノポリス信条」の聖霊の出所に関する「われらは聖霊、主となり活かし、御父より出で」という文章に、587 年のトレドの会議で、三位一体の教理を確立するために、「また御子より」(フィリオクエ)という言葉が西方教会が付加し、「われらは聖霊、主となり活かし、御父と御子より出で」と変更されたこと。東方教会はこれを認めず、分裂の原因の一つとなつた。

(4) 最大の原因は、ローマ教皇とコンスタンティノポリス大主教との権力争いである。800 年代半ばに、皇帝の身内の不品行を責めた大主教イグナティウスに立腹した皇帝は、大主教を罷免し、新たにフォティウスを大主教に任命し、教会は会議を開いてこれを承認した。イグナティウスを支持する人々はローマに使いを送り、ローマ教会に訴えた。ローマの会議ではイグナティウスを支持し、フォティウスの追放を決議し、東方教会に通達した。この処置に対して、東方教会は、ローマ教会と東方教会の会議の平等性と同等の権威を持つことを主張して、ローマ教皇の位の剥奪を決議し対抗した。

(5) もう一つの原因は、画像問題であつた。イスラム世界に隣接する東方教会は、イスラム

教から画像を用いることを偶像崇拝であると非難された。東方教会は、7世紀末皇帝となったレオ三世の命によって画像を禁止したが、西方教会はこれに従わず、対立してきた。

こうした対立状態の中で、分裂の直接的原因となる出来事が生じた。それは、コンスタンティノポリスの大主教ミカエル・ケルラリオスが、聖餐式にパン種が入っていないパンを用いる西

方教会を非難したことに始まる。ローマ教皇レオ九世は、この論争をおさめようと使節を派遣したが、和解は失敗し、ローマの使節がケルラリオスと東方教会をまず破門し、東方教会もローマ教会に破門を宣告し、分裂に至った。分裂の結果は、東方教会の停滞を生み、西方教会がヨーロッパの主人公として活躍することになった。

第20課 中世の伝道の担い手と伝道地

中世の伝道の担い手

ローマ教皇の首位権が確立していく中世における伝道活動はどのように発展し、教会が進展して行ったのであろうか。

第18課で、8世紀にドイツ伝道がフランク王国の支援のもとにポニファティウスによってなされたことに触れたが、ポニファティウスはイギリス人の修道士であった。彼は単独で伝道に従事したのではなく、仲間の修道士たちと共同で伝道にあたった。最初はフリースランド諸島に伝道を開始したが、挫折。その勇気をローマ教皇に認められてローマに呼び寄せられ、ローマ法を習得した後、伝道司教に任命されドイツ伝道に従事した。このように、修道士たちを用いての組織的伝道がローマ教会によってなされたのである。ポニファティウスはドイツに多くの教会や修道院を設立し、司教区を築いた後に、かつて挫折したフリースランド伝道に従事しそこで殉教を遂げた。開拓伝道の直接的担い手は、修道士たちであった。

北欧の伝道

ローマ教会の成長期である10世紀と11世紀には教会が著しく伸展した時代であった。北欧と東欧にその勢力を拡大したのである。北欧伝道は、コルビーの修道士であるアンスガル(801～865年)や、ハンブルグの大司教ウンニ(在位918～936年)によって開始されたが、急速

な成果をえられず、ゆっくりと進んでいった。

(1) デンマーク伝道

アンスガルやウンニの伝道の後、後継者アデルダク大司教の影響によって国王ハロルド・ブルートゥースが回心し、995年には息子スヴェンも回心し、クヌド一世の時代(在位1015～1035年)になってキリスト教化が完成した。

(2) ノルウェー伝道

この地方にもアンスガルが伝道を開始し、デンマークからも宣教師が派遣されたが、キリスト教化には成功しなかった。100年後のオーラフ一世(在位995～1028年)によって英国から説教家が招かれ、ようやく活動が活発化し、マグヌス1世によりキリスト教化が完成した。

(3) スウェーデン伝道

伝道開始はアンスガルの手によったが、1008年のオーラス・スケットコーヌング王の回心までは、キリスト教が定着するまでには至らなかった。スケットコーヌング王によりようやくキリスト教化が始まった。1075年、後継者による異教の礼拝の禁止令によってキリスト教化が完成した。

(4) ハンガリー伝道

ハンガリーは神聖ローマ帝国の領土の東側に位置し、東西の交通の要所であったため、キリスト教は早くから伝えられていたが、ローマ教会に属するキリスト教化は、ハンガリー王国が成立してその初代の王であるステファヌス一世

(在位 997 ~ 1038) の回心によって実現した。

スラブ人(東欧)の伝道

スラブ人は、ゲルマン民族より遅くヨーロッパに侵入し、彼らが定着したのが、ヨーロッパの東南部(東欧)であった。スラブ人たちに影響を与えたのは、9世紀半ばに活躍した東方教会から派遣されたギリシア人キュリロスとその兄弟メトディオスであった。867年に東西教会が対立し、スラブ世界もブルガリアは東方教会に、モラヴィアはローマ教会にという分裂が生じた。

(1) モラセヴィア伝道

キュリロスとメトディオス兄弟は、分裂のときローマ教会に加わり、メトディオスはモラヴィアの司教に任命された。礼拝にモラヴィアの要素を取り入れ、伝道に成功した。

(2) ブルガリア伝道

9世紀初頭より伝道が開始され、865年にブルガリア公が国民と共に改宗してローマの管轄

に入った。そのために東西教会の争奪的となり、11世紀と12世紀はギリシアの支配下に置かれた。

(3) ボヘミア伝道

同じ頃、ボヘミアはモラヴィアに政治的に接近し、それを通してキリスト教伝道の道が開かれた。その後、ドイツ帝国に接近し、ローマ式の礼拝を捧げるようになり、975年には司教区の設置をしている。

(4) ポーランドの伝道

10世紀の後半、モラヴィアからキリスト教が伝えられ、966年にミエシュコ一世が受洗した。1000年には大主教座が置かれ、ポーランド教会が創立された。

(5) ロシア伝道

ロシアへの伝道は、866年に開始された。ロシア建国の祖であるルヴリクの息子イゴールの妻オルガが957年受洗し、その影響でウラジミール一世が改宗し、国教化へと進展した。こうして東方教会は東欧各地に進展していった。

第21課 教皇権の確立

ローマ教会全盛時代の到来

中世も半ば、1073年にグレゴリウス七世がローマ教皇に就任した。このときから1302年までがローマ教会の全盛時代である。この時代に世俗の権力である王や皇帝との権力闘争がなされたが、最終的にローマ教会が勝利を占め、ローマ教会がすべての教会の首位に立ち、最高の権威を托されていることが認められ、ローマの監督(教皇)を頂上とするピラミット型の教権主義教会が確立した。この課では、そこに至る道程を簡潔に学ぼう。

王権と教権との結びつき

古代末期、西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン諸族の国がヨーロッパに誕生したが、その中でフランク王国が力を持ち、中世に入るとカール

大帝は800年に教皇から戴冠を受け、教会と国家の絆を強くした。この結びつきの背後には、相互が自己の権威をより大きなものとしようという野心が隠されていた。962年には、東フランク王国の王オットー一世が教皇ヨハネス十二世から神聖ローマ帝国の皇帝位を得るための戴冠を受けた。これも教皇側も、皇帝側も自分の権威が相手より高いものであることを示すのに良い機会であると考えての行動であった。王権と教権の結びつきの背後に両者の権威争いが秘められていた。

偽イシドルス教令集の出現

ローマ教会と教皇の権威を最高の権威であると願ったのは、ローマ教皇庁だけではなく、西方教会のある聖職者のグループもそうであっ

た。彼らはカール大帝の死後、帝国が衰退すると教会の中に教会的党派を形成し、ローマ教皇による世界統一と希望の源泉を見出そうとした。教会の統制権は教皇にのみあり、王には自国の聖職者であろうとも任免する権威を持たないと主張した。その代表者がランスの大司教ヒンクマルスで、彼の管区からスペインの有名な大司教インドルスが8世紀に書いたという触れ込みの教令集が公にされた。2世紀から8世紀までの教皇の手紙や教会会議の決議文などが含まれているが、偽作をも含んだ教令集である。初期の教皇たちが最高の権能を持っていることや世俗の統制に従属しないことを補強する目的で編集されたものである。それゆえ、今日では「儀インドルス教令集」と呼ばれるこの教令集が、中世においては、教皇の首位権確立のために用いられ、大きな役割を果たした。

修道院の役割

修道院は伝道と地方の文化的発展のために重要な役割を担ってきたが、教皇の首位権促進のためにも大きな役割を果たした。6世紀の初頭にローマとナポリの間にあるカシノ山に弟子を集めて修道院を設立した西方修道院制度の創設者ベネディクトゥスの精神を継承した修道院が、910年、フランス南部のクリューニーに建設された。ベネディクトゥス派の修道会の精神である「独身」、「清潔」、「服従」の三支柱と、

「祈り」、「労働」を生活の中心とし、その上に詩篇の誦詠、沈黙の遵守、私有財産の放棄、聖職売買の禁止を厳しく守った修道院であり、修道院改革にあたった。

クリューニー精神の政治的実践者

修道院の改革が進むと、931年にはローマ教皇の直接の保護下に置かれ、教皇と密接に結びついた修道会となった。このクリューニー修道院の精神を政治的に生かしてイタリアの国家回復を図った皇帝が出現した。神聖ローマ帝国の初代皇帝オットー一世である。ドイツの王に過ぎなかったオットーはイタリアを支配すると皇帝に即位し、教皇を廃し、自分の腹心を高位聖職者に任命し、国家教会法を制定した。また道徳的な教皇を立てて、皇帝教皇主義に基づいた改革を実行した。オットー一世の後継者たちも同じように皇帝権が教皇権よりも上位にたち、国家をも教会をも支配するとの皇帝教皇主義を継承した。教会は9世紀から10世紀半ばにかけて皇帝の支配のもとに厳しく管理された。

クリューニー精神の教会的実践者の出現

修道院の精神は本来教会の精神的財産である。1073年、クリューニー精神をもって教会の再建をはかり、オットー一世の理念と相対立する「教皇皇帝主義」確立のために戦った教皇グレゴリウス七世が登場した。

第22課 グレゴリウス七世および十字軍

教皇グレゴリウス七世と

皇帝ハインリッヒ四世の対立

グレゴリウス七世の前名はヒルデブランドと言い、ローマの修道院で教育を受けた後グレゴリウス六世に仕え、同教皇が皇帝ハインリッヒ三世によってケルンに追放されると行動を共にした。1049年、新教皇と共にローマに帰ったヒルデブランドは、幾人かの教皇に仕えた。1073

年、教皇アレクサンデル二世の死去によりヒルデブランドが後任教皇に選出され、教皇の首位権確立のために皇帝ハインリッヒ四世と争うことになった。

グレゴリウス七世の二代前の教皇ニコラウス二世によって、皇帝やローマの貴族の干渉を排除する「教皇選出法」が改正されていたが、皇帝ハインリッヒ四世はこの選挙法を無視し、対

立教皇ホノリウス二世を立てて教会に介入した。また、自分の政治的な力が及ぶところでは、皇帝が司教を叙任（任職）していた。グレゴリウス七世は、このような皇帝による教会への介入を排除しようと、まず 1074 年に教皇の命令に違反する者が行なう祭式への禁止令を出し、1075 年には前年の決定に違反したドイツとイタリアの司教たちを免職し、同時に皇帝をも罷免することの出来る教皇の絶対的・普遍的権威を主張する「教皇教書」を作成した。1076 年には、教皇が破門したミラノの顧問官を皇帝が退けなかった不服従の罪で、皇帝ハインリッヒ四世に皇帝廃位の手紙を送った。皇帝はドイツ国内の教会に教会会議の招集し教皇に対抗しようとしたが、司教たちの多くは参加せず、逆にドイツの諸侯たちと教皇の特使は皇帝についての教会裁判を翌年に開催することを要求した。

そのため、皇帝は自らの不利を悟り、教会会議が開催される前にグレゴリウス七世の赦免を求める決意をした。このころ教皇はアウグスブルクに向かうためにローマを出立してアペニン山脈の北端にある要塞カノッサ城に入っていた。皇帝は僅かの身内と従者を連れて 12 月の厳寒の中、アルプスを越えてカノッサ滞在の教皇を訪れ、面会を拒絶する教皇に裸足で三日間、赦しを求めて立ち尽くした。教皇は 1077 年 1 月 28 日になって破門を解き、教皇の首位権を認める誓約書を提出させ、教皇皇帝主義を勝利に導いた。

叙任権問題の解決は、1123 年のヴォルムスの会議で、教会が教会法に従って司教や修道院長を選出し、論争が生じた場合には皇帝が管区の司教たちと相談して決定するとの「ヴォルムスの協約」が結ばれて決着をみた。

十字軍と教会

ローマ教会の全盛期にローマの権威を高める一大イベントである十字軍が、教皇庁主導によって起こされた。十字軍が起こった一つの原因は、11 世紀の経済的状况にある。空前の飢饉に見舞われ、ヨーロッパは経済的危機を乗り越えようと願っていた。これに加えて宗教的原因もあった。638 年に、イスラム教によってエルサレムは占領されたが、それ以後もエルサレムへのキリスト者の巡礼は認められてきた。ところが 1071 年以降、セルジューク・トルコによるエルサレム支配以後は、巡礼が出来なくなった。そのため、領土拡大欲、冒険好み、宗教的憎悪なども絡み合いながら、聖地回復への宗教的熱情が十字軍遠征の実現を可能にした。

十字軍の遠征の発端は、東ローマの皇帝アレキシウス一世がだした教皇ウルヴァヌス二世への援助要請であった。トルコ軍がニカイアにまで進出し、首都コンスタンティノポリスが危険にさらされたからである。援助要請を受けた教皇は、1095 年 3 月、北イタリアのピアチェンツァ教会会議で援助を約束し、11 月には東フランスのクレルモントの教会会議で「聖地エルサレムを異教徒の手から開放せよ」と熱烈に訴え、十字軍宣言をくだった。全キリスト教世界がこれに参加するように要請し、参加者には多くの免償（犯した罪の償い）を約束した。こうして、1096 年から 1291 年までの 200 年間に、8 回の聖地回復の十字軍を派遣した。

1096 年に開始された第一回十字軍はエルサレム王国を建設し、1228 年に始まった第六回十字軍はエジプトとの条約を結び、聖地への通路を確保したが、その他の十字軍は敗北したり、内部分裂を起こしたり、東ローマ帝国を略奪してこれを弱体したりと、失敗に終わった。十字軍は、一時期、教皇権確立に役立ったが、福音の恩恵性を希薄化し、教会の墮落を促進した。

第23課 教皇庁のバビロン捕囚

ローマ教会の衰退時代の到来

グレゴリウス七世から始まったローマ教会の全盛時代は、インノケンティウス三世（在位1198～1216年）において頂点に達した後、およそ100年間、祭司の族閥主義や聖職売買、酔酒や信徒の侮蔑などを繰り返して、国々の主権者たちの支持を失い、ローマ教会の衰退時代へと進んだ。教皇庁の墮落は、王権の回復の機会であり、教皇皇帝主義を廃止し、教権に対する王権の反撃を招いた。

教皇ボニファティウス八世と

フランス王フィリップス四世の対立

ローマ教会の衰退が進み、ローマ教皇ボニファティウス八世（在位1294～1303年）の時代には教皇権のどん底の時代になった。彼は非常に多才な人物であったが、世俗欲も旺盛で自分に反対する勢力を教皇庁より追放し、教皇を軽んじるハンガリーやポーランドなどの王たちを追放した。また、フランスとイギリスの対立の調停に当たるなど教皇権を高めようとしたが、王たちは教皇の介入を歓迎しなかった。

特にフランス王フィリップス四世との抗争は激しかった。フィリップス四世は、イギリスとの戦いを遂行するために国内の聖職者たちに課税した。そこで1296年、教皇は聖職者が現世の主権者に税を支払うことを禁じ、従わない者には破門を命じる「告書」を布告したが、フィリップス四世のみならず、イギリス国王エドワード一世もこれに従わなかった。フィリップス四世はイタリアへの金銭搬出を禁じる報復手段をもってこれに応えた。さらに1301年に教皇が王の悔い改めを求めた「回勅」を発し、フランスに使節を送ると彼らを反逆罪で逮捕した。教皇もフィリップス王をローマに召還して釈明を求めたが出頭せず、逆にフィリップはフランス立法部（三部会）を招集し、王の支持を決議さ

せ、徹底抗戦の姿勢を示した。

ローマ教皇は、「大勅令」を發布して教皇権の至上性を主張したが、教皇庁の権威は失墜して支持者は少なく、軍隊の力をもってその勅令を無視され、ついに1303年、フィリップ四世によって捕えられ、投獄の憂き目にあった。短期間で釈放されたが、ほどなく命を失った。200年前になされたグレゴリウス七世と皇帝ハインリッヒ四世との教皇権と王権の首位権論争とは正反対の結末を迎え、「皇帝教皇主義」が復活した。

教皇庁のバビロン捕囚(アヴィニョンへの移動)

ボニファティウス八世の後にはベネディクトゥス十一世が教皇となったが、フィリップス四世の破門を解き、フランスに対抗することを中止して、教皇庁の一定の権威を保持したが、一年たらずで急死を遂げた。

次に教皇となったクレメンス五世はフランスのポルドオの大司教であったが、フランスの国王フィリップス四世と枢機卿によって教皇に選出されたため、フィリップス四世の言いなりになり、これまでフィリップス四世に向けられた教皇文書をすべて取り消し、1309年には教皇庁をローマからフランス領アヴィニョンに移した。宗教改革者マルティン・ルターはこのアヴィニョンへの教皇庁の移住を旧約聖書のユダヤ人の捕囚になぞらえ「教皇庁のバビロン捕囚」と呼んでいる。約70年間（1309～1377年）もの期間、教皇権は王権によって制限され、支配を受けて、教皇はアヴィニョンに留まった。この期間に7人の教皇が立ち、7人目の教皇グレゴリウス十一世の時代に、イタリアのドミニコ会修道女であった聖カタリナが教皇にローマに帰ってくることを勧め、教皇グレゴリウス十一世はフランス人たちの反対を押し切ってローマに帰り、バビロン捕囚が終わった。

対立教皇時代(1378~1417年)

ローマ帰国後1年で、グレゴリウス十一世は逝去した。後継者にイタリア人の大司教ウルヴァヌス六世が教皇となったが、フランス人の枢機卿たちを抜きにしての選出であったため、選挙の無効が叫ばれた。選挙の無効を主張する

枢機卿たちは枢機卿の一人ジュネーブのローベールを教皇に選出してクレメンス七世と呼び、アヴィニョンに住まいを設けたので、ローマとアヴィニョンにそれぞれ対立する教皇が40年間にわたって存在した。教皇の分裂は教会の分裂であり、ローマ教会の体制と信仰の弱体化をますます促進することとなった。

第24課 ローマ教会内の改革運動

ローマ教会改革に立ち上がった公会議運動

教皇庁の墮落ぶりに対立する二人の教皇が競い合うことは、民衆の肩には重い課税となつてのしかかった。長年にわたって魂と生活を守ってきた教皇庁にもはや期待することができないと考えた人々は、バリ大学を中心に教会と教皇庁とを区別し、教会改革を呼び始めた。その声は次第に同調者を得、各地の教育機関に広がり、枢機卿たちも次第に目覚めてきた。教会改革の中心的役割を果たしたのは、ドミニコ会士で神学者ピエール・ド・ラ・バリユ(1227~1342年)、アイイ・ピエール・ド(1350~1420年)とその後継者ジェルソン・ジャン・ル・シャルリエ・ド(1363~1429年)などで、いずれも聖職者であり、また大学の教授たちであった。

彼らは、教会の権威は、教会が開催する「公会議」にあり、教皇であっても公会議の決定に服従すべきであるとの原理を示し、これをもって改革を推進するべきであると主張した。やがてその主張が力を得て、三度の公会議を開催し、教皇の並立問題の解決をはかった。

ピザ公会議(1409年)

当時、アヴィニョン系の教皇としてベネディクトゥス十三世が、またローマ系の教皇にはグレゴリウス十二世が選ばれていたが、アイイとジェルソンの呼びかけに応じた枢機卿たちは、北イタリアのピザで公会議を開いた。二人の教皇を廃し、新しい教皇アレクサンデル五世を選

出し、公会議の権威を示した。残念ながら二人の教皇は出席せず、また教皇職を辞退しなかったため三人の教皇がいることになった。したがって、一人の教皇による教会統治問題の解決は先延ばしになった。

コンスタンツ公会議(1414~1415年)

1410年神聖ローマ帝国の皇帝に即位したジーギスムントは公会議の必要を覚えると共に、アレクザンデル五世の後継者として選出されたヨハネス二十三世を教皇として承認し、教皇と共にコンスタンツに公会議を開催した。皇帝はジェルソンたちと共にこの会議の指導にあたった。会議は、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペインの五カ国の代表者による投票という形式を採用し、まず、公会議が教会の正当なる代表者であり、教皇といえども服従すべきである原則を承認し、続いて三人の教皇を全員退位させることを決定した。

この決議に、グレゴリウス十二世は従ったが、最初賛成していたヨハネス二十三世は1415年に逃亡して態度を翻したため廃位させられ、ベネディクトゥス十三世も従わなかったため1417年に教皇位を剥奪された。その後、会議は新しい教皇マルティヌス五世を選出して統一教皇とし、教皇庁分裂の幕を閉じた。こうして教皇の絶対君主制から立憲君主制への方向を示したのである。

なお、コンスタンツ公会議は、このほかに教

会改革の実を得るために、聖職売買の禁止、教皇の課税の制限、聖職者給与の兼併の禁止、異端問題の処理などを決議した。ボヘミアの改革者フスを火刑に処する決議がなされたのもこの会議においてであった。

バーゼル公会議(1431~1449年)

新たに選出された教皇マルティヌス五世は、公会議を教皇の対立関係にあるものと受け止め、公会議開催を引き伸ばすうちに死去し、エウゲニウス四世が選出され、彼のもとでバーゼル公会議が開催されることになった。教会の悪癖の除去と教会改革に取り組み始めたのであるが、教皇と公会議の権威の優位問題で2年間を費やし、審議に入れなかった。1436年になって、コンスタンツ公会議の結果の再確認を会議は決議したが、教皇はこれを拒否し対立は継続

した。

その頃、東方教会からローマ教会との一致合同への呼びかけがあったことを口実にして、教皇は1438年ギリシアに近いフェルラーラに会議を移し、1439年には、フィレンツェに移動し、最後は、1443年ローマに移動して合同問題の解決を図ろうとした。1439年7月に合同協定は結んだものの、コンスタンティノポリスがトルコ軍によって占領されたため、教会合同は実現を見なかった。

また、この会議で、ローマ教会の礼典が七つであることが公に承認された。

他方、公会議派の人々は、バーゼルにとどまり、1439年フェリックス五世を教皇に選んだが、教会からの承認を得られず、公会議派の勢力は次第に衰え、1449年会議を開会し、目指した立憲教皇制の理想は実現しなかった。

第25課 教会の衰退と社会的変化

教会改革の挫折は、ローマ教会の衰退を早める原因の一つとなった。古代教会の急速な進展に幾つかの外的条件があったように、ローマ教会の衰退と中世の終焉、また宗教改革時代招来のためにも外的条件が備えられていた。その外的条件は、「ルネサンスと国家意識」である。

ルネサンスの発生

ローマ教皇庁がアヴィニオン移転や対立教皇の並立、さらに公会議派との抗争などによって弱体化しつつある時代に、一般社会では新しい知的活動の時代を迎えつつあった。その知的活動を文芸復興(ルネサンス)と呼ぶ。ルネサンス運動は人間復興の運動でもあり、現世の生活や美や満足を追及する知的活動である。教会が神の栄光と永遠の世界についての追求という宗教的活動を目指しているのとは対称的である。

これまで人心を統御していたローマ教皇庁の力が、アヴィニオン移転によりイタリアで弱く

なったこと、十字軍によってローマ世界以外の文化に刺激されたこと、また、イタリアはどの国よりも商業が発達し、十字軍終了後も海外との交流が盛んで、文化的発展を遂げたことなどの理由によって、ルネサンスはイタリアで発祥した。特にフィレンツェを中心に、多くの文化人たちが現われ、発展していった。「神曲」を書いたダンテ(1265~1321年)、ルネサンスの担い手と言われるペトラルカ(1304~74年)とボッカチオ(1313~75年)などが有名であるが、ラテン文学や古典ギリシア語の学習をなし、古典を学ぶことに熱心を示した。また、ヘブライ語の研究を研究する者、新約聖書を原典で読み、ラテン語聖書と比較研究をする学者たちも現われた。

ルネサンスの教皇庁への影響

教会ははじめこの運動に批判的であったが、1447年に教皇となったニコラウス五世はロー

マにヴァチカン図書館を建設し、ルネサンス運動の保護者となった。それ以来、無関心な教皇もいたが、ルネサンスの果実を取り入れ政治的野心遂行の手段とするようになった。教皇たちは、教皇庁の権威を高めるために、芸術家や建築家を保護し、見えない神の完全さを地上に具象化しようとした。このような流れの中からメディチ家一門から教皇となったレオ十世（在位1513～25年）がピエートロ大聖堂の大修復のために贖宥状を認可し、宗教改革を誘発した。

宗教改革への布石

ルネサンスはやがてアルプスを越えた北部にも影響を及ぼし、ドイツでは15世紀半ばにルネサンスが紹介され、古典語学を吸収し、ヘブライ語旧約聖書やギリシア語が学ばれ、歴史学や文献学も研究されるようになった。キリスト教の宗教生活の改革や浄化のために用いられた。英国ではジョン・コレット（1466～1519年）がギリシア語を習得してイタリアから帰国し、聖書を学ぶことを勧め、初代教会に帰ることを訴えた。フランスではジャック・ルフェーブル・デターブルが聖書の文法的解釈を採用し、神の自由な賜物としての教いの教理を説いた。

た。彼の弟子に、カルヴァンをジュネーブに引き止めたギヨーム・ファールルがいた。

国家意識の覚醒

ローマ教会衰退のもう一つの原因は、諸国の民族国家意識が強化したことであった。フランスと英国との長期戦争（1339～1453年）により、国内の中央集権的力をもつ王を出現させ、互いに勝利を得ようとした。フランスではフランソワ一世、英国ではヘンリー七世と八世がその代表者である。スペインでも13世紀には四つのキリスト教王国があったが、15世紀の半ばにその中のアンゴラ王国のフェルナンド五世はカスティーリヤ王国との結婚関係によって王権を強化し、イスラム教国グラナダを征服して統一王国の王となった。彼の死後、オーストリアとネーデルランドの相続人であった孫が王位についてカール五世（1516年即位）となった。カール五世はドイツを強化した神聖ローマ帝国皇帝マクシミリアン一世が死ぬと神聖ローマ帝国の皇帝（即位1519年）に選ばれ、強力な王権を手に入れた。このように王権を強化しようとの民族国家意識の覚醒は、教会の権威の強敵となり、弱体化を促進する原因となった。

日曜学校 2002年度カリキュラム (2002年7～9月分)

2年サイクル第2年 (子どもカテキズム問 34～85)

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
単 元 の 目 標			
7月7日	第一戒 神を神とする	問 43,44	ウ小教 45-48、ハイデ 94,95
		マタイ 4:1-11	出エジプト 20:3
神を神とする戦いに勝利された主イエスを仰ぎ、神の御前に生きる幸いに招く			
14日	第二戒 刻んだ像	問 45,46	ウ小教 49-52、ハイデ 96-98
		ヨハネ 2:13-22	出エジプト 20:4a
刻んだ像を用いることはもちろん、内なる偶像礼拝を斥ける。正しい神礼拝			
21日	第三戒 神の御名	問 47,48	ウ小教 53-56、ハイデ 99-102
		使徒言行録 3:1-10	出エジプト 20:7a
主イエス・キリストの御名を用いて礼拝し、神を讃美する使徒の姿に倣う			
28日	第四戒 主の日の安息	問 49,50	ウ小教 57-62、ハイデ 103
		ルカ 6:1-11	出エジプト 20:8
主イエス・キリストを礼拝する主の日の喜びとその安息を分かち合う			
8月4日	第五戒 父母を敬う	問 51,52	ウ小教 63-66、ハイデ 104
		エフェソ 6:1-3	出エジプト 20:12a
与えられた人間関係を神の恵みとして受け入れる心を養う			
11日	第六戒 殺人の禁止	問 53,54	ウ小教 67-69、ハイデ 105-107
		創世記 1:20-31	出エジプト 20:13
生命の主なる神を示し、殺してはならない理由と生命の尊厳を学ぶ			
18日	第七戒 姦淫の禁止	問 55,56	ウ小教 70-72、ハイデ 108-109
		創世記 2:18-25	出エジプト 20:14
生命と性の関わり、性の尊さ、結婚の神聖を学ぶ。キリスト教「性教育」			
25日	第八戒 盗みの禁止	問 57,58	ウ小教 73-75、ハイデ 110-111
		マタイ 25:14-30	出エジプト 20:15
私たちのすべてが神さまから与えられたものである。どん欲や浪費が禁止される			
9月1日	第九戒 偽りの禁止	問 59, 60	ウ小教 76-78、ハイデ 112
		マタイ 26:69-75	出エジプト 20:16
神の真実の愛に応じて、私たちも隣人に誠実を尽くして歩む			
8日	第十戒 むさぼりの禁止	問 61,62	ウ小教 79-81、ハイデ 113
		エフェソ 4:28-29	出エジプト 20:17a
むさぼりは偶像礼拝である。自分に与えられたものを分かち合う心を養う			
15日 敬老の日	神の掟を喜ぶ生活	問 63	ハイデ 86, 90
		テトス 2:11-15	テトス 2:14
キリストの贖罪によって善い行いに熱心な民とされていることを確信し、励む			
22日	律法に背く人間	問 64	ウ小教 82、ハイデ 114
		ローマ 7:13-25	ローマ 7:19
私たちが罪人であることをあらためて示し、救い主を仰ぐことへ導く			
29日	十戒の完成者キリスト	問 64	ウ小教 85,86、ハイデ 114,115
		ローマ 8:1-11	ローマ 8:1
神の民の罪を償い、霊の生命をお与えくださる主イエスを信じる幸いに生きる			

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

テキスト マタイによる福音書 4章1～11節

イエス様が荒れ野で悪魔から誘惑を受ける箇所です。イエス様は誘惑に対して神の御言葉によって対抗し勝利されました。

(1) 荒れ野での誘惑

ヨルダン川でヨハネから洗礼を受け、荒れ野で悪魔から誘惑を受けます。それからイエス様のガリラヤ伝道が開始されていますから、荒れ野での悪魔の誘惑に打ち勝つことはイエス様がメシヤとしての働きを開始される上での大切な準備だったと言えます。

悪魔は「神の子なら」と言ってイエス様を誘惑します。これは「もしも神の子であるならば？」という仮定ではなく、「神の子であるのだから」という意味です。イエス様はこの悪魔の誘惑にメシヤ神の子としての神通力や御自身の権威を用いることなく、むしろ父のみ言葉を持って誘惑を退けています。「神の子であるのだから」と言われれば当然自分の立場と力を用いたくなるのですが、イエス様は父の御言葉をもって対抗し悪魔の誘惑に勝利されました。

そもそもイエス様がヨハネから洗礼受けることもヨハネ自身が「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに」(14節)と言っているように神の子であるイエス様にとって必要のないことですが、イエス様が「我々にとって」と言うておられるように「暗闇に住む民」の「光」となるためにイエス様は我々の一人となって洗礼を受けられたのでした。同様に悪魔の誘惑に打ち勝つのも、イエス様ご自身の権威や力を用いることなく父の御言葉をもって打ち勝たれたのは私たちの一人として勝利するためであります。人は蛇の誘惑によって墮落しましたが、その墮落から人が救われるのは、私たちの一人となって洗礼を受け誘惑に

打ち勝たれたイエス様によってなのです。(ローマ5章18～19節参照)

このような悪魔による誘惑は伝道開始前の準備の時だけではなく、イエス様がメシヤとして道を歩まれる中で何度となく繰り返されます。16章23節、27章40節「神の子なら、自分を救ってみろ。」など。

(2) 悪魔の誘惑

特に最初の荒れ野では三つの誘いかけが記されています。

①四十日にわたる断食後のパンの誘惑は命の源である神からの離反を求めるものでした。イエス様は申命記8章3節の御言葉をもって対抗し、命の根源となっている神の御言葉とその御言葉への従順を主張されました。

②聖なる都の神殿の屋根での誘惑は詩編91編11～12節の御言葉をもってなされました。神を信じ神に従う者の道を神が守ってくださるという詩編の御言葉を、聖なる都のそれも神殿の屋根で見せてみるという誘惑でした。イエス様は申命記6章16節を引用して、神を疑ってかかる神への守護信仰の愚かさを戒めて、神への信頼を捨てませんでした。

③高い山から全世界の繁栄を見せてその譲渡を約束する誘惑は「わたしを拝むなら」の条件付きでした。イエス様はまたもや申命記6章13節の御言葉をもって誘惑を退けます。神の導きによる繁栄と祝福を受ける中で神を忘れないように、むしろその恵みを一層に覚えて主に仕えよとの主の御言葉をもって勝利されました。

どれもこれも主なる神への信頼を疑わせ、不信へ誘うものとなっていることが特徴です。

カテキズム

子どもカテキズム 問43, 44

ウェストミンスター小教理問答 問45 ~ 48

子どもカテキズム

問43 第一戒は何ですか。

答 「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない、です。

問44 第一戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 私たちの眞の神さまだけを心から礼拝しなければならない、ということです。これがもっとも大切な戒めです。ですから、私たちは喜んで礼拝をささげます。

ウェストミンスター小教理問答

問46 第一戒では、何が求められていますか。

答 第一戒は、神がただひとりのまことの神であり、わたしたちの神であることを知り認めること、また、それにふさわしく神を礼拝し、あがめることを求めています。

問47 第一戒では、何が禁じられていますか。

答 第一戒は次のことを禁じています。すなわち、まことの神を、神であること、また、わたしたちの神であることを拒み、礼拝せず、あがめないことを禁じています。また、神にだけささげなければならない礼拝と栄光を、他のものにささげることを禁じています。

〈神と神の民の契約関係〉

第一戒は十戒の土台となる御言葉です。「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」(出エジプト 20:3)。「わたしをおいてほかに」とは、たいへん興味深い表現です。「私を差し置いてほかに」という意味なのです。すなわち、唯一の生けるまことの神、あなたがたイスラエルの民をエジプトから導き出した神であるこの「私を差し置いて」、あなたにほかの神があるはずがないではないか、ということです。

ですから、これは、他の神々の存在そのものを直接否定するのではなく、贖い主なる神と神の民とされたイスラエルとの、愛情の確認にほかなりません。「私を愛して神とするか」と問われて、贖い主なる神との契約に入れられたイスラエルの民の立場が確認されるのです。神とイスラエルの民との人格的な関係の確立の宣言と言うことができます。この人格的な関係において、神の民には、ほかのすべての神を拒み、贖い主なる神お一人を神とすることが求められます。

〈神を神とする、礼拝の対象〉

神の民とされた私たちは、生けるまことの神お一人を神とし、このお方を心から礼拝します。私

たちの礼拝の対象は、主イエス・キリストの父なる神であり、三位一体の御神です。

そのために、生けるまことの神を正しく知ることが大切です。神の御言葉や教理を学んで、神を正しく知ることが心げきましょう。礼拝の説教に熱心に耳を傾けましょう。そして、喜びをもって心から神を礼拝します。また、神を礼拝するとは、主の日の礼拝だけではなく、日々の生活の中で神を喜び、ほめたたえることでもあります。私たちは、生けるまことの神にのみ信頼し、依り頼み、従い、神の栄光をあらわして歩みます。

〈偽りの神々の拒否〉

それはもう一方で、あらゆる偽りの神々を斥けることにほかなりません。私たち自身の内にも外にも、あらゆる偽りの神々が満ちています。自分自身が神となり、またお金や名誉、会社や学校が神となり、私たちは何ものかを神とし、絶対化して依り頼まずにはおられません。しかし、絶対的なお方は、生けるまことの神お一人です。第一戒は、神以外の何ものをも絶対化することの危険性を指摘し、神以外のすべてを相対化します。あらゆる偶像礼拝が禁止されます。栄光はただ唯一の生けるまことの神にのみ捧げられるべきです。

テキスト マタイによる福音書 4章1～11節
 カテキズム 子どもカテキズム 問43,44

「神を神とする」

〔単元のねらい〕

第6号は、十戒本文を取り扱う。十戒を学ぶこの三ヶ月の子どもの礼拝式が、福音の光が射し込む、喜びの礼拝式となるように祈りたい。それは、十戒をどのように理解するのかにかかっている。教師自身が、十戒を「愛の言葉」として受け入れているかどうかが反映されよう。神の私どもへの熱愛によってほとばしり出た言葉、命の言葉、祝福の言葉として唱えることができるように。それに失敗すれば、子ども達が日曜学校を離れる危険性が大きい事をも思い、緊張して執筆に臨んでいる。皆様も、愛と喜び、自由の言葉として語れるよう、祈り、学んで豊かに備えて臨まれない。この掟こそが、我々を神と人との前に、地上の生にあって、健やかに歩ませる自由の道標となる。本日は、荒れ野の誘惑に勝利された主イエス・キリストの物語から、十戒の完成者、十戒の成就者なる主イエスを仰ぐ。問64を視野に入れながら、語ることとなろう。そして、ここでも問1で明らかにした人生の目的が神礼拝に極まる事をも語りたい。十戒に導かれて、喜びの神礼拝を！

今読んだお話は、イエスさまが救い主としての働きをなさるその一番初めの頃のお話です。

イエスさまは、聖霊なる神さまに導かれてある所へ行きました。神さまはどんな景敵な場所に、神さまの御子のイエスさまを連れて行かれたのでしょうか。ところが、聖霊なる神さまが連れて行かれたのは、荒れ野です。砂漠です。食べるものはありません。ところがイエスさまはそのような神さまの導きを心からお受け入れになられて、進んで行かれたのです。そして、イエスさまは、その荒れ野で40日間お過ごしになられました。

荒れ野での40日間。友達遊びに来てくれて遊んだり、食べたり飲んだりしてとても楽しいときを過ごされたのでしょうか。違います。イエスさまは、水だけは飲まれますが、食べることを全部やめておしまいになったのです。あるお医者さんは、人間はどんなに頑張っても、40日間以上、何も食べなかつたら死んでしまうと言っています。ですから、イエスさまは今、もう少しで死んでしまう、お腹と背中がくっついてしまうようなギリギリの状態なのです。

なぜ、そんなことをなさっておられるのでしょうか。悪魔から誘惑を受けるためなのです。なぜ

40日なのでしょう。生きられるギリギリが40日だからなのですが、それだけではありません。昔、イスラエルの人々は、エジプトで奴隷とされていきました。けれどもそこから、神さまによって、救い出されて、荒野で40年間過ごしたのでした。その40年間、イスラエルの人たちは神さまに、文句ばかりを言って、不信仰の罪を繰り返してしまいました。神さまの御心を悲しませ続けていたのです。イエスさまは、ここで悪魔と戦って、勝利されることによって、悪魔と罪に負けてしまったイスラエルの歴史、真っ黒な昔を真っ白に塗り替えようとなさっておられるのです。僕たち私たちを救うためなのです。

40日が終わって、もう死んでしまう・・・というような、その時です。悪魔がやって来ます。「イエスさま、あなたは神の子でしょう。目の前にある石をパンになるように命じてください。そんなこと、簡単でしょう。」イエスさまは、仰いました。「聖書にこう書いてあるのです。人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」

次に、悪魔はイエスさまをエルサレムの神殿の屋根に連れて行き、言いました。「あなたは、本当に神の子なのですか。さあ、神の子なら、ここ

から飛び降りて御覧なさい。聖書の言葉にありますよ。天使があなたの足を守ると。」イエスさまはまた仰いました。「聖書には、あなたの神である主を試してはならないとも書いてある。」悪魔はイエスさまを誘惑するたびに、負けてしまいました。そして、最後に、イエスさまを高い山に連れてゆかれ、世界中の国々の豊かさ、その宝物を見せられました。最後の最大の誘惑、攻撃をしかけます「もし、ひれ伏して私を拜むなら、これをみんな与えてあげます。」悪魔は、人間が一番弱いのは、どこまでも自分自身を大きくしよう、もっともっとたくさんのもを集めよう。自分が一番大切。そんな気持ちに傾く事を知っています。悪魔はそこを攻めてくるのです。神さまから僕たち私たちを引き離すためなら、どんなことでもしようとしませう。もちろん、世界にあるすべての宝物を悪魔が持っているわけではありません。世界とそこにあるものは神さまのもです。悪魔は、僕たち私たちを神さまに反抗させよう、逆らわせようとするのです。

イエスさまはお腹がすいて死にそうです。けれども、きっぱり命令されました。「退け、サタン、悪魔よ。神様の聖書にこう書いてある。これこそ、人間の一番大切な第一の戒めなのだ。『あなたの神である主を拜み、ただ主に仕えよ。』」こうし

て悪魔は、もう、これ以上誘惑しても勝てない事を知って、イエスさまから離れて行きました。

このことから分かる事は、イエスさまは、僕たち私たちの代わりに、もう既に、十戒の全てを実行して下さったということです。人となられたイエスさまは、僕たち私たちの代表者となって、神さまの十戒、掟の全てをお守りになられました。だから、僕たち私たちが、どんなに、失敗しても、悪魔の誘惑に負けてしまっても、イエスさまを信じていれば、イエスさまを礼拝していれば、悪魔の子どもになることは決してありません。大丈夫です。イエスさまのおかげで神さまの子、光の子なのです。

みんなの中にこんな風を考えるお友達はいませんか。「先生、だったら、僕たち私たちは、もう努力もしなくても大丈夫ですね。」先生は、こんなに僕たち私たちのために戦ってくださったイエスさまを信じているので、先生も、神様を第一にするために戦おうと思います。このイエスさまだけを礼拝するために、できる限りのことをしたいのです。皆も、同じでしょう。これからも、皆で、神さまだけを礼拝しましょう。神さまを第一にできるように、日曜日を休まずにイエスさまを礼拝しましょう。

今週の暗唱聖句

あなたは、わたしをおいてほかに神があつてはならない。

出エジプト記 20章3節

〈目標〉

十戒の学びに入る。「愛の言葉」として受け入れていきたい。神を第一としよう。

〈ミニ・ストーリー〉

日曜日の朝は、ゆうじくんの好きなテレビ番組がいっぱい。今日もゆうじくんは起きてすぐテレビのスイッチを入れました。いつもは、いつまでもパジャマのまま、朝ごはんも「早く食べちゃいなさい」とママに言われてもゆっくりだったゆうじくん。でも今日はいつもとちがいます。どうしてかって？ それは、昨日幼稚園のお友達のおやくんが「あした日曜学校に行こうよ。迎えに行くから待っててね」って言っていたから。初めての日曜学校に、ゆうじくんはドキドキでした。見たかったテレビもパチンとスイッチを切って、おやくんの来るのを待ちました。

日曜学校は近くの教会でした。大きなお姉さんや赤ちゃんもいて、みんなニコニコ、笑顔が素敵でした。ゆうじくんは、神様のお話を聞いて、一緒に賛美歌を歌って、心がホカホカしました。よくんがいつも優しくしてくれて、お友達と仲良く遊べる理由が少しわかったような気がしました。

「ゆうじくんが、次の日曜日にまた教会へ来れるようにみんなでお祈りしてるよ」と先生に言われて、ゆうじくんははっとしました。「またテレビ見れない？」 ううん、日曜学校に来よう。イエスさまがボクを待っていてくれるんだ。来週もテレビより日曜学校だ。よくんと家に帰りながら、ゆうじくんは思いました。

セミがみーんみーんと鳴いてゆうじくんを応援します。

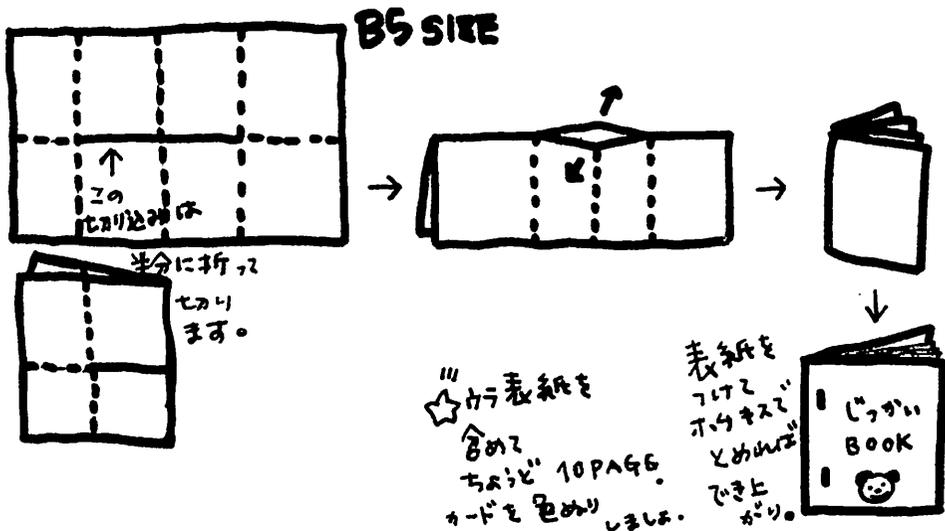
〈十戒BOOK〉

ページをご覧ください

○ページの十戒カードを色画用紙にコピーし、切っておきます。

時間のゆとりがあり、年齢的に切れる子ばかりなら自分たちで切らせてもよいでしょう。

○十戒BOOKを作りましょう。



〈折り〉

ただお一人の神様を、喜んで礼拝出来ることもでいさせてください。アーメン。

〈目標〉

主イエスこそ、神の戒めの完成者であり、イエスを信頼する私たちは、神を礼拝する喜びと自由が約束されていること。

〈礼拝説教を振り返る〉

イエスさまは、荒野で40日ものあいだ、断食されました。一回でも食事をぬいたことがありますか。おなかがすいた時のことを、みんなも想像してみよう。イエスさまはどんなに苦しかったでしょう。

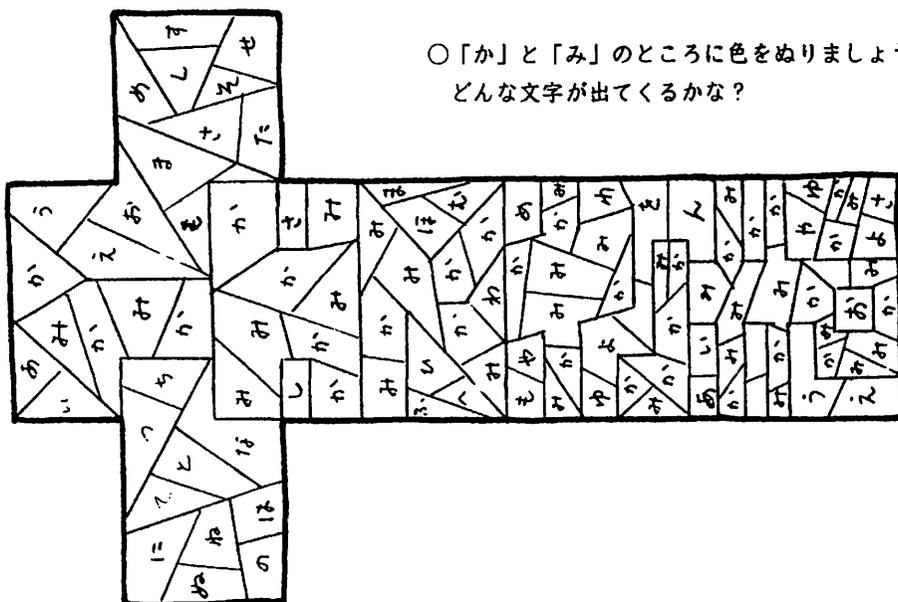
そんなイエスさまを、悪魔は誘惑したのです。「無理して神さまにしたがうより、もっと楽なことを考えよう」「天使があなたを守ってくれることをためしてみよう」「わたしを拜んでごらん、世界中のたからをあげるから」。

イエスさまは、ぜんぶの誘惑を、きっぱりしりぞけました。「神さまがいなのにも、拜まない。そんなことをするぐらいなら、命を失ってもよい」。

イエスさまは、もう完全に悪魔の誘いに勝って、私たちに代わって、神さまのみことばを守ってくださったのです。

〈祈りましょう〉

めぐみの神様
 明るく照りつける太陽を感謝します
 かわいた土をしめらせる雨を感謝します
 私たちのいのりを
 きょうも聞いてくださり
 感謝します
 本当の神様がいてくださり
 私たちはしあわせです
 とくどき神様を忘れてしまいます
 私たちの罪をゆるしてください
 悪魔の誘惑にイエス様が
 勝たれました
 イエス様の強い手で
 私たちを支えてください
 イエス様がいつしよなら
 なにもこわくありません
 イエス様のお名前によって
 アーメン



○「か」と「み」のところに色をぬりましょう。
 どんな文字が出てくるかな？

7月7日 「第一戒 神を神とする」 小学科中級 分級教案

〈目標〉

荒野の誘惑の物語を通して、神を神とすることがどういうことであるかを具体的に学ぶ。

〈指導上の心得〉

唯一絶対の神への信仰と、御言葉によって悪魔の誘惑に勝利していくよう導く。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・イエス様がどんな誘惑を受けられたか、そのポイントは何か、どのようにして誘惑に対抗されたかをみんなで話し合ってみましょう。
- ・物語の背景にある悪魔の誘惑のねらい-神への疑惑-に対し、唯一絶対の神への信頼を持つためにはどうしたらよいかを考えてみよう。
- ・神を神とすることは、神を正しく礼拝すること、日常起こる様々な誘惑に対し、まことの神への礼拝と御言葉により勝利するよう導きたい。

〈ワーク〉

1. イエス様が三回誘惑に会われたとき、それぞれどのように答えられたか書いてみましょう
(一回目)
(二回目)
(三回目)
2. 私たちの信じている神様はどのような神様でしょうか。
 - a) 私たちを愛し、私たちを守って下さる生きている神様。
 - b) 自分では何も出来ない、人間が考え出した死んでいる神様。
3. 神様は何人いらっしゃるのでしょうか。

〈答え〉

1. マタイ 4:1-11 を参照 2. a)
3. 生ける真の神様ただお一人です

7月7日 「第一戒 神を神とする」 小学科上級 分級教案

〈目標〉 十戒の土台となる第一戒。救われた神の民として唯一まことの神を正しく知ろう。

〈指導上の心得〉

イエスの姿を通して、父なる唯一のまことの神への全き従順と信頼。父なる神から子とされた神の民として、他の全ての神を拒み、贖い主なる神おひとり神とすることが求められている。

〈展開例〉

1. 6月23日に作成した十戒板を使い、三ヶ月継続して十戒を覚えよう。

- (1) 毎週全文を唱和。一戒ずつ暗記。
- (2) 分級の最後にカテキズムを唱和し、定着を図る。

2. 聖書を聞いてみよう。

- (1) 三回とも父なる神の御言葉をもって誘惑に打ち勝つ。

① 40日の断食後のパン → 申 8:3b → 御言葉への従順

② 御言葉 詩 91:11 ~ 12 → 申 6:16 → 神への信頼

③ 神から離れ悪魔を拝め → 申 6:13 → 主を畏れ、主にのみ仕えよ。

(2) 「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」の「主なる神」がまことの神。神に導き出された神の民にとって、この神をおいて他に神があるはずがない。イエスは人が受ける試みを自らも受けることにより、真の救い主となってくれた。

(3) 悪魔の誘惑は、色々な方法で、いつでも、どこでも私達をねらっている。だからまことの神にのみ従おう。

(4) 讚美「まことの神さま」(『ふくいんこどもさんびか』67番) マーチ行進しながら歌う。

〈祈り〉 私達を救い出してくださった唯一のまことの神様。いつも神様に顔を向け、耳を傾け従うことができますように。



創造の秩序

「光あれ」その言で光があった。

創造の秩序の下では、全てのものが神様のお言通りになる。そしてそれは甚だ良い。全てのものが神様に従い、神様を礼拝する。



墮落

墮落によって、人は神様以外のものを神(判断の基準)とするようになった。「神のように善悪を知るものとなる」(創3:4)

ことを望み、神様ではなく、サタンの言葉、エバの言葉、自分の判断に従った。そのためもはや、神様を神様として認め、従い、礼拝することが出来ない。



贖罪

神様は、アブラハムに「あなたとあなたの子孫の神となる」(創17:7)、

イスラエルの民に「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」(エレミヤ31:33、エゼキエル37:27)と、くり返し約束して下さった。

イエスさまは、「退け、サタン。あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ、と書いてある」(マタイ4:10)と、正しく神様を神様として、従い、礼拝された。「神は・・・万物をただ御子(イエス・キリスト)によって、御自分と和解させられました」(コロサイ1:20)

終末の時には、「神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる」(黙示録21:3-4)



完成の途上ーわたしたちの問題

神様の他に「何か」を神としていないか? 神様に従っているか?

神様を礼拝しているか?

月日 「第一戒」中学科

名前 _____

聖書:

問

讚美:

☆創造の秩序

☆墮落

☆贖罪

☆完成の途上・・・わたしたちの問題

毎日聖書を読もう

日 出エジプト 11:1-10	月 出エジプト 12:1-16
火 出エジプト 12:17-28	水 出エジプト 12:29-36
木 出エジプト 12:37-51	土 出エジプト 13:11-22
金 出エジプト 13:1-10	

暗唱聖句

(出エジプト20:3)

エルサレムでの過越祭で、イエス様が神殿の商人を追い出された出来事です。この時のユダヤ人との討論の中でイエス様は「三日で立て直す」真の神殿のことを弟子たちに教えておられました。弟子たちはイエス様が復活されたとき、この意味を悟ったと記しています。

(1) 商人の追放

「神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たち」とは、申命記14章24～26節でモーセの律法が定めていた礼拝献納物の売買人のことでしょう。イエス様は神殿のことを「わたしの父の家」と呼ばれ、そこで行われていた礼拝献納物の売買のことを「商売の家」と呼ばれることから、ここでは、本来神殿は父を礼拝する「父の家」であるべきところなのに「商売の家」と化していることに憤りを持たれたようです。本来、モーセ律法が定めていた献納物の売買は、献げ物の煩瑣の規定に心を奪われず、むしろ神礼拝に集中できるようにさせる神さまからの知恵でした。後に、サムエル記上15章22節で、「主が喜ばれるのは焼き尽くす献げ物やいけにえであろうか。むしろ、主の御声に聞き従うことではないか。」とされているとおりです。その時の神殿の有様は神殿礼拝の名の下に商売がその場所の中心を占めていたために「商売の家」と呼ばれました。

この時イエス様は父の家が商売の家に化していることの怒りから商売人を追い出しただけではなく、「神殿を壊してみよ」「三日で立て直す」と言われ、またそれを弟子たちが復活後に「神殿とはご自分の体のことだった」と悟ったとあることから、このような神殿礼拝のあり方そのものの廃

棄と真の神殿建設を追い出す行為をなさる中で教えられたようです。

(2) 立て直される真の神殿

ユダヤ人が「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と問うのに対して「三日で立て直す」ことを言及されました。これは以前に「しるしを見せてもらいたい」とパリサイ人がイエス様に願った時、「ヨナのしるしの他にはしるしは与えられない」（マタイ12章38～40節）と言われたのと同じ意味でしょう。すなわちイエス様の死と復活のことを指しています。

17節で「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と言われているように、イエス様は父の家を思う熱意から商売の家と化している偽りの神殿礼拝を壊されます。そのことによってイエス様は「食い尽く」される、つまり十字架に付けられて死を迎えることを指しています。しかし、たとえ「食い尽く」されてもその後「三日で」つまり復活することによって建て直されたまことの神殿「父の家」が起こされるというのが、しるしを求めるユダヤ人に言いたかったことなのです。

弟子たちはイエス様復活のあと、この言葉の意味を悟りました。「三日で建て直す」とはイエスの死と復活のことであり、「イエスの言われる神殿とはご自分の体のことだった」のです。このご自分の体とは甦りによって建てられた礼拝集団のこと、イエスの体と呼ばれる新しい群れのことです。このイエスの体にあつてアバ父よと呼んで礼拝をすることこそ、まことの礼拝であり、まことの神殿だと教えられているのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問45, 46
 ウェストミンスター小教理問答 問49 ~ 52

子どもカテキズム

問45 第二戒は何ですか。

答 「あなたはいかなる像も造ってはならない」、です。

問46 第二戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 私たちは、真の神さまを忘れるときに、必ず、自分のために神々を造り出します。私たちは、お守りや占いに頼ったり、自分を喜ばせるために礼拝してはいけない、ということです。

ウェストミンスター小教理問答

問50 第二戒では、何が求められていますか。

答 第二戒は、神が御言葉に定めたすべての宗教的礼拝と規定を、受け入れ、実行し、純粋にそのまま保つことを求めています。

〈神礼拝のあり方〉

この第二戒は、ローマ・カトリック教会やルーテル教会では、第一戒に含めて理解されています。この第二戒を独立した一つの戒めとして取り扱うことに、改革派教会の信仰の特色が表れています。

第一戒において、贖い主なる神を正しく神とし、礼拝することが求められました。そこですでに、あらゆる偽りの神々、あらゆる偶像礼拝が拒否されています。その第一戒を前提として、第二戒は、正しい神礼拝のあり方を求めています。神礼拝をふさわしく整えることを求めるのです。どのような礼拝を捧げることが求められているのか、ということです。そうして、像を礼拝の手段として用いることが禁止され、そのための像を造ることも禁止されます。像の禁止とは、具体的な偶像というだけではなく、誤った礼拝の手段を拒むということです。さらに、自分の願いや自分の願望に基づいて神を礼拝することが禁じられています。ここでは、偽りの神々の拒否はもちろん、神礼拝の正しいあり方が求められています。

〈誤った神礼拝、異教の習慣を拒否する〉

思い起こすべきは、出エジプト 32 章の出来事でしょう。ここで、イスラエルの民は決して偽りの神々を礼拝しようとしたのではありません。贖い主なる神を礼拝しようとしたのです。そのと

ろで、彼らは自分たちの不安をいやすという身勝手な願いに基づいて礼拝し、また礼拝の仕方が分からないため当時の異教の習慣にならって金の子牛の像を造り、それを神として礼拝いたしました。主なる神は、このことに対して激しく憤られ、お怒りになったのです。

私たちは、神から離れ、神を知らず、ですから、正しい神礼拝の捧げ方でも知りません。そのようなところでは、自分の好む偽りの神々を造り出したり、神に喜ばれない方法で神の御心を求めて、偶像を礼拝し、占いをしたり、おまじないをしたりしてしまいます。そのような誤った礼拝や異教の習慣を拒み、それらから離れることが大切です。

〈御言葉による礼拝〉

主なる神は、契約を結んで、私たちを御自身との人格的な交わりに招いてくださいました。その交わりは霊的であり、人格的であり、すなわち言葉による交わりです。言葉によるコミュニケーションです。主なる神は、言葉によって神の民に語りかけ、聖書を与え、また言葉によって礼拝されることを求められます。ですから、私たちは、霊と真理をもって神を礼拝します(ヨハネ 4:24)。すなわち、主イエス・キリストと聖霊による礼拝です。私たちは、神の御言葉の説教を聴き、祈りと讃美を捧げて、言葉と霊による礼拝を捧げます。

テキスト ヨハネによる福音書 2章13～22節
 カテキズム 子どもカテキズム 問45,46

「偶像礼拝をしてはならない」

〔単元のねらい〕

我々は、既に父なる御神への信仰告白として、問14を学んだ。日本の子どもたちは古い、運勢、悪霊（あくりょう）、霊現象などに大いなる関心を示す。それだけ、テレビ、漫画雑誌などの影響を受けていると言うことであろう。ここでも、その問題に光が当てられて良いのではないか。勿論、ここでの本質は、神を自分のために利用する心、自分の喜びのために神を創出しようとする心が偶像礼拝であるということである。それは、単に、三一の神を礼拝しているから偶像礼拝とは決別しているということではない。主イエスを偶像にすることは、我々の知らない罪では決してない。そこにこそ、抜きがたい罪の力がある。常に、自己中心から神中心へと、常に、聖霊によって引き戻され、悔い改めへと導き返されることを祈り求めたい。この神殿をきよめる主イエスのお姿から、真の礼拝とは、主イエス・キリストを通して父なる神を崇めることであること、主イエス・キリストへの礼拝となることを教えたい。

ある日のことです。イエスさまは、エルサレムの神殿に上って行かれました。イエスさまのお父さま、父なる神さまを礼拝するためです。神殿と言うのは、神さまを礼拝する施設、建物のことです。ところがどうでしょう。イエスさまが礼拝する家、神殿に来て見ると、とてもうるさいのです。「メーメー」「モーモー」「ホーホー」羊や牛、そして鳩の鳴き声が聞こえてきます。それだけではありません。「さあさあ、いらっしやい、いらっしやい、神殿で献げる動物を買ってください。」商売をしている人たちの声も聞こえてきます。神殿に捧げる為に、ローマのお金をユダヤのお金で両替している人たちもいます。それはそれは、にぎやかです。

その日、逾越祭が近づいていました。いつもよりもずいぶんとにぎやかだったのです。大勢の人たちは、そんな光景を当たり前のことだと思っています。ちょうど、皆がコンビニを便利に思う気持ちと同じだったのです。「神殿で、動物を売ってくれるのは、便利だな。エルサレムの神殿まで、自分で牛や羊を運んでくるなんて、大変だからな。」

しかし、たった一人、この光景を見て、心から悲しみ、心から憤られた人がいました。イエスさまです。イエスさまは、縄で鞭を作って、動物達

を神殿の境内から追い出し、両替人の金を撒き散らし、台を倒してしまわれました。あまりの事に、みんなただ、ボーと見ているだけです。イエスさまは、大きな声で、仰いました。「ここは、わたしのお父さまの家です。私のお父さまを礼拝する場所です。それを、あなたがたは商売の家としている。それは、許されないことだ。」

イエスさまはもちろん意地悪で、乱暴なお方ではないですよ。けれども今、イエスさまには、どうしても、譲れない、黙ってはられないことがあるのです。神さまを礼拝すること、礼拝する正しい方法について、どうしてもそのままにはしておけないのです。何故なら、それは僕たち私たち人間にとって、どうしても良いことではないからです。一番大切なことだからです。

僕たち私たちは、真剣に礼拝していますか。勿論、真剣ですね。でも、時々、先生のお話を聴きながら、横のお友達とごそごそしてしまうこともあるかもしれませんね。おしゃべりしてしまうこともあるかもしれません。それは、神さまが、とても悲しまれることなのです。でも、先生も時々、大人の礼拝で、うとうとしたり、他の事を考えたりしたことが全くないわけではありません。だから、どうしているかと言うと、土曜日の夜に早く

寝るようにするのです。でも、お話の準備や分級の準備で、つつい遅くなってしまいます。何よりも大事な事は、お祈りです。日曜日、主の日の礼拝式のためにお祈りするのです。

でも、神さまが悲しまれるだけでなく、怒られることがあります。占いだとか、お守りだとかを気にしたり、大切にすることです。勿論、神社に行つて、皆がしているからといって、ふざけ半分に手を合わせたり、お寺に連れられていって、皆がしているから、自分も、手を合わせたり……。それは、唯一の、真の神さまに対する、罪です。決して、遊び半分でもしてはいけません。ある人は、太陽に向かって手を合わせます。それは、おかしいですね。太陽は神さまではありません。太陽のマークといえば、日本の国旗として、「日の丸」が法律で定められました。でも、もしも卒業式などで先生から、「『日の丸』に向かって、お辞儀しなさい。これは、命令です。」と言われたら、牧師先生に相談してください。先生が、皆の学校に行つて、校長先生か、担任の先生にお話をしてくれると思います。「皆がやっているから僕たち私たちもやっちゃう」というのでは、神さまの御心を悲しませ、憤らせることになります。

真の神さまはイエスさまです。イエスさまが教えてくださった天のお父さまです。だから、僕た

ち私たちは、このイエスさまだけを礼拝するのです。イエスさまは、神殿の中で、こう仰いました。「この神殿を壊してみなさい。私は三日で建て直します。」これは、イエスさまの復活のことです。イエスさまは、十字架で死んでくださり、三日目にお甦りになりました。そのことを仰ったのです。ですから、正しい神さまへの礼拝は、イエスさまを通してでなければ決してできないのです。イエスさまがいらっしゃらなければ、僕たち私たちは、神さまを礼拝する事は決してできません。イエスさまを信じているけれど、イエスさまの他にも神を信じるというのは、できないことです。おかしいことです。

最後に、こういう事も覚えておきましょう。イエスさまを偶像にしてしまう事です。ちょっと難しいかもしれませんが、今、僕たち私たちはイエスさまと一緒に礼拝していますね。でも、イエスさまに、一週間、「あれしてください、こうしてください、こうなりますように」って、自分を喜ばせるためだけに、イエスさまを利用するならば、それは、イエスさまを偶像にしてしまっていることです。「イエスさま感謝します。イエスさまに喜ばれるように、私たちを導いてください。」今週も、このように一緒に祈って行きましょう。

今週の暗唱聖句

あなたはいかなる像も造つてはならない。

出エジプト記 20章4節 a

〈目標〉

先週学んだ神礼拝を、さらに確かなものとしていきましょう。

〈ミニ・ストーリー〉

盆踊りのちょうちんが、きれいに並んでいます。今日は町内のお祭り。夏休みに入って、おばあちゃんの家へ家族で泊まりにきていたゆうじくん。朝から心が踊ります。ゆうじくんの住む町では公園で盆踊りがありましたが、おばあちゃんの所では神社という所で盆踊りをするそうです。

夕方になって、祭りばやし聞こえてくると、夕食も早々におばあちゃんの手を引っ張って神社へ向かいました。神社の入り口に石で出来た二匹のキツネが向かい合って座っていました。動かない、けれども怖い顔のキツネはゆうじくんにはど

ても不気味でした。思わず、おばあちゃんの手をぎゅっと握りました。

「どうしてキツネがいるの？」 おばあちゃんに聞くと、「この神社ではキツネ様が神様なのよ。」とおばあちゃんは言いました。「太陽も神様だし、台所の神様つてのもいるし、仏壇も神様だし、神様はあっちにもこっちにもいるんだよ。」その時ゆうじくんは日曜学校で聞いた『まことのかみさまはただおひとりです』という先生のことばを思い出しました。僕たち私たちをおつくりくださった神様、今も生きてお守り下さる神様が本当の神様ですよと先生は言っていた。うん。ボクもそう思うよ、先生。ゆうじくんは、もうちつともキツネなんて怖くなくなりました。

涼しい風が、ゆうじくんの頬をそっと撫でていきました。

〈フルーツ・ポンチ〉

○偶像になりがちなので、あえて、工作を避けました。

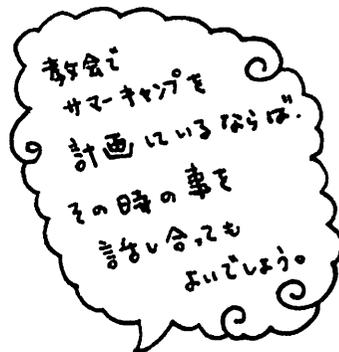
○夏にぴったりのすずしいおやつを作しましょう。

○材料

フルーツの缶詰なあーんでも OK!!

炭酸ソーダ水

などなど・・・



この時ばかりは
先生も、かり
夏の装い。
みんなで下がい
おやつタイム。
夏休みの計画を おしゃべりするかも
いいですね。

〈折り〉

主の日の礼拝をまことの神様にささげることもでいさせてください。アーメン。

〈目標〉

神様を、自分の欲や楽しみのために利用することは罪であること。偶像を拝むことは、神を人の奴隷にすることにつながることを示す。

〈礼拝説教を振り返る〉

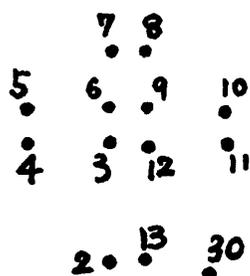
イエスさまが、神殿でなされたことは、びっくりですね。私たちの日曜学校で、だれかがほかの人を追い出したり、椅子や机をひっくり返したら、どうなるでしょう。

イエスさまは、私たちに、ほんとうの礼拝を教えたかったのです。私たちのまわりにある、まちがった礼拝のことを、考えてほしいのです。石や木でつくった神様は、ほんとうの神様ではないですね。でも、ほかの人のことばかり言えるかな。

人の心には、ほんとうの礼拝から逃げようとする心があるのです。どうすればいい？ イエスさまといっしょに歩けば、イエスさまに心からお祈りすれば、神さまは私たちの礼拝をいつも喜んでくださるよ。

〈祈りましょう〉

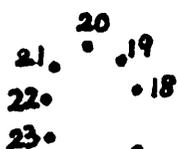
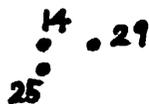
めぐみのかみさま
もうすぐ夏休みです
元気にすごせたことを感謝します
病気やケガの人が
早くよくなりますよう
楽しいときも悲しいときも
神様を第一にできるように
まもってください
イエス様が
神殿を清めてくださいました
私たちも
ほんとうの礼拝をしたいです
石や木でつくったものを拝みません
自分のことばかり考えないように
わたしの心を導いてください
イエス様に喜んでいただけるよう
わたしの心をささげます
イエス様のお名前によって
アーメン



○番号順に線を引いてみましょう。

何ができるのでしょうか。

ほんとうの礼拝をするところはどこでしょう？



〈目標〉

刻んだ像をはじめ、真の神以外のものを拝み、また間違った方法で礼拝することの誤りを学ぶ。

〈指導上の心得〉

形あるものだけではなく、考えや方法までもが問題になることを覚え、正しい礼拝に導く。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・商人の追放物語から神殿とは何であるかをみんな話合ってみましょう。旧約時代の神殿と新約時代のイエスの身体なる教会とを比べて。
- ・刻んだ像を造ることは間違った礼拝の一つ。像を造ることだけではなく、神が求めておられない方法で礼拝しないように、日常の具体的な例を挙げて、生徒に考えさせながら導く。
- ・何よりも真の神を、正しい方法で、悔い改めと喜びをもって礼拝することへと導きたい。

〈ワーク〉

1. イエス様はなぜ神殿でお怒りになったのだろうか？ 考えて書いてみよう。

2. 正しい礼拝はどれでしょうか？

- a) 聖書のお話を聞く b) イエス様の像を拝む
c) 大きな声で賛美の歌をうたう

3. 神様がしてはいけないとおっしゃられているのはどれだろう。正解は一つとは限らないよ。

- a) 占い b) 神様が造られたものを拝む
c) お守りを持つ d) 本当の神様を礼拝する

〈答え〉

1. 神殿は神様を礼拝する場所なのに商売の場所にしてしまっていたから。
2. a) c) 3. a) b) c)

〈目標〉

真の礼拝とは、イエスを通じて父なる神を崇めること。正しい神礼拝のささげかたを知る。

〈指導上の心得〉

第二戒は具体的な像の禁止だけではなく、私達の罪ゆえに、心の中につくってしまう偶像（自己中心のため）をも戒める。それは、私達がまことの神を忘れる時おきてしまう。イエスを通して本当の正しい神礼拝を知り、まことの父なる神にささげよう。

〈展開例〉

1. 聖書の言葉の意味を皆で考え、イエスの真意を知り、イエスの体、まことの神殿、まことの礼拝へと導く。（※聖書研究参照）

「わたしの父の家」(16節)

「あなたの家を思う熱意」(17節)

「わたしを食い尽くす」(17節)

「しるし」(18節)

「三日で立て直してみせる」(19節)

「弟子たちは…信じた」(22節)

2. 神殿で商売をする者たちをなぜイエスは追い払ったのか？ 偶像礼拝とは人の心を神から離れさせること。金銭欲も神に喜ばれない。私たちは御言葉と祈りと讃美により、正しく神様に礼拝をささげよう。

3. さんび。「かみよわたしの」(『こどもさんびか』60番)。四分休符と八分休符は手をたたく。

〈祈り〉

神様がイエス様の十字架と復活により、イエス様を通して、父なる神様に私達が礼拝できるようにして下さいました。私達は霊と真理をもって礼拝にのぞみ、御言葉を聴き、祈りと讃美をおささげします。



創造の秩序

神様は人を神にかたどり、神に似せて造られた。そして人に地を従わせ、生きものを全て支配するよう命じられた。人は、人格的・霊的な存在。神様と人格的・霊的な交わりをもことができる。すなわち、礼拝することができる。



墮落

神様ではなく、被造物（神様が造られたもの）の形の像を造って、ひれ伏して仕えるようになった。

男・女・獣・鳥・魚・太陽・月・星……等の形を作って礼拝する。「形」を欲する。「霊」である神様を正しく礼拝する方法が分からない。



贖罪

火の中から語られる神（出エジプト 3:2）は、形をもたれない。霊であられる神様。正しく礼拝する方法をお教えくださる。偶像礼拝の禁止（申命記 13:2-19、18:9-14）

形を造って礼拝することを禁じるのが第二戒。神様以外のものを礼拝することを禁じるのは第一戒。

イエスさまは、霊と真理をもって礼拝する時が来ている（ヨハネ 4:23-25）と宣言。

終末、新しいエルサレムにおいて、都の中には神殿がない。主と小羊が都の神殿（黙 21:22）。



完成の途上—わたしたちの問題

主の日の礼拝をとおして神に仕え、すべての聖徒とともに神をほめたたえ、永遠に神を喜ぶ（中会40周年宣言）の幸いにあずかっているか？

生徒用プリントの使い方

左側(ここ)は、毎回同じです。
7月7日分をコピーして使用して下さい。

参考図書

- ①創造の秩序、②墮落、③贖罪、④完成の途上～わたしたちの問題、という四つの視座から、十戒を学んでいきます。

『キリスト者の世界観』
アルバートMウォルターズ
宮崎弥男・訳
西部中会文書委員会・刊

をご参照下さい。

毎日聖書を読もう

 日 出エジプト 14:1-14	 月 出エジプト 14:15-31
 火 出エジプト 15:1-21	 水 出エジプト 15:22-27
 木 出エジプト 16:1-16	 金 出エジプト 16:17-36
	 土 出エジプト 17:1-15

暗唱聖句

(出エジプト20:4a)

テキスト

使徒言行録 3章1～10節

ペトロとヨハネが神殿に上る途中、「美しい門」と呼ばれる場所で出会った足の不自由な男に「持っているものをあげよう。」と言って、彼を立ち上がらせた奇跡物語です。

(1) 目覚ましいしるし

このお話は4章22節まで続き、冒頭の出来事から始まり、11～26節までの神殿での説教、4章1～22節までのユダヤ議会での取り調べという順番でお話が展開します。

神殿での説教ではイエス様の受難と復活を語った後に、「あなたがたの見て知っているこの人」と言って救われた男を取り上げて、まさにそのイエスの名が彼を救ったのだと説き明かします。ユダヤ議会での取り調べでは「彼らが行った目覚ましいしるし」が争点となっていて、それは「イエスの名によるもの」であり、「わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていない。」という真理が語られます。つまりこの奇跡物語はイエスの名こそ我々の救いであることを語る教材なのです。それをきらびやかな神殿の門で施しを乞う男に示し、神殿礼拝に詣でる民衆に説き明かし、さらにはユダヤ議会にしるしをもって証したのです。

(2) 「美しい門」

神さまは、ペトロとヨハネという教会の代表者を通してこのしるしを世にしめされたのですが、それはコントラストのある舞台設定のなかで表されました。何よりもまず目につくのが「美しい門」です。神殿に詣でる門のうち、東に開いたコリントの門がそれだと言われています。他の門に比べて特別きらびやかに作られていたからこそ「美しい門」と呼ばれているのでしょうか。だからこそ「施しを乞う男」も毎日ここに置かれていたのでしょうし、また多くの人がこの門から神殿に詣でたでしょう。「午後3時の祈りの時」とありますから、

なおのこと多くの民衆が集まっていました。施しを乞う男は詣でる民衆に、また詣でた民衆は門の美しさに目を見はっていたのではないのでしょうか？ しかし、ペトロとヨハネの目は施しを乞う男に注がれました（「彼をじっと見て」）。またペトロたちは、男や民衆が見上げたであろう「金や銀」は持っていないときっぱりと断言します。そのかわりに「持っているものをあげよう」と言ってキリストの名によって救いを彼に与えます。彼は、毎日の「金や銀」の施しとはちがって、「躍り上がって立ち」「歩き回ったり踊ったり」する神賛美を受けることになりました。そのあまりの違いに、民衆は「気づき、その身に起こったことに我を忘れるほど驚いた」のです。

(3) イエス・キリストの名

モーセの昔、神さまは「あなたたちの神、主がその名を置くために選ばれる場所、すなわち主の住まいを尋ね、そこへ行きなさい」と言われて、イスラエルに礼拝をする場所を定められました。名は体を表すと言いますから、この名が置かれる場所で神は御自身を最も鮮やかにあらわされるということを教えておられるのです。しかし今は、神殿ではなくイエスによって神は御自身の名をあらわされ、またイエスの名とは神の独り子であるということを示すのでしょう。ヨハネによればそれは「父の独り子としての栄光であって、恵みと真理に満ちていた」のです。ヨハネ1章14節。

教会は金や銀を持っていませんし、持つ必要もありませんが、ペトロたちが言ったように「持っているもの」を持っていないわけにはいきません。それがイエスの名であり、それは何にも代え難い恵みと真理に満ちたものなのです。そしてこれこそが人を救い、立たせ、踊らせ、神を賛美させるものなのだと教えたいのです。キリストの名を大切にしなければいけません。

カテキズム

子どもカテキズム 問47, 48

ウェストミンスター小教理問答 問53 ~ 56

子どもカテキズム

問47 第三戒は何ですか。

答 「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」、です。

問48 第三戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまのお名前や教会の教え、そのほか、神さまにかかわるものを、ふざけて用いたり、自分勝手に変えて用いてはいけない、ということです。愛の神さまは優しい神さまですが、これらを厳しく裁かれます。ですから、私たちは主の御名を正しくほめたたえます。

ウェストミンスター小教理問答

問54 第三戒では、何が求められていますか。

答 第三戒は、神の御名、称号、属性、規定、御言葉、御業を、清く敬虔に用いることを求めています。

問55 第三戒では、何が禁じられていますか。

答 第三戒は、神が御自身を知らせるのに用いておられるどのようなものをも、汚し、あるいは濫用することを禁じています。

〈主の名をみだりに唱えるとは〉

主の名をみだりに唱えるとは、形式的に、また軽率に神の御名を用いたり、神の御名を引き合いに出して、自己正当化したりすることです。これらは、神を汚すことなのです。「主の名」「神の御名」とは、神が私たちに明らかにしておられる御自身の御名、御言葉、また福音の真理、礼拝や聖礼典、それら神にかかわるすべてを含みます。

信仰者であるならば、意図的に神を軽んじて、神を汚すようなことはしないでしょ。しかし、たとえば祈りを捧げるときに、心そこにあらずで決まりきった言葉を発して、それで祈ったような気持ちになっていることはないでしょうか。形式的な祈りを捧げて、「主の名によって祈ります」と言うならば、それは主の名を正しく用いることになっていません。あるいは聖書の御言葉を引用して自分の意見の証拠として用いることはないでしょうか。聖書の文脈から離れて、自分の考えを擁護するために御言葉を用いていないでしょうか。私たちは、実にしばしば御言葉を用いて人を裁き、自己正当化しています。それは主なる神が喜ばれることなく、むしろ悲しまれることであり、主の名をみだりに唱えることなのです。

〈神を礼拝するために〉

神は御自身を私たちにお示しくされました。それは、私たちが神を知り、礼拝するためにほかなりません。神を礼拝し、ほめたたえるという目的のために、神の御名、御言葉、真理が明らかにされ、私たちに委ねられました。

ですから、主御自身を畏れ敬うように主の名を慎み深く畏れをもって用います。主の名とは神御自身なのです。愛する主なる神にかかわるすべてのことを、神を礼拝するために用います。みだりに用いること、曲げて用いること、偽りの真理や異端などを拒否します。形式に陥らず、慎み深く、しかし喜びをもって、真心から、祈り、讚美し、礼拝します。第一戒を「礼拝の対象」、第二戒を「礼拝の方法」と要約するならば、第三戒は「礼拝の態度」です。第三戒では、神をほめたたえて心からの礼拝を捧げることが求められています。

〈御名があがめられますように〉

「主の祈り」で「御名をあがめさせたまえ」と祈ります。私たちは、神の御名の深さ、高さ、広さ、豊かさをわきまえて、神の栄光をほめたたえ、御名を正しくあがめます。礼拝生活において、この祈りに導かれて歩むのです。

テキスト 使徒言行録 3章1～10節
 カテキズム 子どもカテキズム 問47,48

「主イエス・キリストの御名を尊ぶ」

【単元のねらい】

日本のキリスト者にとって、主の名をみだりに唱えるな、という戒めを真剣に受け止めなければならない状況には、ないようにも思えるかもしれない。なぜなら、我々の神の御名を呼ぶこと自体珍しいことだからである。しかし、異端の問題は、我々が避けて通れない、避けて通ってはならない課題である。子どもカテキズムにおいては、正統教理の徹底した擁護の必要性を記した。しかし、我々の子ども達には、この戒めはどう響くのであろうか。どう受け止めていただくべきなのだろうか。子どもの礼拝式の態度、分級での態度がここで改めて考慮されることが必要であろう。そして、そこでこそ、教師自身が主イエス・キリストのお名前をどのように唱えているのかが鋭く問われねばなるまい。愛する、尊い「主イエス」のお名前を呼ぶその呼び方。「イエスさま」と呼ぶあなたの響きの中に子ども達が、この先生は、イエスさまが大好きなんだなど分かってもらえるものとなっているだろうか。

使徒たちが「イエス・キリストの名」を語って癒し、説教した物語から、我々の日曜学校における御名の正しい用い方が問い返される。主イエス・キリストの御名の麗しさ、尊さ、力を語ろう。そこでこそ、今日の礼拝式の「説教」が、主イエス・キリストの御名の権威について生き生きと物語り、主イエス・キリストを仰がせる力を得ているかが問われる。説教準備と当日の演術のために祈りを集めよう。当日の説教奉仕者は教師会全体の祈りで支えなければまことの（=教會的）「説教」にはならないこともわきまえたい。

イエスさまがお墓の中から復活して、天のお父さまの御許に昇って行かれた後に、イエスさまのお約束どおり、聖霊なる神さまがお弟子さんたちの上に下りました。その時から、お弟子さんたちは、神さまの愛と力に溢れて、イエスさまの御業を説教し始めました。「あなたたちが十字架につけたイエスさまは復活されました。つまり、イエスさまこそ、私たち皆の救い主です。神さまです。あなたも悔い改めて、このイエスさまを信じて、救われなさい。神さまの子とされる祝福にあずかってください。」

ある日のこと、使徒ペトロさんとヨハネさんは、午後3時の祈りのときになって、二人でそろって、お祈りをしにエルサレムの神殿に上って行きました。するとちょうど、そこに生まれながら足の不自由な男の人が運ばれてきました。この人は、毎日、「美しい門」と言う神殿の門のそばに、運ばれて、座って道を通る人たちに向かってこう言っ

ていました。「私を憐れんでください。お金でも、ものでも、分けてください。恵んでください。」その人は、とても悲しく暗い顔つきをしています。ペトロさんたちは、この出来事の一部始終を見ていました。

この男の人はこの二人が自分の方を見つめているので、きっと貰えるぞと期待していつもの口調で言いました。「私を憐れんで一、お金を、お入れください一。」彼らは、この人のところに近づいて行きます。この人は、心の中で思いました。「いいぞいいぞ。さあ、この人たちは、どれくらいこの籠の中に入れてくれるかなあ。アレツ、ちょっと待てよ、近くで見ると、なーんだ、お金持ちではなさそうだ。」ペトロとヨハネはこの人の目の前まで近づいて、はっきりとこう言いました。「私たちを見なさい。」今、目と目がぶつかりました。男の人は、思いました。「今まで、こんなことを言う人はいなかったぞ。いったい、どれくらいたくさん恵んでくれるのかな。」もう、

わくわくして見つめました。するとどうでしょう。ペトロとヨハネは、不思議な事を言いました。「わたしには金や銀はない。」「えっ、なんだって、お金を持っていないって。騙された。チエツ。」ところが、ペトロさんはまだ、その後が続けてこう言います。「私に持っているものを上げよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」そして、ペトロさんは、生まれてから一度も歩いた事のないこの人の右手を取って、立ち上がらせてしまったのです。何と言う無茶なことをするのでしょうか。ところがどうでしょう。この人は、瞬間に足に力が入って、立つことが出来たのです。そして、躍り上がって、神さまを賛美しはじめました。この人は、ペトロとヨハネと一緒に、生まれて始めて、神殿に入つて行ったのです。

一体、何がこの生まれながら足の不自由な人を立たせたのでしょうか。それは、僕たち私たちのイエス・キリストのお名前のおかげです。先週は、イエスさまを通して、天のお父様を礼拝できることを学びました。イエスさまと一緒におられなければ神さまを礼拝できないのです。でも、イエスさまは今、天におられますね。それなら、どうやって、僕たち私たちは、イエスさまと一緒にいることができるのでしょうか。それは、イエス・キリストのお名前を信じることによってです。ペトロさ

んは心からイエスさまを信じています。イエスさまなら、この人を憐れんで、立ち上がらせることができるのだと確信したのです。だから、「イエス・キリストの名によって」と宣言したのです。

皆も、お祈りするとき、その最後に「イエスさまの御名によって、アーメン」って言いますね。ペトロさんがこの男の人を立たせたのと全く同じなのです。そうです。僕たち私たちが、ペトロさんのように、イエスさまを信じているのなら、イエスさまは僕たち私たちと一緒にいてくださるのです。心から、主イエス・キリスト、主イエスさまってお呼びするなら、必ず、イエスさまと一緒にいてくださるのです。だったら、イエスさまのことをふざけて呼んだり、神さまのお名前を冗談で呼んだりすることなど出来ないでしょう。

僕たち私たちは、今、心から信じて「イエスさま」「主イエス・キリストの父なる神さま」「天のお父さま」って、お呼びして礼拝を捧げていますね。だから、間違いなくイエスさまはここに一緒にいてくださるのです。今日から始まる一週間も、「イエスさま」、「主イエス・キリスト」、「天のお父さま」と御名をお呼びしましょう。お祈りして行きましょう。イエスさまは、御名をお呼びする僕たち私たちと一緒に歩いてくださるのです。

今週の暗唱聖句

あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。

出エジプト記 20章7節a

〈目標〉

神様のお名前をふざけて使うことのないようにしたいものです。

〈ミニ・ストーリー〉

ゆうじくんは時々思います。日曜学校で先生たちは「イエスさまのお名前によってお祈りします」と言っていました。「イエス様のお名前によって」ってどういうことなんだろう。どうして「イエスさまのお名前によって」とお祈りするのかな。どんなお祈りでも「イエスさまのお名前によって」お祈りしたらかなうのかな。日曜学校に誘ってくれた、よしくんは知っているのかな。

ゆうじくんは、よしくんに電話してみました。

「もしもし、よしくん？ ゆうじだよ。あのね、『イエス様のお名前によって』ってどういうことなの？どんなお祈りでも『イエスさまのお名前によって』お祈りしたらかなえてもらえるの？」

「あのね、ボクが前に『どちどちどちらにしましょうか。天の神様のいうとおり。』って日曜学校で歌っていたら、先生に『本当に神様にお聞きしているの？ 心からお聞きしたいこと、お聞きしたいことでなければ、神様のお名前を使ってはいけないね。』と言われたよ。『イエスさまのお名前によってお祈りする』って真剣なことなんだってボクは思ったんだ。」

よしくんってすごいなああとゆうじくんは思いました。

「今からプール行かない？」 よしくんに誘われてゆうじくんは、もっと神様のこと聞きたいなと思いつつ、「うん行く行く。すぐ用意するからね」と電話を切りました。

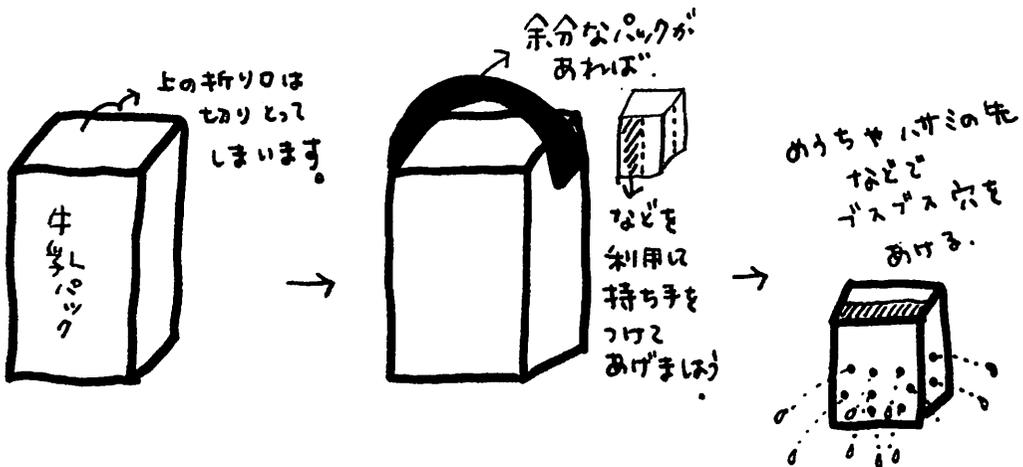
○「イエス様のお名前によって」真剣な祈りを捧げている教師自身の姿こそ、子供たちへのよい証となるのではないのでしょうか・・・。

〈じょうろで水遊び〉

○夏の暑い盛り、牛乳パックでじょうろを作り、楽しく水遊びをしましょう。

○準備しよう

- 子供人数+先生の人数の牛乳パック
- めうち（無ければはさみの先を使用）
- バケツかビニールプール



〈祈り〉

神様を正しく礼拝できることも教えてください。アーメン。

〈目標〉

イエス・キリストの御名が、かけがえのない美しいものであり、人はイエス・キリストの御名によってこそ、生きられること。

〈礼拝説教を振り返る〉

私たちは、イエス・キリストのお名前を信じることによって、イエスさまといっしょにすることができます。はじめてイエスさまの名前を、大勢の人びとに宣べ伝えたとき、ペトロさんの心はどんなにドキドキしたでしょう。

生まれつき足の不自由な人が、なにか欲しそうにしていましたね。お金が欲しいのかな。自分なら、ペトロさんに何をお願いしたろう。

ペトロさんは、「ナザレの人、イエス・キリストの名によって、立ち上がり、歩きなさい」と言いました。初めて自分の足で立った、この人の嬉しさを想像してみましょう。

私たちも、心からイエスさまの名を呼びましょう。ふざけたり、冗談で、イエスさまの名を呼んだりしないね。約束しよう。

〈折りましょう〉

イエス様のお名前を
私たちにおしえてくださって感謝します
小さい私たちも

「イエスさま」と呼ぶことができます
だから、つらいときにも

嬉しいときにも

「イエスさま」と呼びます

ペトロさんが、イエス様のお名前
足の不自由な人を

歩けるようにしました

イエス様のお名前が

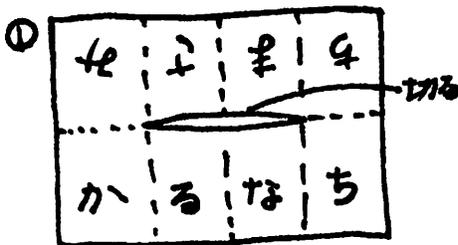
こんなにもすばらしいことを感謝します
夏休みの間も

イエス様のお名前を忘れません。

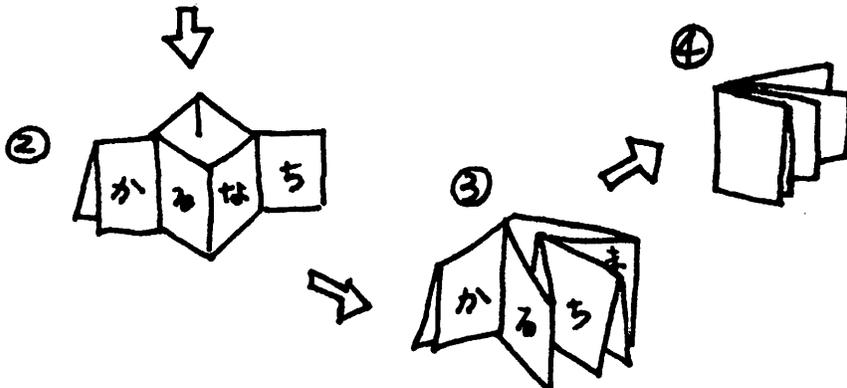
いつも私たちといっしょにいてください

イエス様のお名前によって

アーメン



○八等分した紙に、①のような言葉を書き、
②、③、④と折り進め、本を作る。
なんという言葉ができあがるでしょう。



〈目標〉

美しい門の物語から、神の御名、主の御名を正しく用いることの意味を学ぶ。

〈指導上の心得〉

神の御名を軽々しく唱えることが多い。この戒めを守り、心からの信仰をもって用いるよう導く。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・御名とは何でしょうか。そこに何が込められているのだろうか。みんなで話し合ってみよう。
- ・神の御名を軽々しく唱えたことがなかったかを反省し、どうしたら正しく用いることができるかを考えてみよう。
- ・神を正しい意味で恐れ、尊敬し、限りない愛に応えて、正しく御名を呼ぶことにより、真に神を崇めて礼拝する子どもになれるよう導く。

〈ワーク〉

1. ペトロとヨハネが持っていたものは何でしょうか。
 - a) 金や銀 b) イエス様の名による救い
 - c) よく動く足
2. 足の不自由な男はペトロたちに施しを乞うたとき、ペトロになんと言われたのかな？
3. 足が不自由だった男は元気になった後、神様に何をしたかな？
4. 第三戒を書いて覚えよう。

〈答え〉

1. b) 2. 使徒言行録 3:6 を参照
3. 使徒言行録 3:8

〈目標〉

主イエスの御名（＝神の御名）によって、救われた私たちが、その御名にふさわしい、とるべき態度を学ぶ。

〈指導上の心得〉

「御名にふさわしい態度」とは、いかなる時も共にいてくださる主イエスを知れば知るほど整えられていく。聖書を読みながら、ペトロの言葉、いやされた男の行動、民衆の反応などから具体的に話し合い、意見を出し合いたい。

〈展開例〉

1. 聖書を共に読みながら話し合っていく。
- ① 6 節＝御名をあげる根拠。ペトロは「ナザレの人イエス・キリストの名」をどのような気持ちで「持っている」と言ったのか。マタイ 13:12 「持っている人は更に与えられて豊かになる」と合わせて考えてみよう。「持っている」ことのすばらしさを悟る人となりたい。

- ② 8 節＝いやされた（救われた）ことの結果。「神を讚美し」「境内に入っていった」＝礼拝
- ③ 9,10 節＝民衆は「見た」「気づき」「驚いた」。聖書ではこの後、ペトロの言葉「私たちは、このことの証人です。」(15 節)をのせる。救われた者の行動は、周囲の人に「見られ」「気づかれ」「驚かれる。」

2. 救われたことの証人として、私たちのどんな言葉や行動がふさわしいか、ふさわしくないか、意見を出し合い、黒板やノートにかき出してみる。
(例) ふさわしい＝日曜日に教会に行き礼拝をささげる。

ふさわしくない＝ふざけて祈ったり、意味もなく「アーメン」などと言う。

〈祈り〉

父なる神様。イエス様の御名によって救われたことを感謝します。その恵みにふさわしく、考え、話し、行動することができまますように。



創造の秩序

「人が呼ぶと、それは全て生き物の名となった」(創2:19)。

「神は……彼らを祝福されて人(アダム=アダマ=土)と名付けられた」(創5:1-2)。

名前は「そのものの本質、そのもの自身」を表わす。



墮落

「みだりに」とは「空っぽの、むなしい、中身のない」という意味。

神の名をみだりに唱えるとは、御名を乱用すること。



贖罪

神様はいろいろなお名前でお自身の存在を明らかにして下さっている。

モーセに問われて「わたしはある」という方。「あなたたちの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神。これこそ、どこしえにわたしの名、これこそ、世々にわたしの呼び名」(出エ3:14-15)

神殿は、神様が「わたしの名を置く」と仰せになった所。祈り、礼拝する場所(列王記上8:12-53)

イエス様が教えてくださった祈りは、「天にまします我らの父よ、御名があがめられますように」(マタイ6:9)

「アバ父よ」イエス様の神様に対する呼びかけ(マルコ14:36)

わたしたちも、神様を「アバ父よ」と呼びかけることが許された。

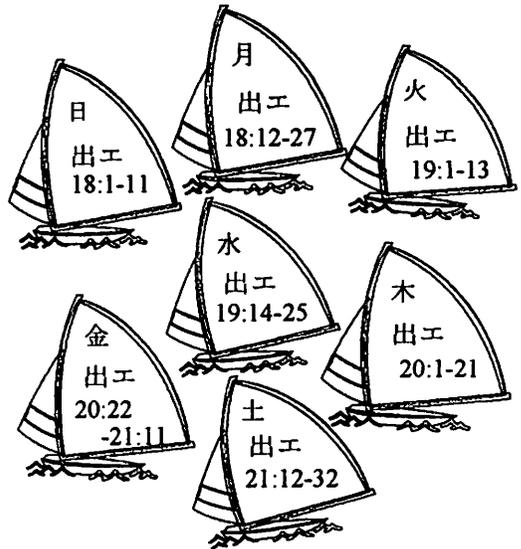
イエス・キリストの御名によって祈る、集まる(マタイ18:20)、伝道する、良いわざを行なう(使徒4:7-12)



完成の途上—わたしたちの問題

神様のお名前をどのようにお呼びするのか? この戒めは主の祈りの「御名をあがめさせたまえ。」という祈りと対になっている。キリストの御名によって共に祈ろう。

毎日聖書を読もう



暗唱聖句

(出エジプト20:7a)

イエス様の一行が麦畑を通られた時、弟子たちが空腹のため麦の穂を手で摘んで食べたことからファリサイ派の人々と安息日について論争になった出来事です。

(1)「安息日は人のために定められた。」

弟子が空腹で道すがら手で麦を摘み、もんで食べた行為を、ファリサイ派の人々は、「安息日にしてはならない」労働行為にあたると訴えてきました。摘むのは刈り入れ、手でもむのが脱穀といった感じで、薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一まで捧げるファリサイ派らしい理解です。

イエス様はこれに対してダビデの例を話されて弟子の行為が許されるものであること、さらには人の子は安息日の主であることを教えられました。ダビデが聖なるパンを食べた出来事は飢えから救われる安息日の例外として理解されています。しかし、マルコ2章23節以下では、許されているという以上に、そもそも安息日とは人のために定められたものであって、人が安息日のためにあるのではないと断言して、その目的を明確にされます。安息日は人が安息を得るために設けられたものです。神さまは、これをモーセの昔、イスラエルに対してマナとうずらによる養いと合わせもって教えられました。

(2)「人の子は安息日の主である。」

イエス様は安息日に右手の萎えた人を癒す業を通して、「善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、滅ぼすことか。」とファリサイ派の人々に問いかけます。当然、答えは善を行うこ

とであり命を救うことでありますが、こんな当たり前の答えを求めているようには思われません。むしろここでは命の救済のことを教えたいのではなく、善を控えることは悪を行うのであり、命を救わないことは滅ぼすことになるということ、すなわち曖昧な中間状態を排し、救わなければいけない切迫状態を教えておられるのです。萎えた手を治さなければ彼は働くことができず、それはすぐ彼の生命にかかわってきます。安息日には戒律のため善を行うこと、救うことを延期するのでしょうか。命を救うということには延期はなく、善も悪も行わないという中立もありません。命は救う必要があるときに救わなければいけないのです。

安息日は人のためにあります。そして人が安息を得るためにあります。その人が安息を求め救いを求めているのに、規則に従い善や救いを手控えたり延期をしたりするのでしょうか。それは悪を行うこと滅ぼすことになるのです。そして「人の子」イエスはまさにその人の命を救うために遣わされたのです。ですから「人の子」イエスこそ安息日の主であるのです。

「だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことでだれにも批評されてはなりません。これらは、やがて来るものの影にすぎず、実体はキリストにあります。」コロサイ2章16～17節。

実体であるキリストのもとに集まり、耳をかたむけることこそ、まことの安息日のあり方なのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問49, 50

ウェストミンスター小教理問答 問57 ~ 62

子どもカテキズム

問49 第四戒は何ですか。

答 「安息日を心に留め、これを聖別せよ」、です。

問50 第四戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 私たちの安息日は、主イエスさまの復活された日曜日です。私たちは、この日を主の日として、礼拝のために特別に取り分け、この日を目指して一週間を歩みます。

ウェストミンスター小教理問答

問58 第四戒では、何が求められていますか。

答 第四戒は、神が御言葉に定められた一定の時を、神に対して清く保つことを求めています。特に、七日のうちの九一日を聖安息日として、神御自身にたいして清く保つことを求めています。

〈神のみもとにある安息〉

多くの人々は、安息を求めてレジャーや旅行に出かけます。しかし、真の安息はそのようなストレス解消では得ることができません。第四戒は、真の安息が神のみもとにあることを教えます。

「安息」とは、「休む、やめる」という意味です。ですから、私たちの生活の中で、生活の必要を得るための労働をやめ、休むのです。労働・わざをやめるとは、なかなか難しいことです。多くの場合、人は何かをすること、労働・わざに生きがいを感じており、それをやめることは自分を失うことのように思えるのです。労働・わざをやめることができるとしたら、それは、別のところに人生の土台を持っているということにほかなりません。すなわち、私たちキリスト者は、神のみもとに人生の土台を持っているのです。「自分を生かす土台が贖い主なる神のみもとにある」。「安息」とは、ですから、主なる神を土台として生きるという、信仰の告白にほかなりません。

〈安息とは神を礼拝すること〉

ですから、安息とは、ただ労働・わざをやめて無為に過ごすことではありません。「主なる神のみもと」にあつて神の働きの中にとどまることです。御言葉と聖霊の働きに自らを委ねることです。具体的には、神を礼拝することです。

「聖別する」とは「取り分ける」ことであり、

神のものとしてあらかじめ取り分けるのです。時間に余裕があれば神のものとするというのではなく、まず最初からこの一日は神のもので、この一日を自分のために用いるならば、それは神から一日を盗むということにほかなりません。

〈すべての人の安息〉

安息日の根拠は、主が創造の第七日に休まれたこと（出エジプト 20:11）と、エジプトの奴隷生活からの解放（申命 5:15）の二つです。ですから、安息日の目的は、一つには神のみもとに生きる祝福に感謝して、神を讃美することです。もう一つは、贖いの御業（解放）を思い起こして、家族や隣人を休ませることです。そして、これは一つのことです。神のみもとにおいて、すべての人が、生物や自然界、また世界が、あらゆる重荷、縄目から解放されて、真の安息を見いだすのです。決して自分一人の休みではありません。

そうであれば、この安息日にこそ、人を神のみもとに招くわざ、また人に仕えるわざが求められるでしょう。キリスト者は、執り成し手、また恵みの福音の使者として用いられるのです。

〈主の日〉

キリスト教会は、主イエス・キリストの復活を記念して、週の第一日を安息日としています。「主の日」です。この日を神に捧げて生きることが、神によって一週を生かされる出発点です。

テキスト ルカによる福音書 6章1～11節
カテキズム 子どもカテキズム 問49,50

「主の日を聖別する」

〔単元のねらい〕

我々の安息日は主イエス・キリストの御業によって、復活日、日曜日となった、この日を主の日と呼ぶ。この日に主イエス・キリストは、我々をご自身への礼拝へと招いて下さる。その喜びと感謝を、この単元で確認したい。主の日を礼拝日として取り分ける努力をすることは、我々の特権であり、恵みの努めである。

安息日に弟子達が麦の穂を摘んだ。これを咎めるファリサイ派の安息日理解と主イエスの安息日理解とを比較する。そこで、明らかになるのは、十戒の成就者、十戒の主はイエス・キリストご自身であられることである。福音としての律法という理解の下に十戒を語りたい。

皆の中で、そろそろ十戒を暗唱できるようになったお友達はいますか。皆で、毎週唱えて、最後には、全員が覚えられる事を先生は期待しています。

今日は、十戒の四番目、「安息日を心に留め、これを聖別せよ。」です。つまり、「安息日には休みなさい。休むだけでなく、神さまを礼拝しなさい。」そういう掟です。

もともとこの安息日の掟が定められたのは、神さまが天と地とを創造されたとき、第七日目を休まれたからです。第七日目つまり土曜日を休みの日、礼拝の日として定めたのです。もう一つの理由もあります。神さまの民のイスラエルは、昔エジプトで奴隷でした。だから、今、働かされている奴隷のことを考えて、彼らを休ませてあげなさい。そして、昔、自分達も奴隷であった事、けれども、神さまの素晴らしい力によって、救い出された事をあなたがたはその日に良く思い出しなさい。二つの理由から安息日の掟が定められています。要するに、人間は生きている時、どんな時でも神さまを中心にしなければなりませんよ、その為には、一週間のなかで土曜日をきちんと休む事によって、あなたがたは神さまを第一にするのですよ、ということです。

これまでの、第一戒から第三戒までは、神さまを神さまとして第一にすることが求められまし

た。でも、それは目に見えません。けれども、この安息日の掟は、守っているか守っていないか、目に見えますね。神さまを信じるって言う事は、目に見える行いが必ず現われてくるのです。

さて、ある日のこと、イエスさまとお弟子さんたちが麦畑を通っておられました。お弟子さんたちは、麦の穂を摘んで、手でもんで食べました。ところが、それを見ていたファリサイ派の人たちが、恐ろしい顔で、お弟子さんたちを叱りつけました。「麦の穂を摘んだのを見たぞ、手でもんでいたのを見たぞ、それは、立派な働きだ。今日は、土曜日、安息日だぞ！今日は、働いてはいけないのだ。お前達は、安息日の掟を破ったのだ。何故、そんな悪い事をするのか。」するとイエスさまは、仰いました。「昔、ダビデがお腹をすかしていた時に、いっしょにいた人と神殿に入って、祭司だけが食べることのできる供えられたパンを食べたと聖書に書いてあります。それを知らないのですか。」

その頃、ファリサイ派の人たちは、安息日にしてはいけないこと、と言う掟を何百も、作り出していました。「校則」、学校の決まりってあるでしょう。それよりも、何百倍も多い掟です。例えば、安息日は火を使ってはならないとか、900メートル以上の距離を歩いてはならないとか、嫌になるほど多いのです。「自分は神さまを信じて、こ

んなに立派に掟を守っていますよ。その証拠に、ほら見てください。あれもしてません。これもしてません。どんなに、不自由な暮らしでも、へっちゃらへっちゃら、私は、エッヘン、神さまを信じて、こんな立派なのです。」安息日の掟は、目に見える行いについてのものでしたから、ファリサイ派の人たちは、皆、競い合って、いくつもの掟を考え出して、自分の熱心さ、正しさ、見せびらかしたのです。

それなら、イエスさまは、そんな彼らをどのようにご覧になっておられたのでしょうか。「あなたがたは、素晴らしいね。そんなに、神さまを大切にしているのは、感心です。すごいです。偉いね。」と仰ったのでしょうか。いいえ、全く反対です。イエスさまは、悲しんでおられます。憤っておられます。「違う。違う。あなた方は、安息日を守っているのではない。あなた方は、神さまを第一にしているようで、全然違う。あなたたちは、ただ自分がどれだけ、立派な人か、神さまに従っている人かということ自慢したいだけなのだ。」そして、最後に仰いました。「私は、安息日の主です。」つまり、これは、「安息日は、私のためにあるのです。私が主人公です。」と言う意味です。つまり、安息日は神さまを特別に礼拝する日なのですが、その礼拝の相手は、イエスさまなのだということです。安息日の主人公、イエスさまに喜ばれないで、いったい、安息日を守るなんて空しいと思いませんか。

もしも誰かが、「神さま、神さま」って言ったとしても、それが、ただ自慢する気持ちのためだっ

たら、何の意味もありません。神さまに喜ばれるのは、心から神さまを愛し、お友達を愛することです。愛する心がないのに、神さまを礼拝しても空しいのです。あるいは、「神さまに喜ばれることをするならば、日曜日をお休みしても良い」というのはどうでしょうか。それも、通用しません。僕たち私たちは、イエスさまによって、罪を赦していただいて、神さまの子どもとされました。その、イエスさまを、第一にすること、愛する事は、日曜日に教会に来る事です。イエスさまを礼拝することです。そして、いやいや教会に来るのであれば、神様は喜んでくださいますか。私たちが喜んで教会に来て、心から礼拝することを神さまは喜ばれます。

最後に、昔は、安息日は土曜日でしたね。でも、今は、日曜日になっていますね。どうしてでしょうか。安息日の主は、イエスさまです。このイエスさまは、日曜日の朝にお墓の中からお甦りになられました。ですから、日曜日が私たちの安息日です。日曜日の朝、イエスさまは一人一人の名前を呼んで、「ここに来なさい」と招いておられるのです。だから、この掟は、僕たち私たちを救う掟、神さまの愛を受けさせるための喜びの掟だということが分かります。何度守れなくても、そこでがっかりして、「もうダメなのかな」と思わないで下さい。「もう、皆勤賞をとれないから、休んでしまおうかな」と考えないで下さい。「守れなかったら、もうダメです。」とは、イエスさまは仰いません。これからも喜んで、安息日を、日曜学校の出席を守りましょう。

今週の暗唱聖句

安息日を心に留め、これを聖別せよ。

出エジプト記 20章8節

〈目標〉

一週間は、主の日に始まり、次の主の日の備えであることを知ろう。

〈ミニ・ストーリー〉

今日は待ちに待った日曜日。ゆうじくんは先週、お友だちのよしくんに日曜学校へ誘われてから一週間、この日を楽しみに待っていました。日曜日は、イエス様がよみがえられた記念の朝。みんなでお祝いするのが礼拝。日曜の朝は、「特別な日」だとゆうじくんは日曜学校の先生から教えてもらいました。ゆうじくんは初めて日曜学校へ行った日のドキドキが、ワクワクに変わっていることに気が付きました。

教会へ着くとすぐに先生が来て、「よく来たね。

待っていたよ。お祈りしていたよ。」と言ってくれました。ゆうじくんは、先生に言われたこのことばがイエス様に言われているような気がして、とても嬉しくなりました。「今日から始まる一週間を、神様にお祈りして、また日曜学校で元気なお顔を見せてね。」

ゆうじくんが幼稚園へ行く時、お母さんは「行ってらっしゃい」と言ってくれます。家に帰った時「ただいま」と言うと、「おかえりなさい」と言ってくれます。ゆうじくんは、礼拝の中でそっと「イエスさま ただいま」と言ってみました。「ゆうじくんおかえり。そして、行ってらっしゃい」と心の耳が確かにイエス様の声を聞きました。

たくさんのひまわりの花が天を見上げて、しずかにゆれていました。

〈鳥の工作〉

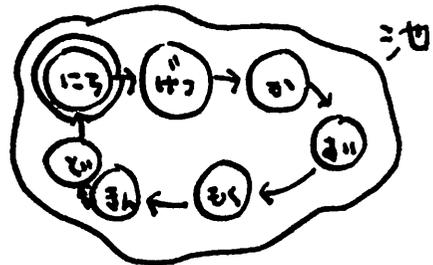
- 簡単な鳥の工作をしましょう。
- 池の中に日～土の曜日を描いて、すごろくのようにみんなで一週間を考えます。
- 準備しよう

画用紙

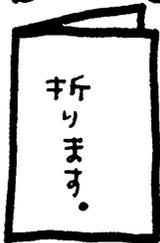
鳥用は折り紙のほうがGOO

池用はB4サイズ程度

はさみ、マジック、などなど……



B5の色画用紙 半分



〈折り〉

主の日に「ただいま」「行ってきます」と言えるこどもでいさせてください。アーメン。

〈目標〉

日曜日の恵みを心から感謝し、この日を私たちの喜びの日とする。日曜日の恵みが、主イエス・キリストの復活によって完成したこと。

〈礼拝説教を振り返る〉

日曜日は、安息日とも言われます。一週間のうち、いちばん好きな曜日は、何曜日だろう。日曜日が好き、私たちはそう答えたいですね。

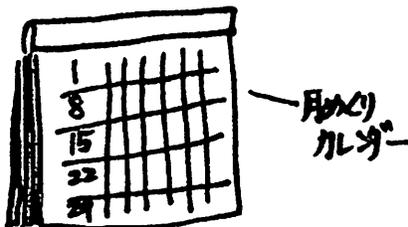
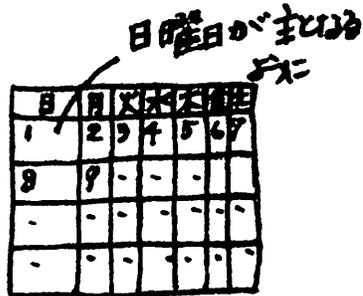
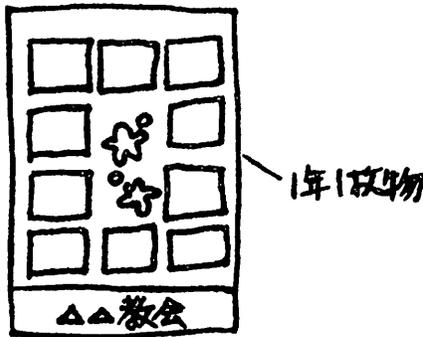
ファリサイ派の人びとは、「安息日に〇〇してはいけない」という掟を、どんどん増やしました。自分で掟をまもって、自分のすばらしい信仰を見せびらかしたのです。

神さまの前で自慢することを、イエスさまは喜ばれますか。自慢することは、自分を「主人」にすることです。でも安息日のほんとうの主人は、だれでしょう。イエスさまです。私たちのために、十字架にかかり、死んで復活されたイエスさま。その復活の記念の日曜日に、私たちはいつも招かれています。

〈祈りましょう〉

めぐみのかみさま
 今日の日曜日に教会にきました
 日曜日がすきです
 日曜学校の礼拝が
 もっともっと好きになれるようにしてください
 ファリサイ派の人びとが
 安息日に自分のことを自慢しました
 イエスさまがいちばん嫌われること
 イエスさまが
 私たちの罪をゆるしてください
 永遠のいのちをくださいました
 日曜日に
 友だちや家族といっしょに過ごせることを
 感謝します
 イエスさまのお名前によって
 アーメン

〈みんなでカレンダーをつくらう〉



- ・白地に枠を書き、人数分コピーする。
- ・日曜日を大きくとること。
- ・教会の行事予定や日曜学校のお友だちの誕生日などを書き込もう。

7月28日 「第四戒 主の日の安息」 小学科中級 分級教案

〈目標〉

安息日の意味を学び、これを正しく守ることが出来るように導く。

〈指導上の心得〉

単なる休みではなく、罪からの解放、神を礼拝するため、そして休息であることを伝えたい。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・安息日とは何のことだと思っていたか、みんなで話し合ってみよう。
- ・安息日は誰が定め、誰のためにあるのだろうか、なぜ守らなければならないのか考えてみよう。
- ・安息日は、主の復活を記念して日曜日に守られますが、それは神を礼拝するためであり、このために仕事を休み、体と魂を休ませ、神への礼拝へと向かうのです。この大切な教えを子どもたちにしっかりと教え伝えたい。

〈ワーク〉

1. 第四戒で神様が願っておられることは何でしょう。次の文章の（ ）をうめてみよう。

私たちの安息日はイエス様が（ ）された日曜日です。私たちはこの日を主の日として、特別にとりわけ、この日を目指して（ ）を歩みます。

2. ファリサイ派の人とキリスト者の主の日の守り方について考えて書きましよう。

キリスト者＝
ファリサイ派＝

3. 神様に喜ばれるためにあなたは日曜日に何をしますか。考えて答えよう。

4. 第四戒を書いて覚えよう。

〈答え〉

1. 復活、一週間

7月28日 「第四戒 主の日の安息」 小学科上級 分級教案

〈目標〉 「安息日」の戒めを義務や禁止といった面からではなく、「喜び」「特権」という積極的な面から聖書を通してとらえる。

〈指導上の心得〉 ファリサイ人たちの誤りは、我こそは安息日の主であるとの高慢さ(律法主義)にあった。しかし「人の子は安息日の主である。」私たちはなぜ主の日を厳守するのか。それは主イエスのもとにこそ、魂にとって真に必要な安息があるからである。安息日は私たちのために備えられた恵みの日である。私たちが義務や強制ではなく、喜んで十戒を守る根拠もそこにある。

〈展開例〉

1. 旧約聖書をひらいて、第四戒(出エジプト20章8～11節)を読んでみよう。

① 8節＝安息日を「心に留め」、「聖別」(あらかじめ取り分ける)することは、当日だけでなく日頃から求められることである。

② 9節＝そのためにも、他の六日間の過ごし方を

誠実に過ごすこと。自分だけではなく、他の人も安息日を守られるようにする。

③ 10節＝今日の聖書箇所にも最も関連するところ。ファリサイ人はここを律法主義的に解した。しかし安息日規定の趣旨を忘れてはならない。

④ 11節＝あわせて創世記2章1～3節を読む。

安息日はすばらしい創造の御業を完成された神を覚え讚美する日である。これに加え新約時代においては、主イエスの贖いの業による人類の再創造の御業を記念する意味が加わった。主イエスの復活を記念として日曜日が安息日として守られることになったことを確認する。受難の聖書箇所を選んで読もう。創造のわざ+救いのわざが、新約以降を生きるわたしたちの第四戒の根拠となる。

〈折り〉 天地の創り主なる父よ、御子イエスさまによって罪から救ってくださった事を感謝します。そのような神様を心から礼拝するために喜んで安息日を守ることが出来ますように。



創造の秩序

「主は天と地を六日の間に創造され、七日目に休まれた」(創 2:1-3)

から、七日目は安息日。



墮落

エデンの園を耕し守り、園の木から取って食べる生活から、園から追い出されて、顔に汗を流してパンを得る生活へと変わる。

神様と共にある安息(勤労と礼拝)の生活→神様を離れた奴隷(労苦)の生活。



贖罪

奴隷生活からの解放(出エジプト)を記念して、解放された者として、

七日目を聖別して安息日を守る(申命記 5:12-15)

六日の間働いて、神様の栄光をあらわし、七日目はいかなる仕事もしてはならない。家族も奴隷も家畜も町の門の中に寄留する人々も。「元気を回復するために」(出エ 23:12)。奴隷や寄留者について自分たちもそうだったことを思い出すために。

七日目に働いた者への罰は死である。

マナの奇跡(出エ 16:23-29)

イエス様とパリサイ人の安息日論争(マルコ 2:23-3:6)。安息日は人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。安息日の奴隷となっていたパリサイ人。

キリストの復活を記念して、「週の初めの日」を「主の日」と覚える。集まり、パンをさき、献金を集める(使徒 20:7、コリント一 16:1-2)

終末～もはや悲しみの嘆きも労苦もない(黙 21:4)



完成の途上—わたしたちの問題

クリスチャンは生活の全てを神様に献げる。週のはじめに公同礼拝の祝福を受け、一週間を始める。そこで、キリストにお出会いする。礼拝(御言葉と聖餐)は天国の前味。

ノンクリスチャンは七日間全てを自分のために使う。社会全体がそれを当然だと思っている。その中で、生活の全てを神様に献げ、「主の日」を聖別するためには、当然闘いがある。いかに主に信頼しその闘いに勝っていくか?

毎日聖書を読もう

日 出エ 21:33-22:14

月 出エ 22:15-26

火 出エ 22:27-23:9

水 出エ 23:10-19

木 出エ 23:20-33

金 出エ 24:1-18

土 出エ 25:1-22

暗唱聖句

(出エジプト20:8)

子供たち、父親たちにそれぞれパウロが勧めの言葉をかける箇所です。

パウロのこの手紙では5章から、「神に倣う者となりなさい」(1節)、「賢い者として歩みなさい」(15節)、「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい」(22節)、「夫たちよ、キリストが愛し、与えたように、妻を愛しなさい」(25節)、「子供たち、主に結ばれている者として両親に仕えなさい」(6章1節)、「父親たち、主がしつけ諭されるように、育てなさい」(4節)、「奴隷たち、キリストに従うように、主人に仕えなさい」(5節)、「主人たち、同じように奴隷を扱いなさい。分け隔てなさらないのです(から)」(9節)、と一連の様々な立場にある者への勧めがなされています。共通することは立場が違い、その立場への勧めが違うとは言え、すべての人が主イエスを手本とし、主に従うという意味でその立場でのあり方が教えられている点です。

(1) 「従いなさい」「育てなさい」

前述のように父と子供ではそれぞれに主に喜ばれるあり方が違います。子供は両親に従う、父親は育てるという働きです。とりわけ育てる側の父親には「子供を怒らせてはなりません。」という注意付きです。育てる側には大きな責任と知恵が

必要です。その知恵とは「主がしつけ諭されるように」という主御自身の育て方にあります。

(2) 主に結ばれている者として

父親が主に倣うのと同様に子供も「主に結ばれている者として」従うように勧められています。ここでは子供なんだから親の言うことを聞くのは当たり前ということではなくて、子供であっても「主に結ばれている」ということで両親に従うのです。未成熟であっても、主に結ばれているという点では子供も親と違いはないのです。「あなたがたは主に結ばれているんですよ!」ということがその根底にあるのです。

(3) 約束がある

ここでは十戒の第五戒を引用してそれは「約束を伴う最初の掟」だと説明しています。そもそも神様が与えられた関係には神様の栄光と祝福がそれによってあらわされるようご計画されています。神さまから与えられたこの関係を大切に、その関係に与えられている義務と特権を果たすことの中で、必ず神様の栄光と祝福が現れてきます。この神様のご計画と約束を信じるのが大切なのでしょう。

子どもカテキズム

問50 第五戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまは、私たちに、お父さんやお母さん、先生やお友だちを与えてくださいました。ですから、私たちは、神さまの故に、お父さんやお母さん、先生の教えてくださることを素直に聞き、お友だちを大切にします。神さまは、そのような人に祝福を豊かに与えると、特別に約束してくださいました。

ハイデルベルク信仰問答

問104 第五戒で、神は何を望んでおられますか。

答 わたしがわたしの父や母、またすべてわたしの上に立てられた人々に、あらゆる敬意と愛と誠実とを示し、すべてのよい教えや懲らしめにはふさわしい従順をもって服従し、彼らの欠けをさえ忍耐すべきである、ということです。なぜなら、神は彼らの手を通して、わたしたちを治めようとなさるからです。

〈中心は神を神とすること〉

十戒の御言葉は、神との関係を教えた前半から、隣人との関係を教える後半へと展開します。第五戒は、後半の最初の御言葉であり、前半と後半の橋渡しの役割を果たしています。第五戒は、隣人との関係においても「神を神とする」ことが中心であると教えています。神を神とする歩みが共同体や隣人との生活の中に現れ出て、神の民の生活が守られ、主の恵みの中に生かされるのです。

〈神が定められた秩序としての親子〉

「敬う」とは、本来は神に対して用いられる、「神を重んじる」という意味の言葉です。この言葉が父母に対して用いられるのは、子にとって親が神を代理するからにほかなりません。すなわち、親は神の御言葉を子に取り次ぎ、神に代わって子を養育するので、敬われます。ですから、第五戒は、ただ人間の長幼の序を教えるのではなく、「神が定められた秩序」を教えています。

ですから、「父母である」ということ、「子である」ということそのものに、「父母を敬う」根拠があるわけではありません。「父母を敬う」根拠は、神がその秩序を定められ、神がそう命じておられるからです。そのため、親が尊敬に値するかどうかは問われません。たとえそうでなくても「父母を敬え」です。神が彼らを父母として与えられたのです。これは、子どもや青年が親に対して取

る態度というだけではなく、老いの時期を迎えた親にどう対処していくのかということでもあります。また逆にこれは、親に対しても「子が神から与えられた」賜物であるということを意味します。たとえどんな子であっても「我が子」なのです。親は子を受け入れて愛し、神の御言葉によって養い育てなければなりません。親には子を神の民として育てる義務と責任があります。

〈神が人間関係を祝福される〉

神は私たちに、親や家族、友人や先生、多くの隣人たちを与えてくださいました。私たちの人間関係はみな、神から与えられたものであり、賜物にほかなりません。ですから、親や教師や先輩を受け入れて感謝し、ふさわしく尊敬し、服従します。これは歴史や伝統を受け入れるということでもあります。こうして、神の恵みを受け入れ、その中で喜んで生きるのです。そのところに神からの豊かな祝福がともなうことが約束されます。

これらはすべて、神から与えられた賜物であり、絶対ではありません。神との関係が絶対であり、人間関係や伝統は、神との関係の中で正されるべき相対的なものです。神の御言葉に反することが求められるならば、立場を越えてそれを正してこそ神に喜ばれる人間関係です。人間関係においても、祝福はただ神を神とするところにあります。神が人間関係を新たにされ、祝福されます。

テキスト エフェソの信徒への手紙 6章1～3節
 カテキズム 子どもカテキズム 問51,52

「父と母を敬う」

〔単元のねらい〕

対神関係の掟から、対人関係の掟へと移行する最初の戒めを学ぶ。子どもたちが健やかな成長を遂げるために、共に生きる仲間、親、兄弟との関わりが決定的な影響を及ぼす。父と母を敬えと言う戒めは、まさに、神の我々への愛の戒めである。しかし、墮罪の故に、この戒めは、我々を窮地に立たせる事ともなる。尊敬できない両親、憎しみ、反発の対象でしかなくなってしまった隣人……。集う子どもたちの現実の中にも、片親の子、両親がいても愛情を注いでもらっていない子らがいるかもしれない。分級において、家族環境、家庭生活のことをそれとなく、聞き出して祈りに覚え、あるいは、日曜学校全体で取り組む事が必要なこともあるかもしれない。子ども達の心の中の問題は、置かれている環境の問題と相通じる部分がほとんどではないか。夏休み真っ盛りである。子どもらと深く触れ合いたい。この戒めを語るのは、子ども達の「父母」の年齢に当たる兄姉であろうか。神の御前で、父母とされたその使命を悔い改めと感謝とを心新に持つことなしに、語れまい。礼拝式においては、言うまでもないが、「道徳」のお話をして済ますわけには行かない。主イエス・キリストを礼拝する。主イエス・キリストの御業によってのみ、この戒めは新しい響きを立てていることを語りたい。

皆には、お父さんお母さんがいるでしょう。お父さんだけとか、お母さんだけとかのお友達もいるかもしれませんが。皆には兄弟がいますか。二人兄弟、三人兄弟ですか。もちろん兄弟のいないお友達もいるかもしれませんが。皆、自分の周りにいる人たちのこと大好きですか。大好きでいる人は、とっても幸せです。

神さまは、僕たち私たちを愛して、命を与えて下さいました。その命は、お父さんとお母さんを通して与えられました。僕たち私たちは、生まれてくるとき、お父さんやお母さんを選ばませんでした。もちろん、お父さんもお母さんも、皆の事を自分の子どもにしようと選ばませんでした。全ては、神さまのご計画なのです。つまり、神さまによって、お父さんお母さんが与えられたのです。だから、神さまを信じる人は、お母さんお父さん、兄弟、そして、学校のお友達、先生、一緒に生きている人たちを敬い、愛さなければなりません。神さまを愛することと、それらの人たちを愛する事とは別々のことではないのです。

さあでも、もしかすると皆の中には、自分の親を「好きなんだけど、好きじゃない」とか、「時々

大嫌いになっちゃう」とか、「大嫌い」と悩んでいるお友達もいるかもしれません。「いつも忙しくて遊んでもらえない。」「かまってくれない。」「叱ってばかりいる。」「優しくしてくれない。」とかいろいろ悩んでいるお友達もいるかもしれません。一緒に考えましょう。

数年前、新聞を読んでびっくりしたことがあります。それは、お母さんが自分の息子を殺そうとしたというのです。自分の子どもに薬を飲ませ眠らせて、そして、車ごと海に転落させたのです。そのお母さんは、保険金を自分の子どもにかけていたのです。死んだら何千万円と言うお金が貰えるようにしてあったのです。けれども、その子どもは、自分の力で泳いで助かりました。先生は、胸がつぶれる思いがしました。自分のお母さんに殺されそうになったその男の子は、これから先、いったいどんな心になるのでしょうか。どうやって生きてゆけるのでしょうか。勿論、お金の問題ではありません。育ててくれる親がいない子どものための施設があるので、食べる事、住む事、勉強する事はできると思います。でも、喜んで、感

謝を持って、つまり幸福に生きて行けるのでしょうか。一体、神さまは、そんな悲しい目にあった男の子にも、「父と母を敬いなさい」と仰つるのでしょうか。それともあの子にだけは、仰つらないのでしょうか。

創世記の中に、アブラハムが独り子のイサクを神さまに献げる物語があります。簡単に言うと、アブラハムとサラは結婚していました。彼らは、神さまにずっとずっと「子どもをお与え下さい。赤ちゃんを授けて下さい。」とお祈りしていました。そして、ついに、アブラハムが100歳の時、イサクが生まれたのです。どんなに、二人は喜んだことでしょう。ところが、大切に、大切に育てたその愛するイサクを神さまが、「献げ物としてささげなさい」と命じられたのです。アブラハムさんは、神さまの仰つるとおりにしました。自分の子のイサクを縛って祭壇にのせて、剣を取って振りかざそうとしたのです。その時です。天から御使いが呼びかけました。「アブラハム、アブラハム！ その子に手をかけてはなりません。殺してはいけません。」

神さまが、何故、そのようなことをアブラハムにお命じになったのかは、今日はお話ししません。でも、皆は思い出せるでしょう。神さまの独り子のイエスさまのことを。イエスさまは、ご自分を僕たち私たちの罪によって受けるべき刑罰、神さ

まからの審きを身代わりに受けて下さいました。イエスさまは、僕たち私たちのために喜んで十字架に釘つけられました。そして、そのイエスさまを僕たち私たち罪人の代表として、天のお父さまは、どうされたのですか。本当に、罰しておしまいになられたのです。少しも手加減せずに。その時、天使は言いませんでした。「聖なる聖なる神さま、止めてください。」もしも、天使がそう叫んだとしても、天のお父さまはお止めにはなりません。僕たち私たちが神さまの子どもにしていただけの道、方法は、独り子のイエスさまを犠牲にする以外にないからです。

もしも、あの男の子があなたのお友達であったら、このイエスさまを、天のお父さまの事を伝えてあげたいと思いませんか。そして、僕たち私たちは、この天のお父さまに愛されていることを心から信じましょう。イエスさまに命がけで愛されていることを信じましょう。もしも、お父さんお母さんで悲しい思いをしているお友達がいたら、お友達との関係で悩んでいることがあったら、分級の先生に教えてくださいね。お祈りしてくれるはず。神さまの愛のご計画によって与えてくださった、皆のお父さん、お母さん、兄弟、先生、お友達です。神を愛し、両親、お友達、全ての人を大切にして行きましょう。

今週の暗唱聖句

あなたの父母を敬え

出エジプト記 20章 12節 a

〈目標〉

お父さんお母さんをくださった神様に、感謝すると共に、お父さんお母さんの言うことを素直に聞くよう、神様に命じられていることを知る。

〈礼拝説教を振り返る〉

「今日は五番目のお約束のお話しでした。五番目のお約束は、何だったかな？」

♪十戒の歌を歌う♪

「今日は、みんなのお父さんやお母さんのことを教えてね。」

※来ている子供たちの家庭の環境にも配慮して聞くようにする。

「お父さん・お母さんのどんなところが好き？」

「嫌いなどころがある子はいるかな？」

※一人だけに集中しないよう、バランスよく順番に聞いてあげられるとよい。

☆好きなどころは、「本当に素敵なお父さん・お母さんだね！」と、一緒に喜んであげたい。

「神様がくださった世界でたったひとりのお父さんお母さんです。神様はこのお父さんお母さんの言うことをよくきいて大切にしよう教えてください。」

○余談：赤ちゃんの時の写真をもってきてもらって、こんなに大きくなるまで大切に育ててくれたことを話すのもいいかでしょうか。

〈うちわを作ろう〉

○材料・・・画用紙、絵の具、割り箸（未使用）、はさみ



画用紙を
適当な大きさに切り、

画用紙の上に、
2,3色の絵の具を
少しずつのせ。
「ふっ」と息を

ふきかける。

絵の具がとびちって
なるよ。



きれいにした
画用紙を便箋といっしょ
割り箸の間に
はさみます。
セロテープで固定して
出来上がり。



〈折り〉

お父さんお母さんの言うことを素直に聞くことが出来ますようにお守りください。アーメン。

〈目標〉

神の戒めは、人びととのつながりに及ぶ。人と人を結ぶ絆をきよめ、造りかえる。新たにされた絆として、父と母の恵みをうけとめること。

〈礼拝説教を振り返る〉

皆さんは、お父さん、お母さんのことを、どんなふうに思っていますか。ちょっとこわいとか、やさしいとか……。

家族がなかよくできることは、ほんとうにしあわせですね。つらくて、かなしい経験をしている子どもたちも大勢います。先生も、自分のお父さんを尊敬できなかつたときがありました。

神様は、ひとり子イエスさまを私たちにくださるほど、私たちを愛されました。天のお父様を私たちはいただいています。イエスさまを殺してしまうような、ひどい私たち。それでも神さまは、私たちを愛して、ゆるしてくださったのですね。

私たちの家族一人ひとりも、神さまに愛された人たちです。大切にしようね。

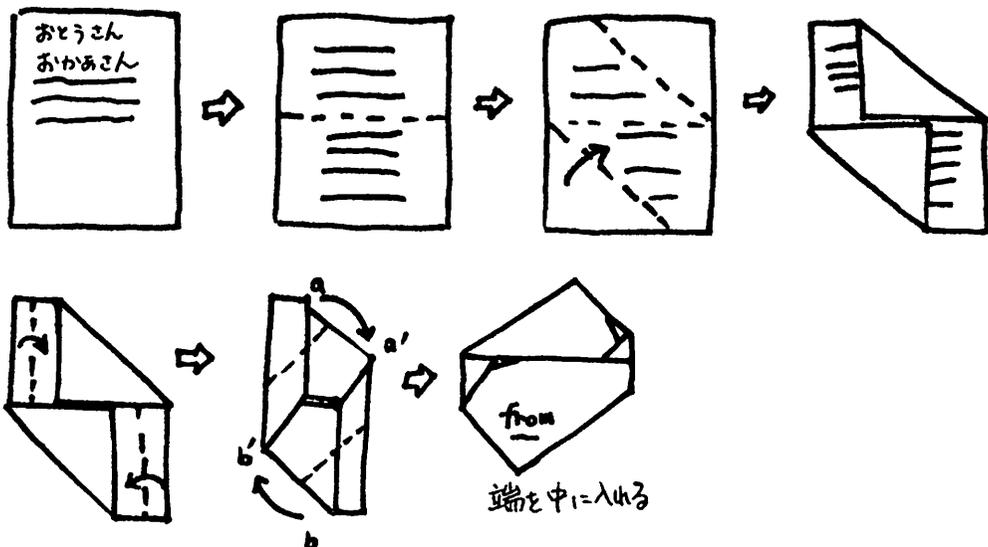
〈祈りましょう〉

めぐみのかみさま
私たちに命をくださり
ありがとうございます
私たちが選んだものではありません
神さまが私たちのために
選んでくださいました
家族がなかよくできますよう
私たちも家族を大切にします
神さまは
ひとり子イエスさまをくださるほど
私たちを愛してくださいました
夏休みのあいだ
いつも私たちの家族といっしょに
いてください
イエスさまのお名前によって
アーメン

〈手紙を書こう〉

○お父さんやお母さんにお手紙を書きましょう。

○それを、かわいくたたんで渡します。



〈目標〉

第五戒が意図する意味を理解させ、神の定められた秩序を守ることが出来るように導く。

〈指導上の心得〉

第五戒の位置付けを示す。また子にとって父母が神の代理であることを覚えたい。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・第五戒が教えている父母とは、父母だけだろうか。そこに何が含まれているか考えてみよう。
- ・何故父母を敬わなければならないか、その根拠は何だろうか。悪い事でも父母の言うことに従わなければならないか、みんなで話し合おう。
- ・父母は、子にとって神を代理する役目を負っている。神の定められた秩序として、まず神を神とし、次に神の立てられた上なる者を尊敬して神からの祝福をいただけるように導きたい。

〈ワーク〉

1. 聖書はみんなの両親をどうしなさいと教えているかな？
 2. 「敬う」ってどういう意味かな。次の中から選んでみよう。
 - a) 友達のようになれなれしくする。
 - b) 悪口や文句を言う。
 - c) 心から愛して、大事にし、言うことを聞く。
 3. 両親を敬うとどうなるって聖書に書いてあるかな？ 書き出してみよう。
 4. どうすれば両親を敬うことができるかな。
 - a) 一生懸命できるように努力する。
 - b) 神様を愛して、神様にできるようにお祈りして、神様に導かれてできるようにされる。
- 〈答え〉
2. c) 4. b)

〈目標〉

神の定められた秩序を理解し、主にある人間関係を目指す。

〈指導上の心得〉

自我が芽生え始め、人間関係、特に親子関係、友人関係、学校の先生との関係に悩んでいる子供はたくさんいます。それぞれの子供に応じた個別の対応が望まれる。

〈展開例〉

(1) 神によって定められた権威への服従

ローマ 13:1 を子供たちと一緒に読んでみよう。全ての権威は神によって定められたことを理解したい。「権威」＝「親、学校の先生など」と読み直すと子供にはわかりやすい。

「契約の子は親によって御言葉が教えられる」は神によって定められた秩序である。それ故に子

は親に従わなければならない。

(2) 神様からの恵みとしての隣人

今ある人間関係（親、友人、兄弟、先生、教会員など）は全て神様によって与えられるものである。それぞれの場でどの様にしたら神を喜ばせることになるのかを子供たちと話し合う。コロサイ 3:20 「子供たちよ、どんなことについても両親に従いなさい。それは主に喜ばれることです。」

〈折り〉

神さま、私たちに愛の戒め「父母を敬え」を与えて下さりありがとうございます。私たちがこの戒めを守っていくことができる様に助けてください。



創造の秩序

「男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」(創2:24)

「親-子」は社会(人間関係)の最小単位。「離れて自立すること」が前提とされている。

神と人、親と子は、本来、愛に満ちた服従の関係。尊敬する。仕える。真の「服従」の中に真の「自立」がある。



墮落

「神と人」の関係の崩壊によって「親と子」の関係も崩壊した。そして、社会全体、全ての人間関係が呪われ、歪んでいる。



贖罪

出エジプトをして約束の地(神の賜る地)へ行く途中頂いた十戒の第五戒は、「神の賜わる地で長く生きるために」に「父と母を敬え」と教える。神様の恵の中で、長生きをする。そのための人間関係の基本。

イエス様は、両親に仕えてお暮らしになった。

「わたしよりも父や母を愛する者はわたしにふさわしくない」(マタイ10:37)とも仰った。

十字架と復活によって、父と子の関係の和解が行なわれ、神と人の関係の和解と回復、親と子の関係の和解と回復、あらゆる人間関係の和解と回復が成し遂げられた。

終末に向かって、不法がはびこり、多くの人の愛が冷える(マタイ24:12)。その中で教えられる、クリスチャンとしての「親-子」関係の在り方(エフェソ6:1-4)

終末には、もはや、呪われるものは何一つない。神の僕たちは神を礼拝し、御顔を仰ぎ見る(黙22:3-5)



完成の途上—わたしたちの問題

現代社会は、不法がはびこり、多くの人の愛が冷えている。冷たい人間関係・親子問題・教育問題・政治に対する無関心、等々。

人々は、神様のたてられた「権威」「秩序」に従うことを良しとしない。親、教師、国家権力等々。

クリスチャンとしての「親-子」関係の在り方(エフェソ6:1-4)を実践するには、どのような困難があるか? どのように主に信頼し、親子関係を築くか?

毎日聖書を読もう

	日 出エ 25:23-40	
	火 出エ 26:15-37	月 出エ 26:1-14
	水 出エ 27:1-21	木 出エ 28:1-14
	金 出エ 28:15-35	
		土 出エ 28:36-43

暗唱聖句

(出エジプト20:12a)

テキスト 創世記 1章 20 ~ 31 節

神様の人間創造を教える箇所です。

六日にわたる神様の創造の御業と七日目の祝福の御業が最初に語られていて、その中で命の根源とその創造の御業を取り上げられています。

20 節から語られる生き物の創造は次のようになっています。

空と海の中に住む生き物が第五日の創造。

地上の生き物、それぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を遡うものの創造が第六日。また、人間の創造がその後ですぐ続き、神のかたちと支配という働きを与えられた人間の創造が語られます。そして最後にその形と働きを持って創造された人間に食べ物が約束されます。

(1) 人の創造

この人の創造の箇所から三つのことが明確に語られています。一つは、人は他の被造物と同じ被造物であること。二つ目には、しかし被造物の中でも特に神のかたちと働きを与えられた存在であるということです。三つ目に、その人間は男と女に創造されたという真理です。どちらが先ということではなく、「産めよ、増えよ」という神様の祝福をあらわすものとして「男と女」につくられたのです。

人は他の被造物を支配できるからといって、神になって驕り高ぶるべきではありません。支配は神様の栄光をあらわす働きとして与えられているものですし、人もまた被造物なのです。しかしまた、人は被造物なのだからといって支配する働き

もせず、他の被造物と同じようにみなされるべきではありません。人は被造物の中でも特に神のかたちを与えられ、神様の栄光をあらわす冠のような被造物として創造されているのです。その冠のような被造物である人が男と女に創造されることによって神様の祝福があらわされ、その働きによって更に神様の栄光がたたえられるように創造されたのです。

そして、主なる神は、「神はこれを見て、良しとされた。」と語られました。創造を信じる信仰は、創造の御業が神の御心の通りであることを確信しています。つまり、創造されたという信仰は被造物の中に神様のご意志と御業を認め、そこに現れた神様の栄光と祝福をたたえるという信仰を持っています。それは同時に、この被造物を壊したり、台無しにしたりする行為とその責任を神の御業に帰すことなく、きちんと区別をすることも含むのです。

(2) 命の根源

「殺してはならない」という戒めを考える時に、何よりも大切なことは、命というものの根源が神様の御心にあるということです。主なる神が人を創造し、命を与えられたのです。

「わたしがお前の傍らを通って、お前が自分の血の中にもがいているのを見たとき、わたしは血まみれのお前に向かって、『生きよ』と言った。血まみれのお前に向かって、『生きよ』と言ったのだ。」エゼキエル 10 章 6 節。

子どもカテキズム

問54 第六戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまが私たちにいのちを与えてくださいました。人を殺してはいけないということはもちろん、心の中で人を憎むこと、無視すること、いじわるを言ったり、してはいけない、ということです。神さまが御覧になれば、それらは人殺しと同じです。ですから、私たちは、共に生きることを喜び、自分のいのちも大切にします。

ハイデルベルク信仰問答

問106 しかし、この戒めは、殺すことについてだけ、語っているではありませんか。

答 神が、殺人の禁止を通して、わたしたちに教えようとしておられるのは、御自身が、ねたみ、憎しみ、怒り、復讐心のような殺人の根を憎んでおられること。またすべてそのようなことは、この方の前では一種の隠れた殺人である、ということです。

〈生命の主なる神〉

「殺してはならない」とは当たり前のことなのですが、しかし、その根拠は何かと問われるならば、なかなか答えることができません。しかし、私たちキリスト者は明確な回答を持っています。

「殺してはならない」という御言葉は、まず何よりも、生命は主なる神のものであるということを教えています。神こそが生命の主なのです。主なる神は、すべてのものを創造され、それ故に、主なる神はすべての生命の主であります。また、主なる神は「ご自分にかたどって人を創造され」（創世1:27）しました。生命の主が神であり、人が神のかたちとして造られている故に、人は人を殺してはなりません（創世9:5-7）。

ですから、私たちは、主なる神が創造された生命に対して、また神のかたちである人間に対して、畏敬の思いを抱かなければなりません。生命を奪うこと、人を殺すことは、神を神としない行為、主なる神を恐れぬ行為なのです。

〈隠れた殺人〉

「殺してはならない」とは、具体的な殺人の行為だけではありません。聖書は、「兄弟を憎むものは皆、人殺しです」（ヨハネー 3:15）と語ります。このことを受けて、ハイデルベルク信仰問答は、「ねたみ、憎しみ、怒り、復讐心」を「殺人の根」として憎むよう教え、それらが神の御前に「隠れた殺人」であると語りました。殺すほどに

人を憎んだことはないかもしれません。しかし、ねたんだり、嫉妬したりして、「あの人さえないければ」と思うことはあるのではないのでしょうか。人の失敗や挫折、不幸を願うことも私たちにはあるのです。そのような思いは、今日の競争社会の中では珍しくないでしょう。それらについても、「隠れた殺人」と言われて禁止されます。

〈真実の生命に生きよ、生命を生かせ〉

主なる神は、こうして、私たちに対して「生きよ」と言っておられます。「殺してはならない」とは、主なる神が生命を愛し、人を愛して、生かしてくださるということにほかなりません。神はどんな人に対しても、「生きよ」と言っておられます。それ故に、私たちは、喜んで積極的に生きますし、また人をも「生かす」のです。生命のために祈ることもできるのです。私たちは、主なる神によって生かされてこそ、生きる力と勇気を与えられ、真実に生きることができます。主なる神が、生命を与え、養い、祝福してくださるのです。

そして、殺すことや殺人の根から解き放たれて「神の生命」として真実に生きる道は、ただ主イエス・キリストにあります。私たちの罪の故に、主イエス・キリストは死なれ（殺され）ました。しかし、今や私たちは主イエス・キリストによる罪の赦しを与えられ、神の愛を知り、キリストによって生かされる者とされました。ここに人としての「真実の生命」に生きる道があります。

テキスト 創世記 1章20～31節
カテキズム 子どもカテキズム 問53,54

「殺してはならない」

〔単元のねらい〕

人を殺してはならないという掟は、あらゆる掟に通じる普遍的なものである。しかし、今日、少年犯罪、少年による殺人が例外的な事件ではなくなっている。何故、人を殺してはいけないのか、理由が聞きたいと公言する少年も現われている。教会は、今こそ、発言しなければなるまい。そのような少年の心の闇をこそ理解できるのは、自分自身のうちに罪の闇の部分があることを知っている教会以外にない。私どもは、それを見つめてなおし、そこに主イエス・キリストの命の光が射しこみ、明るく生きる幸いを得ている。人間の罪の闇とキリストにある救いの深みから、この掟を語ることができたら幸いである。ここでも、主イエス・キリストが何をしてくださったのかを明らかにする事が、説教者の課題である。

創世記の第4章には、カインとアベルの物語があります。カインとアベルは兄弟です。カインはお兄さん、アベルは弟。アダムとエバの子どもです。カインは、農業をしていました。アベルは羊飼いでした。二人は、それぞれ、神さまを礼拝するために、自分の働いて得たものを神さまに捧げました。ところが、神さまはカインの献げ物を受け入れられず、アベルの献げ物を喜ばれました。その時、カインは、妬みの心に燃え上がってしまいました。憤りが抑えきれなくなりました。とうとう、カインはアベルを殺してしまったのです。兄弟殺しです。

神さまは、「人を殺してはならない」と命じてくださいました。人間は土から創造されました。ですから、土に帰ってしまいます。その意味では、動物や植物などの生物と変わらない部分もあります。けれども、人間は他の生き物とは全く違います。それは、神さまの息、命を吹き入れられたからです。人間は、神さまの形に似せて創造されたのです。だから、人間は人間を殺してはならないのです。聖書には、「人を打って死なせた者は必ず死刑に処せられる。」(出エジプト記第21章)とあります。

ところがどうでしょうか。神さまは、カインを殺しませんでした。むしろ、アベルと同じように人に殺されないために、神さまは、「カインを殺

す者は、七倍の復讐を受ける」と仰って、人殺しのカインのために、「しるし」さえ付けて、この人の命を守られたのです。「アレ、ちょっとおかしいよ」って思うお友達もいるかもしれませんね。「だって、悪いのはカインなのに、カインを死刑にしないで、逆に護るなんて……。ルール違反だよ。」

確かにそうかもしれません。でも、皆と考えることがあります。皆は、人を殺したことはありませんか。皆、絶対に、「エッ！そんなことしたことない！」って思うでしょう。でも、ちょっと考えてみてください。皆は、お友達と喧嘩した事はありませんか。お友達に意地悪をしたことはありませんか。もしも、一人のお友達に皆で意地悪をしたことがあるなら、その人は、神さまの目から見ると、人殺しです。「エッ、何でー」って思っているでしょう。でも、確かに、カインのように、刃物をもって殺した事のある人はここには一人もいません。でも、言葉で、あるいは、目で人を殺してしまう事があるのです。例えば、クラスの中で、何か気に入らないとか、何か頭に来るとかで、「ちょっと、あの子のことを無視しちゃおう。遊びの仲間に入れないようにしよう。」とか、そんな意地悪な気持ちをもった事がありますか。そのお友達を無視したり、仲間に入れな

ようにすると言う事は、心の中で、お友達を殺してしまっていることなのです。そんな気持ちをもった事の一度もないお友達は、小学生の上級生にもなれば、一人もいないのではないですか。

先生も、そんな気持ちを持ったことがあります。だから、その意味で、先生も人殺しの罪人なのです。ですから、先生はもしも、神さまから「石打の刑」にされて、罰させられても「どうして私にそんなひどい事をなさるのですか」と言えません。ところが、神さまは先生を罰しませんでした。むしろ、天のお父さまは、聖霊なる神さまを与えて、先生を神さまの独り子のイエスさまと一つに結び合わせて下さいました。このようにして神さまは、先生の天のお父さまになってくださったのです。

どうして、神さまはイエスさまを信じている僕たち私たちを赦して下さるのでしょうか。それは、イエスさまがおられるからです。イエスさまは人を殺した事が一度もありません。殺すどころか、人をとことんまで愛して下さいました。悩んでいる人、苦しんでいる人、いじめられている人、痛んでいる人のお友達になってくださったのです。そのイエスさまが、先生の身代わりに、僕たち私たちの罪の、人殺しの罪の身代わりになって、十字架で天のお父さまの審きを受けて下さいました。先生の罪を、天のお父さまはイエスさまに責任を取らせてくださったのです。イエスさまは、罪を犯したことがありませんから、先生のす

べての罪の責任を負って下さることがおできになるのです。先生こそ、カインのような殺人者なのに、イエスさまがカインがうけなければならぬ罪の審きを十字架で受けて死んで下さいました。それによって、今、カインのような先生は、天のお父様によって、神さまに喜ばれる献げ物をしたあのアベルさんのようにしていただいたのです。

人から悪く言われたり、いじめられたりしたら、カア一つとなって、仕返しをしたくなるのが僕たち私たちです。でも、イエスさまの十字架を思うと、「仕返ししてやる」って言う気持ちが小さくなっていくはずですよ。だって、イエスさまは仕返しをなさらなかったからです。天のお父さまは、ご自分でイエスさまを、僕たち私たちの罪の身代わりとして、罰せられたからです。十字架の上で殺してしまわれたからです。

そして、イエスさまによって赦された僕たち私たちは、人を殺しません。それは、造り主の神さまに対して、反抗すること、軽んじることだからです。むしろ、僕たち私たちは、人を愛します。優しくするように努めます。なんと失敗しても、平気です。やり直せるからです。今週も、聖霊なる神さまに、お友達に優しくできる信仰と力を求めましょう。

今週の暗唱聖句

殺してはならない。

出エジプト記 20 章 13 節

〈目標〉

人はみんな、神様から生命をいただいて生きています。決して人を殺してはいけないこと、心の中で憎むのも殺すのと同じであると知る。

〈ミニ・ストーリー〉

あきこちゃんとゆみちゃんは大の仲良し。ある日、砂場でおだんごを作って遊んでいました。二人とも楽しく遊んでいましたが、いつの間にかけんかをしはじめました。あきこちゃんは真っ赤なお顔を怒っています。あきこちゃんのおだんごがわれていました。「ゆみちゃんなんか、だいきらい！」 ゆみちゃんとは、もうぜったいに遊ばない! お話しもしない! ゆみちゃんなんか、いなくなっちゃえばいいのに! あきこちゃんは心の中で、そう思いました。

日曜日、あきこちゃんは教会へ行きました。ゆ

うじくんやよしくんも来ています。

今日は、十戒の第六番目のお約束「殺してはならない」のお話しでした。先生は、「みんな、胸に手をあててごらん。ドキドキしてるでしょう? これは、神様が下さった大切ないのちです。だから何があっても、殺してはいけません。」と言いました。

あきこ、人を殺したことないわ。あきこちゃんは、思いました。

先生は続けて言いました。「それから、心の中でお友達や兄弟がいなくなってしまうばいいのについて思うことも、殺すのと同じことです。」

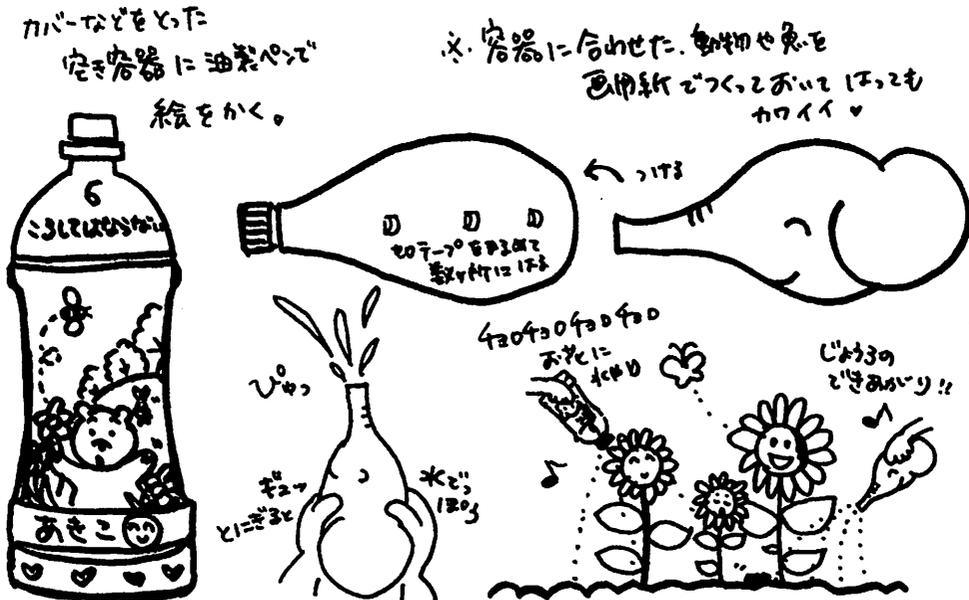
・・・えっ?! あきこちゃんは、ゆみちゃんのことを思い出しました。神様、ごめんなさい! 明日、ゆみちゃんと仲直りしよう。あきこちゃんは心に決めました。

〈水遊び〉

○材料・・・ペットボトルなど、水の入るプラスチック製の空き容器(ふた付き)

油性ペン・水

○ふたは前もって、きりで穴を数カ所空けておく。



〈祈り〉

天のお父様。心の中でも、兄弟やお友達を殺すことがありませんようにお守りください。アーメン。

〈目標〉

殺すなどという神の戒めを、本当の意味で語ることができるのは、十戒に生きる教会である。命がイエス・キリストの光に照らされていることを見つめる。

〈礼拝説教を振り返る〉

どの生命もとても大切です。動物、植物、どんな命もそまつにはだめです。

神さまは、なかでも人の命を大切なものとされました。なぜだかわかりますか。

カインが、ふとしたことで弟アベルを殺しました。殺したいほど憎む気持ち。私たちには想像できないね。でも、私たちも、友だちにいじわるしたり、無視することはないですか。イエスさまは、それも心で殺したことになる、と言われます。

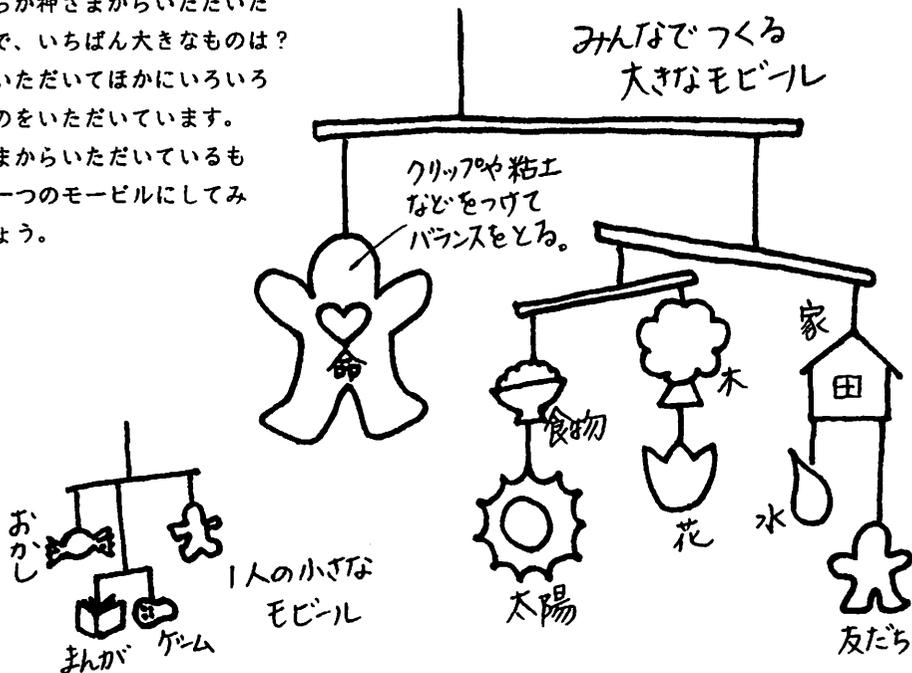
だから、私たちも、神さまにさばかれても文句は言えませんね。イエスさまだけが、決して殺さなかった、ただ一人の人です。そして、私たちに代わって十字架にかかり、罪をゆるされました。

今日、だれかにやさしくしてあげようね。

〈祈りましょう〉

めぐみのかみさま
 あつい毎日がつづきます
 きょうも神さまのおはなしを聞いて
 礼拝ができました
 いのちを大切にすることを
 学びました
 ひとを傷つけたり憎むことも
 神さまは悲しまれます
 とときどき兄弟を憎んだりします
 けんかもします
 なかなかおりする心を
 私に与えてください
 イエスさまのように
 やさしくなれますように
 イエスさまのお名前によって
 アーメン

- 私たちが神さまからいただいたなかで、いちばん大きなものは？
- 命をいただいてほかにいろいろなものをいただいています。
- 神さまからいただいているものを一つのモービルにしてみましょう。



〈目標〉

殺人の禁止とは当然のこと。でもそれは何故だろうか。ここではそれをしっかりと教えたい。

〈指導上の心得〉

人の命は神のものであり、人の都合により勝手に絶つことは重大な罪であることを覚えたい。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・まず、どうして人を殺してはいけないか、みんなで考え、それを話し合ってみよう。
- ・殺さなければ、憎むことや意地悪することならいいのだろうか。これも話し合ってみよう。
- ・人は神により創造されたのであり、命を与えられたのであって、自分のものではない。特に人は神のかたちに似せて創造された。殺人は、神の御心を破壊することと覚え、神の愛と赦しによって生かされる者でありたい。

〈ワーク〉

1. 神様は創造の第五、第六の日に何をお造りになったかな。書いてみよう。

第五日

第六日

2. この二つの日に作られたものに共通しているのは何でしょう。次から選んで答えよう。

a) 食べ物 b) ゴミ c) 公害 d) 生き物

3. 神様は造られたものを見てどうされたかな？ 次から選ぼう。

a) つまらない物だと言って、壊してしまった。
b) 造られたものを喜ばれ、祝福なさった。

4. どうして殺してはいけないのかな？ 考えて書いてみよう。

〈答え〉

1. 創世記 1:20 ~ 30 を参照 2. d) 3. b)

〈目標〉

神のかたちとして造られた人間を殺さないことと、さらに積極的にお互いを生かしあうことを覚える。

〈指導上の心得〉

自分も自分以外の人も神のかたちに造られ、神様に愛されている。神様が存在を許し、愛されているものを、私たちは勝手に殺すことはできない。

〈展開例〉

(1) 今日の聖書の箇所を繰り返し出てくる御言葉を探してみよう。

- ・「創造された」「造られた」「造ろう」→すべて御言葉による創造 (創 1:21, 25, 26, 27)
- ・「良しとされた」「極めて良かった」(創 1:21, 25, 31)
- ・「祝福して」(創 1:22, 28)

神様が人間を含めた生命を、完全な良いものとして創造されたことを確認する。

(2) 人間が「神のかたち」であるとは、どういうことかな？

神様と向き合うことが許された存在であるということ。被造物の中で、神から直接話しかけられているのは人間だけ。(創 1:28, 29)→人格があり、神様の御言葉を聞くことができる。

(3) 教会や家庭、学校などで、どんなふう第六戒の教えを生かしたらいいのか話し合ってみよう。

〈祈り〉

すべての命の造り主であられる神様、あなたが私たちを愛して下さったように、あなたが造られたすべての人を愛することができますように。



創造の秩序

「生めよ、増えよ、地に満ちて地を従がわせよ」(創 1:27-30)

「主なる神は……その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創 2:7)



墮落

カインの弟殺し(創 4:1-)。人類最初の犯罪。

「お前の弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる。……お前が流した弟の血を、口を開けて飲み込んだ土よりもなお、呪われる」

「土地を汚してはならない。血は土地を汚すからである。土地に流された血は、それを流した者の血によらなければ、贖うことが出来ない。」(民 35:33)



贖罪

「あなたたちの命である血が流された場合、わたしは賠償を要求する。

……人の血を流す者は人によって自分の血を流される。人は神にかたどって造られたから」(創 9:1-7)。

故意の殺人と過誤の殺人に関する裁きと逃れの町について(民 35:9-34、申 19:1-13、ヨシュ 20)。

被害者加害者双方の命を大切にされる神の言葉。イエスさまの解釈(マタイ 5:21-26、26:51-52)は、心の中の殺人までも問題にする。「腹を立てる者、「ばか」と言う者、「愚か者」と言う者」。その出典は、レビ 19:17-18「心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を率直に戒めなさい。そうすれば彼の罪を負うことはない。復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。」

では具体的にどうするのか? 「飢えていたときに食べさせ、のどが渇いたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気の

ときに見舞い、牢にいたときに訪ね」(マタイ 25:35-36、42-43) ことが求められている。

さらに、「自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。……「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渇いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」(ローマ 12:19-21) と、勧める。

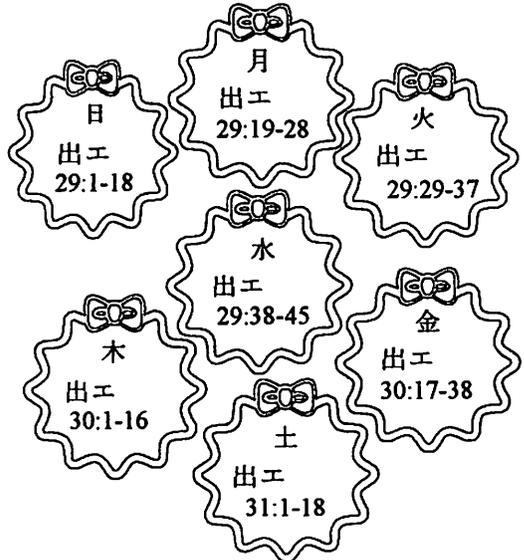


完成の途上—わたしたちの問題

「なぜ殺人はいけないのか?」が問われる時代。あなたは、どう答える? 毎日の生活でどう行動する?

いじめ・戦争・生命倫理……様々な討論が可能な学び。大切なことは、神様が全ての人の生命を愛しておられること。

毎日聖書を読もう



暗唱聖句

(出エジプト20:13)

「ついに、これこそわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。これを女（イシャー）と呼ぼう、まさに男（イシュ）から取られたものだから。」という自分の最高の助け手を得た男の言葉が語られる箇所です。

(1) 彼に合う助け手

「人が独りでいるのは良くない。」これが助ける者を造り上げる原因です。人数の問題ではなく人の孤立、隔離の問題です。被造物の冠として造られ、神の代理として被造物の支配を託された人間には、神との関係や被造物との関係において確かな結びつきがありました。しかし、横の関係においては、つまりその働きを共におこなう人間関係においては「独り」だったのです。この孤立や隔離の状態が「良くない」のです。

そのために「彼に合う助け手を造ろう。」という御心と御業ができました。ただし、それは他の被造物の中には見いだすことができなかつたということが丁寧に語られています。他の生き物は彼の助けになることはあっても、「彼に合う」という点では「見つけることができなかつた。」のです。「人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。」名前を呼び、名付けるという行為はそのものに対する支配統治を象徴しますから、「独り」を解決する「彼に合う助け手」にはならなかつたのです。

そこで「彼に合う助け手」を神様は「あばら骨

の一部」から「造り上げられ」ました。手や足ではなくて「あばら骨」は一部取られても問題がない箇所象徴でしょう。しかしこれは粗悪などという意味ではありません。「造り上げる」とは建築するとの意味で、細心の注意と丁寧な造りを意味するからです。男と女は神のかたちに創造された点ではその尊厳の違いはありませんが、その働きと体力においては同等ではないのです。そこでペトロも、「夫たちよ、妻を自分よりも弱いものだとわきまえて生活を共にし、命の恵みを共に受け継ぐ者として尊敬しなさい」（ペトロ一3章7節）と勧めています。共に命の恵みを受け継ぐ点で、「尊敬しなさい。」しかし、その特性と役割においてはその違いを「わきまえ」ながら、生活を共にすることが勧められています。

(2) 二人は一体

連れてこられた女との出会いは男にとってまさにびつたりの「助け手」でした。「独り」を解決するばかりか「骨の骨、肉の肉」という存在でした。それは、身内以上の親しさを意味します。そこで、「男は父母を離れて女と結ばれ」たのです。それほど絆を持ちますから、親子といえども夫婦の絆の中には割り込んではいけないのです。

この夫婦の一体性は神の栄光のために働き、共に命の恵みを受け継ぐという意味で、キリストとその教会の姿として、パウロは引用して教えています（エフェソ5章）。

カテキズム 子どもカテキズム 問55, 56
 ウェストミンスター小教理問答 問70 ~ 72
 ハイデルベルク信仰問答 問108, 109

子どもカテキズム

問55 第七戒は何ですか。

答 「姦淫してはならない」です。

問56 第七戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神様が、私たちに結婚の祝福を与えてくださいました。ですから、男の人と女の人との関係を、滑く保たなければいけません。神さまは、結婚によって、赤ちゃんを与えてくださいます。私たちは、そのときまで、性の関係を持ちません。

ウェストミンスター小教理問答

問70 第七戒は何であるか。

答 第七戒は「あなたは姦淫してはならない」である。

問71 第七戒は何を求めているか。

答 第七戒は、心と言葉と行いにおいて、私たち自身と隣人の純潔を保つことを求めている。

問72 第七戒は何を禁じているか。

答 第七戒はすべてのみだらな思いと言葉と行いを禁じている。

〈結婚—聖なる関係〉

第七戒は、第五戒に規定されていた親と子の関係以上に神聖な、またより根源的な人間関係である、結婚における男女の交わりの真実を求める戒めです。

神は、創造の秩序において、人間を「男と女に」（創世記 1:27）造られ、祝福されました。男と女とが「父母を離れて」霊肉ともに「一体となる」（創世記 2:24）ことは、神ご自身がお定めになった聖なる秩序であり、「ついに、これこそ／わたしの骨の骨／わたしの肉の肉」（創世記 2:23）との喜びの叫びをかわしあう者同士のみにとり分けられている祝福です。それだけに、この聖なる祝福の秩序は、いかなるしかたによっても侵害されてはならないのです。あくまでも神によって一体とされた夫と妻との間においてのみわかちあわれるべきなのです。

結婚の聖性は、この関係がキリストの教会とかしらなるキリストとの関係にすらなぞらえられる

（エフェソ 5:23）ことから知られます。

〈純潔を保って生きる〉

ただ、この戒めは結婚関係にある者同士にのみ適用されるものではなく、より広く受け止められるべきものです。たとえば第七戒は、すでに結婚している者が配偶者との関係をきよく保つべきことと同時に、未婚の男女が夫婦にしか許されていない交わりを結ぶべきではないということも規定しています。

キリスト者は結婚関係にあると否とを問わず、霊肉ともに「聖霊が宿ってくださる神殿」（コリント一 6:19）です。私たちはすでにキリストのものとされています。それゆえに、そのような者にふさわしく「私たち自身と隣人の純潔を保って生きることを求められているのです。

それは「心と言葉と行いにおいて」です。たんに形式上そうするというのではなく、全人において聖なる者であるべきなのです。聖霊は私たちの最も深いところまできよめて下さるのです。

テキスト 創世記 2章 18～25節
 カテキズム 子どもカテキズム 問55, 56

「姦淫してはならない」

〔単元のねらい〕

現代の青少年の性にまつわる問題については、教会こそが声を挙げなければならない。「婚前交渉」の是非を論ずる以前に、今や「援助交際」が何故悪いのかを問う問いすらある。それにははっきりと答えを持つのは、聖書、キリスト教会のみである。先生も、親も、何故、許されないのかを語り抜くことはできない。なされているのは避妊の方法の類ではないのか。契約の子の中にも、この世の風潮、誘惑に負ける子もいないわけではないかと思う。教会できちんと指導されないまま、その時期を過ごしてしまうこともあるのではないか。これを、両親の信仰教育の問題として任せるだけではなく、教会として取り組み、指導したい。

生命と性との関わりについて、学ぶ事となるが、この單元こそ、年齢別、性別によって、教える内容は、配慮されなければならない。本誌今号において、そこまでの取り組みができていないことを、読者の皆様にはお詫びする。(牧師は勿論、キリスト者の専門家のご意見、論文などを、今後のために募集することも考えたい)。中高生の性の教育については、性別に当たりたい。その為には、異性の子どもには、担任以外のどなたかに関わっていただく以外にはないであろう。男の子の性の悩みは極めて深刻なはずである。個別の相談ができるようときが設けられないだろうか。どうぞ、子どもの信仰の戦いに寄り添って、頂きたい。

皆は生まれた場所は、どこですか。病院でしょう。その日のことを覚えていますか。覚えている人は誰もいません。でも、お父さんかお母さんに、「〇〇ちゃんは、〇〇病院で生まれたんだよ。〇〇ちゃんが生まれた時は、お父さんもお母さんもとっても嬉しかったんだよ。」そんなお話は聞いたことがあるのではないですか。僕たち私たちがここに生きているのは、ひとりひとりにお父さんとお母さんがいてくれたからです。ですから、僕たち私たちが、「あなたの父と母を敬え」という第五戒を大切にします。

今日の第七戒は、男の人と女の人とが神さまを真中において、正しい関係を持つようにと命じてくださる掟です。神さまは人を土の塵をお用いになられて創造し、生命の息を吹き入れられました。このようにして、アダムさんは人間として生きはじめたのです。神さまは、アダムさん一人であるのは、「良くない」とお考えになりました。そこで、神さまはアダムさんを眠らせます。そ

して、アダムさんを深く眠らせて、アダムさんのあばら骨をとって女の人をおつくりになられました。アダムさんは、神さまによって、つくられたその女性を見ると嬉しくて、嬉しくてしかたがなくなりました。歌を歌い始めたのです。ラブソングです。このような歌です。「あなたは、わたしの骨の骨、肉の肉。わたしにとって、掛け替えない人、必要な人、いなくては困る人、大好きです。」こうして、アダムさんとエバさんは、結婚しました。本当に、素晴らしい結婚相手だったのです。神さまが、結婚する相手を導いてくださったのです。

先生も、結婚するためには、お祈りしたのです。「神さまが用意してくださる人を与えてください。自分にとって、一番ふさわしい人は誰ですか。神さまが教えて、導いてください。」最後に、「この人と結婚できますように。」そうして、結婚することができたのです。照れてしまいますが、先生も、今の「奥さん」は、神さまによって、与えられた女の人でしたから、大好きになりました。

そして、神さまは結婚によって、先生達に赤ちゃんを与えてくださいました。赤ちゃんも神さまが与えて下さったのですから、かわいくて、かわいくて仕方ありませんでした。このように、結婚も、赤ちゃんが与えられる事も、全部、神さまからの祝福です。神さまは、僕たち私たちが幸せに生きることができるように願っておられます。ですから、僕たち私たちも、神さまに進んでお祈りすることができるし、お祈りするべきです。

聖書の中に、神さまが定めてくださった結婚の掟、「姦淫してはならない」という戒めを破ってしまった女の人のお話があります。結婚していないのに、男の人と一緒に同じ布団で寝てしまったのです。女の人は、その悪い事をしている最中に、見つかってしまいました。律法では、そんな人は、石を投げつけて殺してしまわなければならないとされています。そこで、律法学者は、「イエスさま、あなただったら、どうしますか」と意地悪い心で質問しました。イエスさまは、「あなたがたの中で、一度も罪を犯したことの無い人が、石を投げなさい」と仰いました。すると、皆、その場所から立ち去ってしまったのです。けれども、イエスさまだけは、その場から立ち去られませんでした。イエスさまだけは、一度も罪を犯したことの無い救い主だからです。ですから、イエスさまだけは、この女の人に石を投げる事がお出来になりますね。でも、イエスさまは、仰いました。「私

もあなたを罪に定めない。行きなさい。もう決して罪を犯してはなりません。」

この人は、殺されないで、助かりました。この女の人は、その後、どうしたと思いますか。「あの時は、失敗だった、こんどは、見つからないようにしましょう。」そんな風に思って、また悪いことをしたのでしょうか。いや、そんなことはない、先生は信じています。この女の人は、この後すぐに、イエスさまが十字架で死なれた事を知ります。そうして、罪のないイエスさまが何故、罪人として十字架で死なれたのかを考えはじめます。そしてすぐに、イエスさまのお弟子さんから、その理由を聞きます。「イエスさまは、僕たち私たちの罪の身代わりになってくださいました。だから、イエスさまを信じる人は、救われた喜び、罪を赦された喜びの内に安心して暮らすことが出来ます。自分と相手の間にイエスさまを歓迎してごらんください。そうすれば、罪の誘惑から守られます。」このような説教を聞いて、この女の人は、「もう二度と罪を犯したくない。これからは、イエスさまと一緒に生きてゆきたい」と心から思ったに違いありません。

十字架に掛かってくださったイエスさまを今朝も見上げましょう。そして、神さまの子として頂いた者らしく、男の人と女の人の関係を清く保って行きましょう。

今週の暗唱聖句

姦淫してはならない。

出エジプト記 20 章 14 節

〈目標〉

神様が、人間を男と女に造られたこと。ひとりの男の人と、ひとりの女の人が結婚するよう決められていることを知る。

〈ミニ・ストーリー〉

「アダムさんとエバさんを知ってる？」

「世界ではじめの男の人が〇〇〇さん。女の人が〇〇さんだね。神様は世界のはじめから男の人と女の人を造られたんだね。」

じゅんくんは、岩の上幼稚園のきりん組の男子です。じゅんくんは、近くに住んでいるわかかなちゃんが好き。わかかなちゃんは、いつもニコニコしていて、とっても優しいのです。「大きくなったら結婚しようね！」 そう約束していました。ところがある日、きりん組さんに新しいお友だ

ちさゆりちゃんがやってきました。さゆりちゃんは色が白くておめめがぱっちりしています。じゅんくんが知らない楽しい遊びをいっぱい知っています。じゅんくんは、さゆりちゃんも大好きになりました。

日曜日教会の帰り道、じゅんくんは嬉しそうに言いました。「僕、大きくなったらわかかなちゃんとさゆりちゃんと結婚するんだ！」・・・お父さんは少し黙っていましたが、優しく言いました。

「じゅん。結婚はね、ひとりの女の人とひとりの男のひとがするんだよ。人間のことを一番よく知っていてくださる神様が決められたことなんだよ」

そうか、そうだよな。お父さんやお母さんが二人も三人もいたら、おかしいもんね。じゅんくんは思いました。

〈ボートを作ろう〉

〇材料・・・紙コップ、はさみ、重しになる粘土またはビー玉、セロテープ、クレヨン



〈折り〉

天のお父様、神様が決めてくださった素晴らしいお約束を、よく聞いてしたがう子にして下さい。アーメン。

〈目標〉

性の混乱にたいして教会はどのように対処できるだろう。正しい愛の姿をどう伝えるか。年齢への配慮など、祈り、知恵、工夫が求められる。

〈礼拝説教を振り返る〉

神さまが、アダムさんを人間として創造してくださいました。アダムさんは、一人のままでしたか。エバという女の人と一緒に生きるようにしてくださいましたね。ひとりぼっちではなくなりました。

人を好きになること、それはほんとうに素晴らしいことです。みんなの両親も、お互いに好きになり、神さまが結婚させてくださって、そしてみんなが生まれました。

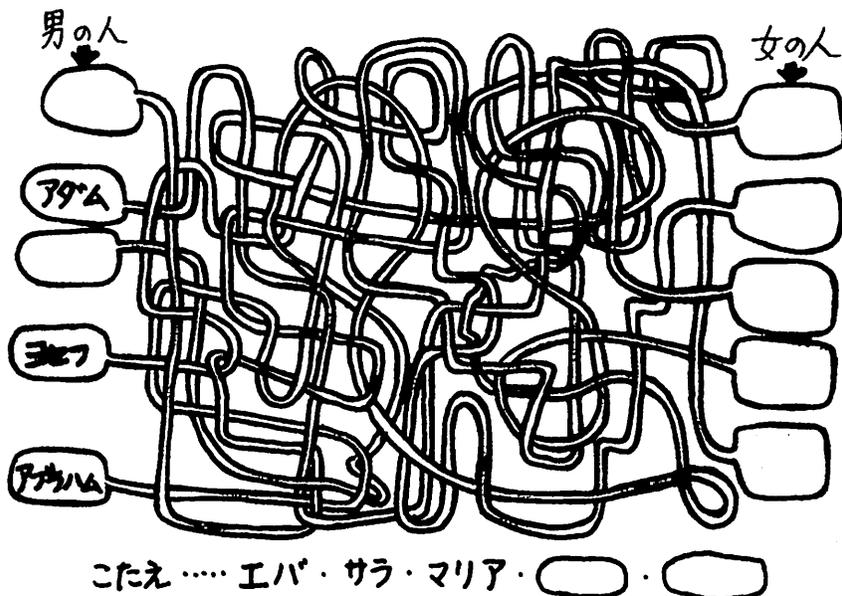
聖書には、正しい愛を知らないで、まちがった生活をする人のことも書かれています。でも、イエスさまは、そのように罪を犯してしまう私たちのために十字架についてくださったのです。いつもイエスさまにつながり、心から人を愛せるようになりたいですね。

〈祈りましょう〉

めぐみのかみさま
夏休みもあと少しです
元気な夏休みを感謝します
からだや心の病気で
苦しんでいる人たちを
まもってください
私たちを大人になるまで
大切に育ててくれる
お父さん、お母さんに感謝します
私たちも、大人になるまで
からだも、心も、
きよく生きられるよう
私の心にも、聖霊が住んでください、
イエスさまのお名前によって
アーメン

〈結婚の相手をさがしましょうゲーム〉

- ・ 男の人のあいているところに子どもたちに身近な聖書の男の人の名前を二人選んで書き入れる。
- ・ 下の答えの選択肢の欄に、その結婚相手の女の人の名前を書き入れる。



〈目標〉

神様が男女を作られた意味を良く覚え、性の尊重と他者との関係を知る。

〈指導上の心得〉

両性の平等や人間としてのあり方を聖書から理解して、性差が与えられている意味を教えたい。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・神様はなぜエバをアダムに与えたのかを一緒に考えよう。そして、ピッタリの助け手とはどういうことかを一緒に考えて見よう。
- ・どちらかの性のみで生きていくことは可能なかを聖書から考えよう。
- ・男女が共に遊んだりすることが悪いことではないことをしっかりと教えておこう。
- ・性というものが聖いものであることを、子供の心に刻みつけておこう。

〈ワーク〉

1. 十戒の第七戒は、何をしちゃだめって言っているのかな。
a) 殺すこと b) 盗むこと c) 姦淫すること
2. 姦淫ってどういうこと？（二つ答えがあるよ）
a) 男の子と女の子が一緒に遊ぶこと。
b) 男の人と女の人が話しすること。
c) すべてのみだらな思いと言葉と行い。
d) 結婚していない男女が、夫婦にしか許されていない交わりを結ぶこと。
3. エバさんは、どうやって造られたのかな。
()さんの()の一部を抜き取って、それをもとに造られた。
4. エバは、アダムにとってどんな人なんだろう？
a) どうでもいい人 b) 嫌いな人
c) 最もふさわしいぴったり合った人

〈答え〉

1. b) 2. c), d) 3. アダム、あばら骨 5. c)

〈目標〉

聖なる関係（結婚）の理解

〈指導上の心得〉

思春期に入りつつある年頃で、徐々に異性を意識し始める年代です。主にある男女関係を教会で学ぶことは大切である。この時期に間違った理解をしないように注意したい。

〈展開例〉

(1) 聖なる関係（結婚）

結婚は神によって定められた制度であることを理解させる。創世記 1:27, 2:24 を子供たちと一緒に読んで、結婚とはどういうことかを子供たちと話し合おう。結婚関係がキリストと教会との関係にたとえられている（エフェソ 5:21 ~ 33）ことから結婚が聖なる関係であることを学ぶ。

(2) 純潔性

性的関係は結婚した男女にのみ許されている交わりである。道徳としてではなく神の戒めとして人間に求められていることを学ぶ。

(3) 現代社会の中で

社会の中にまちがった性的情報があふれている。その中で生きていく子供たちが互いの異性を尊重していけるようにしたい。

〈祈り〉

天の神さま、今日は結婚について学びました。将来、結婚するとき主によって結婚し、夫婦でよき神の証人として歩んでいけますように。



創造の秩序

「人が独りているのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」「ついに、これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉」こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」(創2:18-25)

「性関係」は神様からの祝福されたプレゼント。お互いの人格を認め合う、最も親密な関係。その関係を通して神の国を造り上げる。子孫を与えられる。他の動物とは異なる人格的な性の交わり。



墮落

「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が……」「お前(女)は苦しんで子を生む。お前は男を求め、彼はお前を支配する。」(創3:12-16)

性関係の混乱(歪み)



贖罪

「歪んだ性関係」の列挙(レビ記 18、20、申命記 22 等)。いちいち細かく挙げて禁止しなければならないほど「神様に祝福された性関係」が不明。

イエスさまの解釈(マタイ 5:27-32、19:3-12)は、心の中の姦淫までも問題にする。

姦淫は偶像礼拝。選びの民イスラエルは、神様との正しい関係を忘れ、他の神々を慕い、姦淫の女エルサレムと呼ばれる。(エゼキエル書 16、ホセア書)

結婚の教え(エフェソ 5:21-33)では、夫と妻は「キリストに対する恐れをもって、たがいに仕え合う」よう勧められている。夫婦の関係はキリストと教会の関係になぞらえて語られる。

「新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように……」(黙示録 21:2)

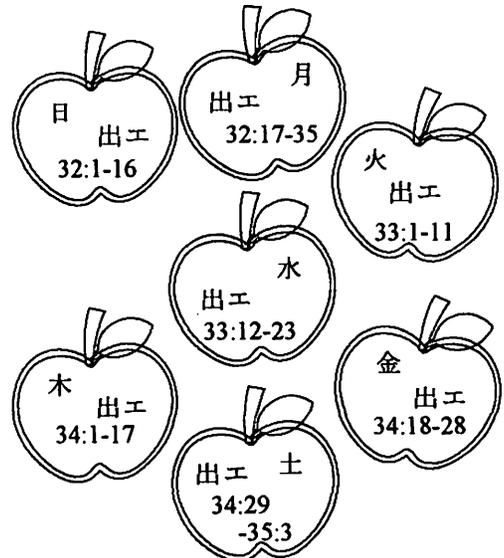


完成の途上—わたしたちの問題

中学生に伝えられる性情報とはどんなものかを話し合おう。何を通して情報を得ているか?(マンガ・雑誌・テレビ・ラジオ・ゲーム・インターネット・携帯・友達・学校の性教育・親との話し合い) それぞれに何が語られているか? 美化されたもの、人間として自然な当然なこととして主張されるもの、誇張されたものなど、いずれにせよ「歪んだ性関係」について語られたものであることに注意を促す。

救われたわたしたちは「祝福された性関係」を喜び、神様を讃美するよう、祈り求めよう。

毎日聖書を読もう



暗唱聖句

(出エジプト20:14)

この箇所はタラントンの譬えの物語としてよく知られているところです。よく知られている箇所でもありますので、かえって注意深くこの箇所の御言を見ていく必要があります。

(1) 主人と僕

このところで主人と僕ということがいわれています。このところでいわれている主人と僕は何を指しているのでしょうか。これは色々考えることができ、キリストと教会の関係とも、神様と私たちともとることができます。

(2) 旅に出る主人

このところで、主人が旅に出るに先立ち、僕に財産を分けて預けることが記されています。僕に預ける財産は、旅にもっていくことのできない、彼の家に置いていく全財産です。金持ちであれ、そうでない者であれ、その財産を僕に全て預けるということは、僕をよほど信頼していなければできないことです。この主人は僕を信頼し、財産を預け、僕のもとを離れて旅に出るのです。

このところで特徴的なのは、その財産をすべての人に均等に分けるのではなく、その力に応じて差が付けられているという点です。力に応じて差を付けるということは、その力に余ることなく不足することなく与えられたということです。それを僕がその能力に応じて正しく充分に用いるということを主人は期待しているのです。一方で、主人は最も少なく預ける者にすら、非常に多くを預けています。つまり、最も少ししか能力を持たない者であっても、この主人から非常に重要な部分が任されているのです。

これはキリストが私たちに与えて下さる特別な賜物です。それはその人の能力に応じて与えられる賜物であり、人それぞれ与えられるものも、大きさも、違うのです。

(3) 預けられた僕

一タラントンとは、非常に大きな金額を象徴的

に表しています。主人の財産を預けられた僕は、最も少ない者であっても非常に多くを預けられ、重大な責任を与えられています。ですから、その事実を喜ぶべきです。

つまり、私たちは、キリストからキリスト不在の間の教会を守るための賜物がそれぞれに豊かに与えられているのです。その賜物を人と比べて妬んだり、おごるのではなく、自分に与えられたものを喜び、それを充分に用いることが重要です。

(4) 主人が旅に出ている期間

主人が旅に出てきて帰ってくるまでに、長い期間があります。主人が不在であるということは、その期間、僕たちは、本当に責任を与えられ、責任を持たなければならないのです。

この主人が旅行にでている期間は、まさに今の時代です。キリストは、今この時代、見える地上のキリストの体なる教会を、キリストの僕である我々に任せておられ、またこの世も我々に委ねられています。その期間我々はキリストから委ねられたものを全て正しくおさめ、用いていかなければならないのです。

(5) 清算の時

主人が旅に出ている期間、任せていた者が財産をどのように用いていたか、主人が帰ってきたときに清算されます。その時与えられたものを喜び、十分に用いた者にはそれ以上のものが与えられるのです。しかし、そうでない者は取り上げられてしまいます。神様の賜物とは、用いず休ませておくというのではなく、生き、働いて用いていかなければならないものだからです。それを正しく用いない者は、厳しく裁かれるのです。

(6) まとめ

全て与えられているものは、キリストから委ねられ、預けられた賜物です。それを喜び正しく用い、賜物が実を結ぶことが、神様の求めておられることなのです。

カテキズム	子どもカテキズム 問57, 58 ウェストミンスター小教理問答 問73 ~ 75 ハイデルベルク信仰問答 問110, 111
-------	--

子どもカテキズム

問57 第八戒は何ですか。

答 「盗んではならない」です。

問58 第八戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 私たちの持っているものすべては、神さまから与えられたものです。人の体やもの、時間を盗んではならないということはもちろん、自分自身のお金、持ち物、時間をも大切に用いなければならない、ということです。私たちは、自分自身を神さまにおささげし、十分の一献金をささげて、神さまに栄光をお返しします。

ウェストミンスター小教理問答

問73 第八戒は何であるか。

答 第八戒は「あなたは盗んではならない」である。

問74 第八戒は何を求めているか。

答 第八戒は私たち自身と他の人々との富と生活状態を、合法的に獲得し、向上させることを求めている。

問75 第八戒は何を禁じているか。

答 第八戒は、私たち自身、あるいは、隣人の富と生活状態を、不当に妨害し、またはそのおそれのあるすべてのことを禁じている。

〈万物の所有者なる神〉

神は万物の主にありますのみならず、その所有者でもあられます。そして、神は創造の冠なる人間に、神の所有物を受け、保持し、管理し、増大する権をお与えになりました。

人間が富を得ること自体が罪であるというのではありません。富もまた神からの賜物であり、神が私たちの地上の生活のために備えて下さっているものです。ただ、恵みの賜物はふさわしく管理され、神の栄光のために、み心にかなって用られるときにこそ豊かに祝されます。

〈賜物の管理〉

第八戒においては、まず私たち自身の富と生活のために、み心にかなった努力をなすべきことが求められます。私たちは「日用の糧を与えたまえ」と祈ると同時に、合法的な手段、すなわち正当な勤労によって、日々の糧を得ることにつとめます。六日の間労働することは神が定めておられる秩序です。さらに、富のみならず時間や技能等、すべ

ての賜物をふさわしく用いることをも、この戒めは命じていると考えてよいでしょう。

他の人々の富と生活のありかたにも配慮すべきです。隣人を犠牲にし、隣人の権利を奪って自分だけが富むことは許されません。この戒めは労働とともに施しをも求めています。貧しい人々を助けるためにも、与えられた賜物をふさわしく用いるときにこそ、この戒めは守られるのだということを覚えましょう。

第八戒が禁じるのは、あらゆるしかたにおける賜物の誤用、悪用です。すべてのものが神の所有であり、人間はその管理者に過ぎないということが忘れられるときにそのことは起こります。

ルカ 12 章の「愚かな金持ち」の愚かさは、あらゆる祝福の源である神への感謝を知らず、神のものを神にかえすことも、賜物を隣人とともにわけあうことも知らなかったところにあります。

「盗み」が神信仰の根本にかかわる事柄であることを考えさせられます。

テキスト マタイによる福音書 25章14～30節
 カテキズム 子どもカテキズム 問57,58

「盗んではならない」

〔単元のねらい〕

「盗んではならない。」これは、子どもたちにとって、最も身近な罪の行為を禁じる掟ではないだろうか。人の物、お店の物を盗んでしまった経験を持つ子どもは多い。聖霊の光を受ける時には、自分の具体的な盗みの問題に良心が痛むこと、罪責感を持つ者が起こされるであろう。そのような個別の問題に対しても、分級で取り扱う事ができればと思う。勿論、子どもらの純粋な心を軽々しく扱って、何かを聞き出して済ませるような事ではない。罪責感でうずく心の闇を「聞いて欲しい」、「救しの宣言を聴きたい」と願う子に、確かなアプローチをすべきであろう。そして、そのような具体的な、罪の救しの経験は、幼心に主イエス・キリストの恵みをしっかりと刻むこととなろう。

ただ、単元の「主な」狙いは、そこにはない。ここでは、神がどれほど豊かに我々に必要な物を与えてくださるのかを感謝をもって覚えさせたい。また、与えられたものは全て神のものであれば、それを神の栄光のために管理し、用いて、主にお返しする事が求められる事を教えたい。献金の心、献金の使途などにも分級で触れられると良いであろう。

今日の聖書のお話は、イエスさまがなさった譬え話でした。あるご主人が旅行に出かけるので、僕たちに自分の財産を預けたのです。あげたのではありません。僕たちは預かったお金をどのようにしたのでしょうか。

1 タラントンと言うのは、一人の人が一日働いてもらえるお金の6000日分です。たいへん大きな金額です。一人には、5 タラントン、およそ3億円。もう一人には、およそ1億2千万円。そして、もう一人には、およそ6000万円です。5 タラントン預かった人は、その5 タラントンで商売をして、5 タラントン儲けました。2 タラントン預かった人は、商売をして2 タラントン設けました。ところが、1 タラントン預かった人は、穴を掘って、お金を埋めて置きました。

さあ、かなりの時が過ぎて行きました。ご主人様が帰ってきました。そして、預かったお金をどのように使ったのか、清算を始めます。5 タラントン預かった人はニコニコして言いました。「ご主人様、あなたは、わたしに5 タラントン預けて下さいました。見てください。ここに10 タラントンあります。5 タラントンもうけることができました。」ご主人様も、笑顔で言いました。「あ

なたは、忠実な良い僕です。よくやりました。あなたは、少しのものにも忠実でしたから、多くの物を管理させることにします。私と一緒に喜んでください。」

2 タラントン預かった僕も同じように言いました。そして、ご主人様は、あの5 タラントン儲けた人と全くおなじように、この人に言いました。「あなたは、忠実な良い僕です。よくやりました。あなたは、少しのものにも忠実でしたから、多くの物を管理させることにします。私と一緒に喜んでください。」

さあ、こんどは、あの1 タラントン預かった僕の番です。僕はこう言いました。「ご主人様、あなたは、とてもとても厳しいお方です。種を蒔かない所からも刈り取り、種を散らさないところからも、かき集められる厳しい方だと知っていました。ですから、恐ろしいので、1 タラントンを地面に穴を掘って、そこに隠しておきました。はい、これがあなたさまのお金の1 タラントンでございます。」これを聞いたご主人様はとても悲しい顔をされました。そして、厳しい顔つきになって、言いました。「あなたは怠け者の悪い僕だ。少なくとも、銀行に入れておけば少しは儲ける事がで

きたではないか。さあ、他の僕たち。この僕から、1
タラントンを取り上げなさい。そして、10 タラ
ントン持っている人にあげなさい。」

これは、たとえ話です。主人とは、神さまのこと。僕とは、僕たち私たちのことです。神さまは、僕たち私たちにそれぞれにタラントンを与えて下さいました。それは、ただお金と言う意味ではありません。何かをすることができる力、例えば速く走れるとか、漫画を上手に描けるとか、勉強が好きとか、人に優しくできるとか、ご飯をはやく食べられるとか、なんでも構いません。でも、人と比べて早いとか遅いとか、良くできるとか劣っているとかではありません。僕たち私たちは、まず生命が与えられ、この階段を自分の力で上ってくる健康が与えられ、今日の朝ごはんも与えられ、着て来る洋服も与えられ、靴も自転車も与えられています。それは、お父さんやお母さんからいただいたものかもしれませんが、つき詰めると神さまから与えられたものなのです。ですから、神さまのものなのです。生命はお父さんもお母さんも作り出すことができません。皆の何かの力も神さまが与えてくださらなければ、本当は何もできないのです。

さあ、そのような最も大切なことを忘れると、僕たち私たちは、生命も、力も、お金も、何でも、自分勝手に使い始めます。自分のために、自分を喜ばすためだけに使います。それは、本当は、神さまのものを盗んでいるのだということに気づき

たいと思います。

皆はこれまでに、誰かの物、お店の物を盗んだ事があるでしょうか。もしも、あれば、きちんと神さまにごめんなさいと謝ってください。そして、イエスさまによって、きちんと赦していただいた確信を持ってください。僕は、私は盗んだ事は一度もないというお友達は、それなら、本当に、盗んだ事にならないでしょうか。神さまから与えられたものを神さまのために使わない人は、実は、神さまのものを盗んだことになるのです。あの1タラントン預かった人は、確かに1円も盗んではいません。でも、ご主人様から、預かったタラントンを使わないでほうっておいたのです。そして、この僕は、ご主人様の家から外に放り出されてしまったのです。盗人のようにみなされたのです。僕たち私たちは、神さまから与えられたものを、神さまのために、そして誰かのために使うのです。勉強もスポーツも遊びも何でも神さまの栄光のためにするのですし、できるのです。

僕たち私たちは、自分自身が神さまのものであることを心から感謝しましょう。大切な、大切な神さまのものです。だから、本当に神さまはあなたを大切にしておられるでしょう。イエスさまのことを思ったら良くわかるでしょう。だから、僕たち私たちも自分自身を大切にし、自分自身をささげて、神さまのお働きのお役に立つように用いていただきましょう。

今週の暗唱聖句

盗んではならない。

出エジプト記 20章 15節

〈目標〉

物やお金を盗んではいけないこと、持っているもの・能力・時間、その全てが、神様からの贈り物であることを知り、大切にすることを育みたい。

〈ミニ・ストーリー〉

さやかちゃんは5歳の女の子。このごろ、けんたお兄ちゃんが行くお菓子屋さんについていきます。でも、さやかちゃんはお金を持っていません。いつもは、お兄ちゃんがさやかちゃんにわけてくれるのです。でも、それはお兄ちゃんの好きなお菓子ばかり・・・さやかちゃんは、どうしてもキャンディが欲しくなりました。キョロキョロ・・・大好きなキャンディをひとつ、ぎゅっと握りしめました。そして、こっそり自分のポケットにしまいました。

夜眠る前、いつものようにお母さんがお祈りをしてくれました。

「すべてのことを見てくださる神様・・・」
ドキッ、神さま、さやかがキャンディとったの見てたんだ・・・。

お祈りが終わった後、さやかちゃんはお店のキャンディを黙って持ってきてしまったことを話しました。お母さんはさやかちゃんをじっと見つめて言いました。「じゃあ今から、神様にごめんなさいってお祈りしようね。明日キャンディを持って、お店のおじさんに謝りに行こうね。」

○幼い子どもたちにも出来る（にしか出来ない）
奉仕を見つけ、行えるよう促し励ましたい。

例：お花の水やりやお掃除のお手伝い
元気に賛美すること、etc.

〈ぼくたち・わたしたちの楽しい夏休み〉

○材料・・・画用紙、色紙、のり、色鉛筆、クレヨン

○夏休み、楽しかったことを子どもたちに聞いて、みんなで神様に感謝しよう。

キャンプなどの行事をしたのであれば、その時のことを思い出しながら、大きな画用紙にみんなで描いても良いのでは？ 楽しかったことを自由に描こう。



〈折り〉

天のお父さま、ぼくたちわたしたちも神様のお働きのために用いて下さい。アーメン。

〈目標〉

神は豊かな賜物で私たちに満たしておられる。感謝をこめて生きるとき、盗むなどという戒めをはるかに超える歩みが生まれる。

〈礼拝説教を振り返る〉

十戒の言葉で、「盗んではならない」は、よくわかるね。盗んでしまった、という失敗はだれにもありますね（話し合い、赦しを信じよう）。

どうして、自分のものでないのに、欲しくなるんだろうね。

私たちの持っているものは、ほんとうは神さまからいただいたものだよね。私たちの命やからだや、いろんな才能だって、自分ひとりのものではありません。

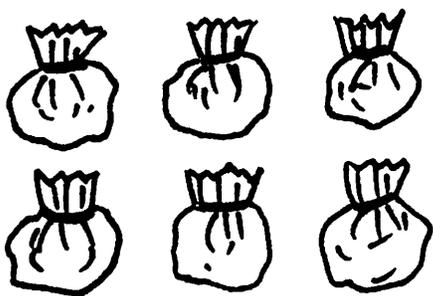
「自分のものだ」といって一人じめしたら、神さまは悲しまれるでしょう。盗むより、人に分けてあげるほうが、どんなに嬉しいだろう。イエスさまは、大切な命まで、私たちにくださったね。感謝して、私たちもイエスさまにささげよう。

〈祈りましょう〉

めぐみのかみさま
夏休みも残り少なくなりました
暑さに負けないで
元気に過ごせたことを感謝します
神さまは、私たちに必要なものを
いつもくださっています
だからそれ以上のものを
欲しがらないようにしてください
人のものを欲しいと思う
誘惑から
いつもまもってください
神さまからいただいた良いものを
イエスさまのために使えるよう
きよく、強い心を私にください
イエスさまのお名前によって
アーメン

〈人に分け与えよう〉

○あらかじめ紙袋に量の違うおやつを入れておき、人数分用意する。



好きな袋を子どもにとってもらう
中身の多い子や少ない子があります
多く入っていた子は少ししか入っていない
かった子のことを考えてみる。
どうしたらよいか、話し合ってみる。

〈目標〉

盗みとは何なのか。そのことを子供に理解させ、神様に献げ物をささげる意味を教える。

〈指導上の心得〉

神様から与えられたものをお返しする自らの姿を省みつつ、自らに語るつもりで語る。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・盗むとはどういうことかを尋ねてみよう。
- ・十戒が教える盗みとは現実の盗みだけなのかを考えよう。
- ・先の問いを発展させ、神様から与えられているものとは何かを考え、自分に与えられた賜物をまず見直してみよう。
- ・そこから何を神様にお返しすることができるのかを共に考え、与えられたものに感謝して、神様にささげるように子供たちを促そう。

〈ワーク〉

1. タラントンの話にでてくるタラントンって何だろう。
 - a) 外国のお金 b) 銀行 c) 王様の名前
 - d) 賜物(自分のいい所、得意なこと)
 2. 自分の賜物ってなんだと思うかな。
 3. 私たちが生きているこの世界や、生き物は誰のものだろう。
 - a) 自分のもの b) 神様のもの
 - c) お父さん、お母さんのもの
 4. 私たちは神様のものを与えられています。どのように感謝を表せばよいでしょうか。
 - a) なくさないようにそのまましておく
 - b) 賜物を正しく用いる
 - c) 人のものを自分のものにして増やす
- 〈答え〉
1. d) 3. b) 4. b)

〈目標〉

神がどれほど豊かに我々に必要なものを与えてくださるかを知る。

〈指導上の心得〉

テキストは第八戒の積極面(賜物の向上)を強調すべく選ばれています。以下はマタイ 25 章 29 節をめぐって展開しましたが、「持っていない(も同然の)人」のおそろしい結末を、賜物の恵みとともに覚えることによって、戒めが私たちにとって恵みであることを確認しましょう。

〈展開例〉

(1) 宝探しゲーム

「あなた」と書いた紙を、フィルムケースやガチャポンケースなどに入れ、教師があらかじめどこかに隠す。(屋外で行ってもよい。)[『神さまの宝』がかくしてあるので探しましょう。』と言い、宝探しを始める。終わったら一人一個を持って席に座る。

(2) 一人一人が神の宝

みなさんは神様の宝です。みなさんが持っていると思っている能力、経験、知識、信用などは実は神さまが下さったものなのです。

〈ワーク〉

マタイ 25 章 29 節の御言葉を読み、かつこ内に言葉を入れてみましょう。

Q1. 「持っている人」とは、持っているものに(A)し、それを(B)にする人。「持っていない人」とは持っているものに(C)だらけでそれを軽んじ、背後に働く(D)を信じない人

Q2. 「持っている人」の報いは更に(E)られて豊かになること。「持っていない人」のさばきは持っているものまで(F)られるので、ますます不満がつのり、心がますます神さまから離れ、(G)などの大罪を犯してしまうこと。

答え A = 満足、B = 大切、C = 不満、D = 神、E = 与え F = 取り上げ、G = 盗み



創造の秩序

エデンの園の四つの川、金、琥珀、ラピス・ラズリを産出。「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。」(創 2:10-15)



墮落

アダムへののろい。「土は呪われる。生涯食べ物を得ようと苦しむ。顔に汗を流してパンを得る」(創3:17-19)



贖罪

出エジプト時に示された「財産」に関する神の契約(出エ 21:33-22:13、20-26)。奴隷から神に買い取られた民として、神が豊かに祝福しようとしておられる民に相応しいものとして、「盗んだ物は二倍(四倍五倍)にして返す」「損なった物は同じ物を代償とする」等が事細かに示される。また、寄留者、寡婦、孤児への救済も同時に語られる。理由はエジプトで寄留者であったイスラエルの民を救った神は、「憐れみ深いから」。

七年目の負債免除の年の規定(申 15:1)。「この国から貧しい者がいなくなることはないであろう。それゆえ、わたしはあなたに命じる。この国に住む同胞のうち、生活に苦しむ貧しい者に手を大きく開きなさい。」(申 15:11)

「人間にとって最も良いのは、飲み食いし自分の労苦によって魂を満足させること。しかしそれでも、わたしの見たところでは神の手からいただくもの」。(コへ 2:24)

「盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。」(エフェソ 4:28)「盗むな」を実行することは、労働して正しい収入を得ること、そしてそれは神の賜物であることを自覚し、困っている人に分け与えること。

「この世で富んでいる人々に命じなさい。高慢

にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで分け与えるように。」テモ一 6:17



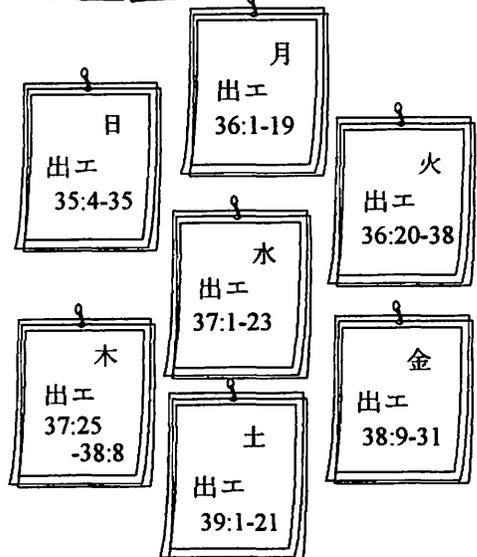
完成の途上—わたしたちの問題

働いて日々の糧を得ること、しかもそれは神様の賜物であること……将来の職業について考えるとき、この視点を外さない。

毎日の生活の中で「盗み」とどのように向き合うか？ 神様が全てをご存じであること、どんな不正も見逃さない方であることを覚える。

「盗まない」生活は「施す」生活。地球的に見て豊かな日本に生活するものとして他の地域の人のため何をするか、という話にも発展できる。

毎日聖書を読もう



暗唱聖句

(出エジプト20:15)

この箇所はペトロが主イエスを三度否認したという有名な箇所、全ての福音書に記されている事件です。マタイの特徴に注意しつつ、この箇所の御言葉を注意深く見ていきましょう。

(1) ガリラヤの人

この箇所を読みますと、ガリラヤの人であることが最初に語られ、後には言葉遣いなどが指摘されて、ガリラヤの人であることが強調されています。これは、ガリラヤが当時の人々から「異邦人のガリラヤ」などと言われて侮蔑されていたためであり、そこがイエスの故郷であり、活動な場であったことを明らかにしています。「ガリラヤ(の地)」という言葉は当時、「革命家(の地)」という意味合いも持ち、そのような軽蔑の言葉としても用いられていたようです。

(2) ペトロの恐れ

ペトロがこのところで女中や他の人々から問われ、また言われたことは「イエスと一緒にいた」ということで、何か訴えようなどという深い意味のあった言葉ではありません。しかしペトロは、この「ガリラヤのイエスと一緒にいた」との言葉に恐れを感じ主イエスを否定し始めます。

それは、「ガリラヤの」イエスの仲間だとの言葉に過敏に反応し、皆の前で革命家の仲間であると公に訴えられているように感じ、恐れを覚えたからでありましょう。

彼はこの小さな言葉に恐れを感じたのです。その恐れのために彼は、主イエスを証しできず、最初は主イエスとの関係をごまかし、最後には完全に主イエスとの関係を否定するに至ります。

この恐れは明らかにペトロの弱さであり、それは人間誰しもが持っている弱さなのです。自分の身を守り、自己保身をする弱さです。

(3) 三度にわたる否定

このところでペトロは三度にわたって主イエス

を否定しています。

最初の問いに対して彼は「何のことを言っているのか、・・・分からない。」とその場をしのぐような否定をします。

別の人物から言われたためか、二回目になると恐れのためにでしょう、少し強く皆の前で否定をしています。しかし、まだ、決定的なことを避ける形で言われています。

三回目になるとペトロは非常に強い口調で自分自身を呪い、誓いをたてて強く否定します。ペトロはこの事によって、主イエスとの交わりを完全に断ってしまいました。

このだんだんと強い否定をしていくという書き方はマタイ独特のものと言えます。このようにしてペトロの心境の変化と、彼が完全に主イエスを否定したことを知ることができるのです。

マタイの記述では、非常に強く主と共に死ぬことを望んだペトロが、これほどまでに完全にその主を否定したことが強調されています。

(4) この事によってなされた罪

ペトロは最初に小さなごまかしから始まり、最後には主イエスと主イエスと自分との関係を完全に否定するという大罪に至っています。偽証は単に人を陥れる言葉ではなく、神様との関係を断ち切る危険を持つものであるのです。ペトロが犯したこの罪は決定的な罪であり、御言葉である聖書はペトロに特別な位置を与えるのではなく、その罪を明らかにして、後の時代まで伝えていきます。

(5) まとめ

この最後の箇所の最後でペトロは、主の言葉を思い出し、激しく泣いています。この事は彼の悔い改めを示しているのでしょうか。彼は明らかに罪を犯し、キリストとの交わりを自ら断ちました。しかし主は、悔い改めた彼を使徒の時代の最初に大いに用いられました。このところにも、主の救いの大なる福音が示されています。

カテキズム	子どもカテキズム 問59, 60
	ウェストミンスター小教理問答 問76 ~ 78
	ハイデルベルク信仰問答 問112

子どもカテキズム

問59 第九戒は何ですか。

答 「隣人に関して偽証してはならない」、です。

問60 第九戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまは、真実な愛をもって私たちを愛してくださいました。ですから、私たちも、うそをついたり、うわさ話をして人をさばいてはいけない、ということです。私たちは隣人に誠実を尽くします。

ウェストミンスター小教理問答

問76 第九戒は何であるか。

答 第九戒は「あなたは隣人について偽証してはならない」である。

問77 第九戒は何を求めているか。

答 第九戒は、人と人との間の真実と、私たち自身と隣り人との名誉を維持し、増進することを求めている。特に証言する場合にそうである。

〈神への真実と人への真実〉

第九戒は、とくに法廷で証人として立てられたときに、偽りの証言をして人を罪に定めることを禁じる戒めです。ただ、この戒めは、たんに法廷での偽証にとどまらず、より広い意味において受け取られるべきです。つまり法廷以外のあらゆる場所においてどのような言葉を語るのかをも問う戒めなのです。法廷の外の日常生活の真実が、法廷における真実の言葉をも支えるのです。

まず、人間関係における真実を保つために、真実のみを語る事が求められます。このことは、根本的には神ご自身が真実であられる（小教理問答問4）という事実にもとづくものです。対神関係が対人関係をただすのです。

神は真実な方ですから、偽証して人との関係を損ねることは、神への不実そのものでもあります。真実のみを語ることによって神は私たちの魂をきよくされますが、偽証は私たちの魂を滅ぼし、隣人の魂も損ないます。

人格を持つ唯一絶対の神への信仰が確立されていないところでは、正義や罪の問題があいまいに

されがちです。義や真実よりも恥や世間体をおもんばかる風潮が私たちの身近なところにもあるのではないのでしょうか。神を恐れ、神と人々に真実を尽くして生きる姿勢が確立されるとき、私たちははじめて責任ある個人として立つことができます。

〈名誉の維持増進〉

第九戒は偽証を戒めて真実な関係を保持することにとどまらず、私たちと隣人との名誉の維持増進をも促します。

私たちは神をほめたたえ、神を誇ると同時に、神がおのおのに与えて下さっている名誉をも重んじます。神のほまれをたたえることと、おのおのの名誉を大切にすることは、やはりひとつのこととして結び合っています。

私たちは自分の語る言葉が隣人の名誉を損なうことがないように、むしろこれを守り、保ち、高めることに益するように心がけるべきですし、隣人の名誉が不当に損なわれているのを見たなら、彼を助けることのために尽くすべきです。

私たちは神と人に誠実に生きるのです。

テキスト マタイによる福音書 26章 69～75節
 カテキズム 子どもカテキズム 問59,60

「偽証してはならない」

〔単元のねらい〕

嘘をつく事、これこそ最も身近な罪ではないか。子どもに、嘘をついた事があるかと問えば、おそらく全員あると答えるであろう。しかし、その告白を聖霊の光の下で、主イエス・キリストの十字架の下で、認めるのでなければ、ほとんど何の意味もない。子どもたちに、ここでも、自らの偽証の罪を悔い改め、また、人を裁く罪と戦うように励ましたい。その為には、礼拝式の中で、しっかりと主イエス・キリストを仰ぐ事が必要不可欠である。十戒が道徳のお話にならないように、お互いに確認しあって、十戒の説教、分級での学び、運営にあたりたい。

福音書は、主イエス・キリストの十字架刑が人間の偽証によって準備され、遂には、弟子の偽証（裏切り）によって決行されたことを物語っている。第九戒違反がキリスト殺しの直接の原因である。しかし、キリストは神の御前で、真実な愛を貰われた。この真実に触れていただく以外に、人間の神と人への真実（誠実）は起こらない。キリストの真実の愛を、礼拝において、説教において指差したい。

今日は、「隣人に関して偽証してはならない。」と言う第九番目の戒めを学びます。偽証と言うのは、嘘をつくことと言う意味です。

世界最大の嘘つきを決める試合があったそうです。いろいろな嘘を考えて、発表しました。その嘘の中で、めでたく優勝した嘘つきの方は、どんな嘘を言ったと思いますか。「わたしは、生まれてから一度も嘘をついた事ありません。」と言うものだそうです。なるほどなあと思いませんか。皆の中で、生まれてから一度も嘘をついた事がないと言えるお友達はいませんか。

今日の聖書のお話は、イエスさまのお弟子さんのペトロがイエスさまを、「私はそんな人の弟子ではありません。仲間ではありません。イエスなんて人は知らない。」こう言ってしまったというお話でした。イエスさまは、お弟子さんの一人のイスカリオテのユダさんに裏切られました。ユダは、イエスさまを何とか殺してしまいたいと願っていた祭司長たちやファリサイ派の人々に、イエスさまを逮捕するための手助けをしようとした。十字架につけられる前の日の夜、その人々に従ってやってきた大勢の者達は、手に手に剣や棒を持っていました。たった一人のイエスさまを捕

まえるために、それはそれは大勢の人たちがやって来たのです。ユダは、イエスさまを騙して、心の中で裏切ろうと考えていました。もちろん、イエスさまはそれをご存知でした。ご存知の上で、最後まで、この裏切ろうとしていたユダを愛しておられました。そのために、イエスさまはユダに言いました。「愛するユダ、あなたがしようとしている事は、わたしにはすべて分かっているのですよ。」

そうして、イエスさまは、捕まえられて最高法院という、ユダヤの一番大きな、一番権威のある裁判所に引っ張られて行きました。この裁判では、嘘を言う人が何人も現われました。イエスさまが言ってもいないし、してもいないのに、「こんな悪いことをした、あんな悪いこともした、こんな悪い事を言った、あんな悪い事まで言った」と言い張ったのです。ところが、どれも死刑にすることのできる確かな証拠になりませんでした。最後に二人の人が登場しました。二人が言いました。「この男はエルサレムの神殿を打ち倒し、三日あれば建てることができると言った」、というのです。これも、イエスさまがお話しされた意図をきちんと表していません。このような形だけの裁判、人々の嘘によってイエスさまが死刑にする事は決

定されてしまったのです。

そのような、光景を遠くから眺めていたのが、ペトロさんです。イエスさまを助けるなら、早くしないとダメです。どうする気なのでしょうか。すると、ペトロの側に一人の女中さんが近寄ってきて言いました。「おや、お前さんも、あの男の仲間なのではないかい。ガリラヤの海辺で一緒にいただろう。」ペトロは瞬間に嘘をつきました。「何のことで？ 僕は知らないよ。」ペトロは心臓をドキドキさせながら、その場から逃げ去ろうとしました。するとまた、他の女中さんが回りの人に言いました。「アアッ、この人は、あのイエスと一緒にいたんだ。」こんども、ペトロさんはすぐに言いました。「そんな男は全く知らない。」しばらくして、回りの人々も言い始めました。「お前さんは、あのイエスの仲間じゃないか。お前さんにはなまりがあるぞ。」ペトロさんは、これで三回目。すぐに言いました。「そんな男は全く知らない。僕には関係ない。」

その時です。鶏が「コケッココー」と鳴きました。それは、イエスさまがあらかじめ仰ったことでした。ペトロさんがイエスさまのことを知らないと嘘をついて、裏切ることをイエスさまは分かっておられたのです。

けれども、イエスさまは、そんな裏切り者で嘘つきのペトロのために十字架に上ってくださった

のです。イエスさまは決して嘘をつかれません。決して信じる人を裏切りません。天の父なる神さまに対しても、僕たち私たち人間に対しても真実なのです。十字架の上で神さまと人への真実の愛、嘘のない愛、真の愛、本物の愛を貫いて下さったのです。最後の最後までご自分の仰った約束を誠実に実行して下さったのです。このイエスさまがお甦りになったとき、お弟子さんたちは、心の底から自分が嘘つきで、裏切りもので、罪深い人間である事が分かりました。

そして、同時に分かった事があります。こんな自分のために、イエスさまが命をかけて愛して下さったのだという事。この愛を知って、お弟子さんたちは決心しました。「もうこれから二度と、嘘をつきたくない。神さまに向かって真実に生きたい。人に向かって誠実に生きて行こう。」この後、お弟子さん達は、このイエスさまのまねをし始めました。彼らの口から、真実の言葉があふれてきました。人を励まし、慰める優しい言葉を話すようになりました。イエスさまの愛を伝えることば、天のお父さまをほめたたえる言葉があふれるようになりました。

僕たち私たちも、主イエスさまを知り、礼拝し、御言葉、カテキズムの言葉をたくさん暗唱するならば、そのような言葉があふれて来るのです。

今週の暗唱聖句

隣人に関して偽証してはならない。

出エジプト記 20章 16節

〈目標〉

イエスさまは、嘘をつかれません。嘘のない愛、真の愛をもって、私たちを愛してくださっていることを知り、私たちも嘘をついてしまう誘惑から守っていただけますように。

〈ミニ・ストーリー〉

夏休みが終わり、幼稚園もはじまりました。マミちゃんは、幼稚園から帰ると真先に、冷蔵庫を開けます。「お母さん！ 今日のおやつは、なあに？」 冷蔵庫の中には、ケーキの箱が入っていて、中にはシュークリームが三つ入っていました。お母さんは、「ちょっとお買い物に行ってくるから、クミちゃんと一緒にシュークリームを一つずつ食べて待っていてね。もう一つは、パパの分だからね」と言って出掛けました。

・・・マミちゃんは、シュークリームがとって

もおいしくって、すぐに食べてしまいました。クミちゃんも、おいしそうに食べています。マミちゃんは、もう一つ欲しくなって、こっそり食べてしまいました。

お母さんが、帰ってきました。「アラ？ パバの分は？」 マミちゃんはドキッとしました。そして「クミちゃんが、二つ食べちゃったよ」とウソをついてしまいました。「私はゼツタイに食べてないよ！ クミちゃんだよ！」と何度も言いました。二歳のクミちゃんは、「ちがう！ちがう！」と泣いています。

マミちゃんは、夜になっても、まだ本当のことが言えません。布団に入って暗い天井を見ていると、「私はゼツタイに食べてないよ！ クミちゃんだよ！」と言いつづけていた自分の声が心の中で響いてきて苦しくなりました。

「神さま、助けて下さい」とお祈りしました。

〈風見鶏を作ろう〉

ペテロさんも、嘘をついてしまいました。イエスさまのことを「知らない」と、言ってしまったのです。その時、鶏が鳴きました。ペテロさんは、弱く、罪深い自分を悲しみました。

○材料・・・厚紙、竹ひご、ストロー、クレヨン

○作り方

- ①鶏に色を塗り、竹ひごを挟み、とめる。
- ②ストローの中に、竹ひごを入れて、息を吹きかけたり、戸外に出て風に吹かれて遊ぶ。



〈折り〉

嘘をつくことを悲しまれるイエスさま、嘘をついてしまう弱い心をお守り下さい。アーメン。

〈目標〉

偽りは、子どもにとって身近な罪である。言葉の罪に対して敏感になることは、イエスの恵みを学ぶ良い機会である。

〈礼拝説教を振り返る〉

礼拝では、ペトロさんが嘘をついてしまったことを学んだね。きっと辛かっただろうね。どうして嘘をつくんだろう？

あなたは、なぜだと思いませんか？ 自分が嘘をついたときのことを考えてみましょう。

言葉って、大切ですね。口から出る小さな言葉で、人がどんなに傷つくことか。命さえ奪ってしまうことがあるでしょう。

イエスさまの裁判で、みんなは偽りの証言をしました。そして十字架の死刑にされたのです。

人を殺す言葉でなく、人を生かす言葉を、私たちもイエスさまに学ぼう。

〈祈りましょう〉

めぐみの神さま

嘘をつかないことは

とてもむずかしいです

嘘をついたことがあります

どうかわたしを赦してください

ペトロさんが

イエスさまを知らないと言いました

どんなにつらいことでしょう

イエスさまが

ペトロさんやわたしのために

十字架についてくださいました

感謝します

正しいことをはっきり言う勇気を

わたしにください

イエスさまのお名前によって

アーメン

〈トランプ うそだったらコケッコ〜〉

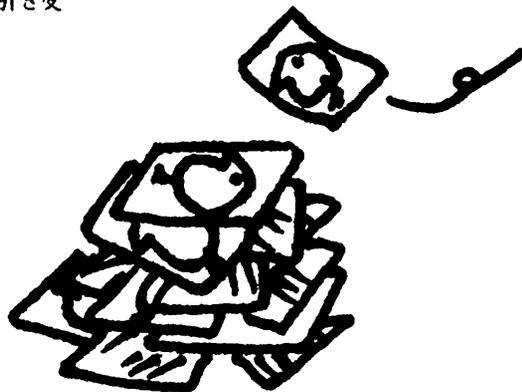
○ “ダウト”というゲームを知っていますか？

順番に自分の持ちカードの中から「1」「2」「3」と出していきます。

「3」のカードを持っていないならば、人に分からないように、違うカードを「3」と言いながら出します。

周りの人で、それに気がいたら「コケッコ〜」と言います。そのカードが本当に違っていたなら、違うカードを出した人は、目の前の山全体を引き受けなければなりません。もしカードが違っていなかったなら、「コケッコ〜」と言った人が、山全体を引き受けます。

早く手元のカードがなくなった人の勝ち！



9月1日

「第九戒 偽りの禁止」

小学科中級 分級教案

〈目標〉

嘘とはどのような罪であるのかを教え、人を生かす言葉を語ることへと導く。

〈指導上の心得〉

嘘は日常のことである。教師自身その現実を隠さず、生徒と共にその事柄に取り組む。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・嘘をついたことがあるかを問うてみよう。
- ・嘘はなぜ悪いのか話し合ってみよう。(イエスを十字架に付けたのが嘘によってであるように、嘘は人を陥れる言葉であることを共に理解する。)
- ・嘘は神様を悲しませる言葉であることを教えよう。そして、キリストにある者は人を陥れる嘘を口から吐くのではなく、賛美の言葉を口にすることを共に覚えよう。

〈ワーク〉

- ふだんの生活の中でうそをついてしまったり、ごまかしたりすることはないかな？
a) 全くない b) たまにつく c) 結構つく
- 次のことはうそになるのかな？
a) 人のうわさ話 b) 言い訳
c) 言っていることとやっていることが違う
- 今まで一番大きなうそは何だろう？
- うそをつくことと、人を殺すのと、盗むことはどれが一番重い罪でしょうか
a) うそ b) 殺人 c) 盗み
d) どれも同じ重さ

〈答え〉

- b) または c) 2. すべて 4. d)

9月1日

「第九戒 偽りの禁止」

小学科上級 分級教案

〈目標〉

十戒を「十字架の贖い」という光を通して読むために、ペトロの罪とその赦しを学ぶ。

〈指導上の心得〉

ペトロの罪に象徴される全人類の罪のために、御父に従い、十字架へと一心に向かわれた主イエスの真実に目を向けましょう。その主に見捨てられなかったからこそ、ペトロは立ち直ったのです。

〈展開例〉(ワーク方式)

(1) ペトロ

- Q. イエスさまがペトロに、裏切りを予告した時、ペトロは何と答えたでしょう。
「あなたのことを知らないなどとは()申し()」(マタイ 26:35)。
- Q. ペトロは予告どおり、三度もイエスさまを知らないと言いました。ペトロはどんな風に裏切ったのでしょうか。聖書をもう一度よんで答えましょう。

- ① 一回目 () と () け
- ② 二回目 () のふり
- ③ 三回目 もっと () のふり
(A. ①「お」「ぼ」、②と③「他人」)

Q. ペトロは嘘をつきました。このようにうそをついたり、裏切ったり、人の陰口をたたいたりすることを()と言います。(A. 偽証)

(2) 主イエス

- Q. 主イエスはペトロが三度知らないと言った時、振り向いてペトロを見つめられました(ルカ 22:61)。主イエスはどんな気持ちで見つめられたのでしょうか。そうだと思うものに○をつけましょう。
- ・よくも裏切ったな。
 - ・私はお前を見捨てはしない。
 - ・お前は必ず立ち直る。
- Q. 主イエスは復活された後、十二弟子のうち誰に最初に現われましたか。(A. ペトロ)



創造の秩序

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。万物は言によって成った」(ヨハネ 1:1-3)

「言」でえられるイエスさまが、わたしたちの救い主。



墮落

「真実を曲げる偽りの言葉」で蛇は人を誘惑した(創 3:1-)。アダムのいいわけ、エバのいいわけ(創 3:12,13)。カインのいいのがれ(創 4:9)、全て偽証。



贖罪

「神様は真実な方である。偽りの証言をなした者には……」(申命記 19:15-21)。

正しい裁きは弱い者を助ける。正しい証言、真実を語る唇、親切な言葉は、人をいやす知恵ある舌。人を剣で刺す軽率な言葉と対比させられる。万軍の主の言葉、「互いに真実を語り合え」(ゼカリヤ 7:9,10, 8:16,17)

イエスさまの言葉には権威・力がある。(ヨハネ 18:6)

イエスさまの裁判は、たくさんの偽証者、食い違う証言、証拠のない証言によって為された。(マルコ 14:53-)

弟子たちは聖霊に満たされて語り始める(使徒 2:1-)

隣人に対し真実を語る(エフェソ 4:25)

うそを言う者たちに対する報いは、火と硫黄の燃える池、第二の死。(黙示録 21:8)



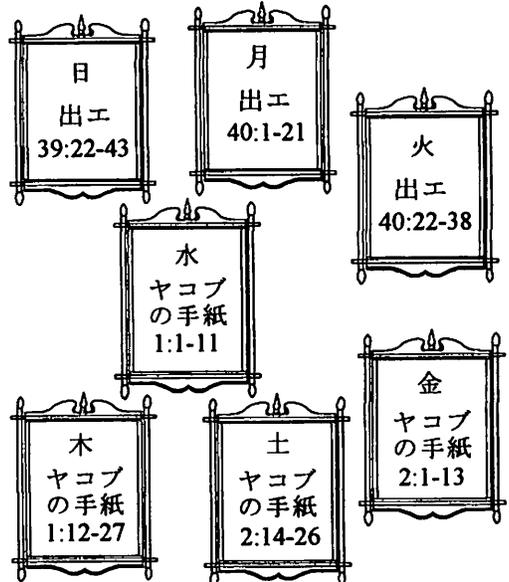
完成の途上—わたしたちの問題

日本という国は、ホンネとタテマエを大切にす。仲良くやるためにホンネを言わない。ウソも方便。

また或いは逆に、孤立しても、他人を傷つけても真実を貫くという姿も見られる。

どちらも、「真実と平和は相容れない」という前提に基づいている。「正義と愛は相容れない」という前提もある。聖書はそのように言わない。真実は人を傷つけるのではなく人を癒す(生かす)。真実は平和を産み出す。「剣を投げこむ」という一面もあるが。正義は愛を行なう、愛は正義を行なう。

毎日聖書を読もう



暗唱聖句

(出エジプト20:16)

この書簡は決して長い御言葉ではありませんので、一度全体を通読していただきたいと思います。前後の関係で読んでいかなければわかりにくい箇所です。この解説も、4章17節から5章5節までを取り扱います。

(1) 古い人と新しい人(17節～24節)

この箇所では、古い人と新しい人の比較が示されます。古い人とはキリストに結ばれる前の状態、新しい人はキリストに結ばれた後の状態です。

キリストに結ばれる以前には、すべての人は古い人の状態なのであり、空しい目当てのない生き方をしていました。そのために心の不毛の状態におかれていたのです。神様と出会っていない人には人生の本当の目的がわからず、また罪やむなしなことに対して無感覚になっています。

しかし、キリストに結ばれた者はそうではありません。以前は罪のうちに死に、異教徒として神様から切り離されていたのですが、キリストにあって、今は赦されて新しい生へと引き上げられています。そして、新しい人を着る、つまりキリストを着ることによって、「神のかたち」が新たにされます。それゆえに今は、むなしものに対してではなく、神様に対して生きています。

(2) 新しい人として歩む(25節～32節)

キリストにある者として歩むことは、新しい社会関係の中に入ることでもあります。今までの古い価値観を捨て、また乗り越えて、新しいキリストにある価値観の中に生きるからです。それは、真理への愛、日々の働きにおける誠実さであり、また、欺瞞や怒りや陰口などといった悪い無駄話から遠ざかること、誠実な、人を作り上げるのに役立つ言葉を語ることなどです。

これらは、単に正しい道徳だからということで守られるのではなく、一つの体として、他者との有機的なつながりの中にあるゆえに守られます。この関心は共同体に対する関心であり、利他的な

関心を持っているのです。

このようなことができるのはキリストが示してくださった十字架の御業によるのであり、キリストの十字架の御業は新しい人の善い行いを呼び起こし、導くものなのです。

(3) 神に做う者となる(5章1節、2節)

キリスト者はキリストに結ばれることによって神の子とされています。「その恵みを受け、神の子とされているのだから、神様に做う者となりなさい」と、このところで教えられています。

子どもはその親を見て育ち、親に倣い親に似ます。とりわけ自分を愛してくれる親に倣い、その親に子どもが倣いつつ歩むのはごく当然のことです。神の子とされている者は、神様から愛されている子どもです。ですから、その子どもが神様に做うのは当然のことなのです。

この做うというのは、神の子とされた者が神の子どもとして振る舞うということです。それは、神様の御言葉に倣い、神様がキリストを通して示された愛を、隣人に対して持ち、それを表すことです。神様の子どもとして、神様がキリストを通して示してくださった愛の内に歩む、それが神の子として神様に做う者としての歩みなのです。

(4) 不品行を捨てる(5章3節～5節)

このところでは、愛に歩むことに逆行する道から離れるよう教えられます。これは4章25節～29節で言われていることと同じような内容です。

このところに記されている言動は利己的であり、貪欲なものです。これらのものは神様を第一とするよりもむしろ、金銭や地位を求める欲望であり、それはむさぼりなのです。そのむさぼりは、自分の欲望を第一とし、それらを神様の上に置き、それらを神とする態度です。貪欲は偶像礼拝であり、欺瞞や悪い言葉はそこから出てきます。

そのような歩みではなく、新しい人としての積極的な生き方、神様を第一とする生き方が教えられています。

カテキズム 子どもカテキズム 問61, 62
ウェストミンスター小教理問答 問79 ~ 81
ハイデルベルク信仰問答 問113

子どもカテキズム

問61 第十戒は何ですか。

答 「隣人の家を欲してはならない」、です。

問62 第十戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまは、私たちに必要なものを与えてくださいます。しかし、人は、少しでも多くのものを自分のものにしようと欲しがります。むさぼりの心こそ、偶像礼拝です。それを考え、実行してはいけない、ということです。むしろ、神さまは、私たちの心を人の幸せを願うように造り変えてくださいました。ですから、私たちは神さまから与えられたものに満足し、感謝し、人に与えることを喜びとするのです。

ウェストミンスター小教理問答

問80 第十戒は何を求めているか。

答 第十戒は、わたしたちの隣人とそのすべての所有に対する正しい愛の心を持つとともに、わたしたち自身の状態に、全く満足することを求めている。

問81 第十戒は何を禁じているか。

答 第十戒は、わたしたち自身の状態に不満であったり、隣人の幸福をねたみ、悲しんだりすること、また隣人のどのような所有にたいしても道ならぬふるまいをしたり、思いをよせたりすることを禁じている。

〈賜物に満ち足りる〉

神は私たちを愛して、イエス・キリストの贖いと復活による罪の赦しと永遠の命の恵みを与えて下さいました。また、私たちの父として、摂理のみ手をのべて最善の道を備え、あらゆる賜物を備えて地上の歩みを守り導いて下さいます。

この摂理の神の憐れみを知るときに、私たちはおのこの今ある境遇にまったく満足することを得ます。パウロが言うように、いかなる境遇にあっても満ち足りることを学ぶことができます（フィリピ 4:11）。これは福音に生きる者に与えられる知恵です。

自分に与えられた神の賜物が最善のものであることを知るとき、私たちは隣人の賜物をねたむ罪から解放され、逆に隣人の賜物のために配慮し、自分の賜物を隣人と分け合う愛に生きることができるようになるのです。

〈むさぼり〉

第十戒はむさぼりを禁じます。ルカ 12 章の「愚かな金持ち」のように、富を人生の主目的とするところにむさぼりが生じます。

コロサイ 3:5 には、「貪欲は偶像礼拝にほかならない」とあります。富を神の座にまつりあげるとき、まことの神への信仰は失われ、隣人との交わりにもゆがみが生じます。「愚かな金持ち」は自分の欲望に支配されて神の御顔が見えなかったと同時に、彼はまったく孤独でもあったのです。

そのことを考えるなら、この戒めが他の九つの戒めのいずれともかかわりあう、根深い心の次元を問題としていることがわかります。第十戒と第一戒とは同列に置かれるべきものだとの見解もあることを覚えておきたいと思います。

まことの神にたちかえり、イエス・キリストの福音の自由のもとに解放されるときこそ、私たちはむさぼりの間からも解放されるのです。

9月8日

「第十戒 むさぼりの禁止」

説教展開例

テキスト エフェソの信徒への手紙 4章 28 ~ 29 節
カテキズム 子どもカテキズム 問 61, 62

「むさぼってはならない」

〔単元のねらい〕

十戒本文の学びを終える。既に子ども達は暗唱できているであろう。既に、子どもの礼拝式の中で、十戒を唱える試みを始めている教会もあるであろう。あるいは、ここまで来て、心新たに十戒を唱え始める教会もあるかもしれない。いずれにしても、十戒を暗唱することは、大切であろう。(しかし、「主の祈り」こそ優先すべきであろうが……。) 十の言葉の一つ一つが創造者にして救い主なる神の愛の言葉、神の民をご自身の自由、祝福のうちに育て上げるための言葉であることは、どれだけ強調してもし過ぎる事はない。

むさぼりこそ、偶像礼拝であるし、その意味で、原罪の源は、むさぼりの心にある。罪の救いの恵みは、聖霊によって、我々を新しい被造物にまでしてくださった。主イエス・キリストを仰ぎ、主イエスと結ばれている者は、主イエス御自身が与える方、その命までも惜しまずに与えられたお方であることを知る故に、受けるより与える幸いに生きることができるし、そうしなければならないことを教えたい。その為にも、ここでも、主イエス・キリストを紹介する。これ以外に、この恵みの課題を担うことはできないからである。

ドラえものの不思議なポケットのことは、みんなよく知っているでしょう。ポケットから欲しいものがどんどん出てきます。たとえドラえもんがそばにいらなくても、「あんなポケットがあればなあ」と思った事はありませんか。

ポケットと言えば、みんな、この歌を知っていますか。「ポケットの中には、ビスケットが一つ、ポケットを叩くとビスケットが二つ。ポケットの中にはビスケットが二つ、ポケットを叩くとビスケットは 4 つ。そんなポケットが欲しい。」皆はそんなポケットが欲しいと思いませんか。先生も欲しいです。

さて、もしも、あなたのポケットの中にビスケットが一つだけ入っていたとします。お友達といっしょに遊んでいる時、お友達が言います。「アア。お腹がすいちやった。」あなたはポケットの中にビスケットが入っていることを思い出します。その時、どうするかな。分けてあげたいと思いませんか。そのためには、ビスケットをどうすれば良いのでしょうか。二つに割ればいいですね。ポケットの中のビスケットを手で叩いて割ったら、ポケットの中で、ビスケットは二つに増え

ています。勿論、半分になんて小さくなったのです。でも、お友達と一緒に食べることが出来ます。嬉しいですね。だから、「不思議なポケット」は、きっと誰のポケットにもあるのです。つまり、不思議なポケットは、その人の心のなかにあるのでしょうか。優しい心、自分の物をお友達に分けてあげる心です。

今日は、十戒の最後、10番目の言葉を暗唱します。「隣人の家を欲してはならない。」誰かの持っているものを自分のものにしようとたくらむことを神さまは禁じておられます。それは、第八戒でも学びました。僕たち私たちの命も、何かをする力も、持っている物も全ては神さまから与えられたもの、プレゼントされた物、良く管理するように預かったものでした。そして、それを神さまと人とのために自由に用いて良いし、それはすべて私たちの物であるとすら、神さまは仰ってくださいました。神さまは、僕たち私たちに必要な物をすべて与えてくださるのです。

しかし、自分が持っていない物、自分は持っているけれども、お友達も持っていて、それをもつ

と欲しいと思う気持ち。そんな気持ちが僕たち私たちの心にはありませんか。さっきは、誰かに分けてあげたいなって思う気持ちについて、皆も「そうそう」と同じように思ったでしょう。でも、同時に心の裏側では、「ちょっともったいないな」、そんな気持ちも働くかもしれません。自分のポケットの中に、実はビスケットがあるのに、友達のを半分貰ってしまって、心の中で、「ラッキー、得したね」って思う。そんな暗い、汚い心の動きがあるかもしれません。それが、「むさぼり」の心というのです。それは罪です。偶像礼拝なのです（コロサイの信徒への手紙題3章5節）。

今日、皆と読んだ聖書の中にこうありました。「盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。」エフェソにある教会のキリスト者の中に、昔、どろぼうをしていた人がいたようなのです。パウロ先生は、言いました。「イエスさまを信じている人は、もう決して決して、どろぼうなんかしてはダメですよ。」でも、それなら、イエスさまを信じていない人だって、同じですよ。泥棒してはいけないなんて、当たり前な事でしょう。でも、パウロ先生は、続けてこう言いました。「あなたがたは、自分の手で、働きなさい。仕事をしてお金をもうけなさい。」あれ、これも、当たり前なことではないですか。大勢の人たちは、一生懸命働いています。真剣に生きています。イエス

さまを信じている人もそうでない人も、変わらないかもしれません。でも、パウロ先生は、その後続けてこうも言います。「困っている人々に分け与えるようにしなさい。」そうです。イエスさまを知っている人、イエスさまを信じている人は、困っている人を助けるために、つまり、自分のためだけではなく、自分の仕事で誰かを助け、社会に役立ち、誰かの幸せを実現する、そのために、生きなさいと、パウロ先生は、命じているのです。

イエスさまは、ご自分のために、ご自分を喜ばすために、何かをなさったことがあったのでしょうか。イエスさまは、何をすることにしても、あの人の人の幸せ、喜び、祝福を願ってして下さいました。イエスさまが十字架にかけられた時、イエスさまは、神の御子なので、十字架から降りることなど、ご自分の神の御子の力をほんのわずかでも使えば、たちどころに、降りることが出来たはずですが、けれども、僕たち私たちを神さまの子にするために、降りられませんでした。イエスさまは、「受けるよりは、与えるほうが幸いです。」と教えておられます。

皆で、このイエスさまの教えを心に刻みましよう。みんながどんなにわずかでも、もしも、「自分のおこづかい」の中から、献金をささげるなら、天のお父さまはどれほど喜んでくださるでしょう。そして一番大切なことは、献金のお金や物ではなくて、「自分自身を神さまのお働きのためにお使いください」とお祈りして、自分を献げることなのです。

今週の暗唱聖句

隣人の家を欲してはならない。

出エジプト記 20章17節 a

〈目標〉

神さまの恵みに感謝して、満ち足りた気持ちで過ごす。自分の物と、人の物の区別を意識させる。

〈ミニ・ストーリー〉

ジュンくんは、ミニカーが大好きで、いろんな色や形のミニカーをいくつも、持っています。今日も、リュックの中にミニカーをたくさん入れて、お友達の家遊びに行きました。

お友達の持っているミニカーの中に、黒くて新しいスポーツカーが、キラキラ光っていました。

ジュンくんは黒のスポーツカーは持っていません。ジュンくんの心の中は、カッコいい黒のスポーツカーのことでいっぱいになりました。

お友達が、おやつを取りに行っている間に、ジュンくんは、その車をこっそり自分のポケットの中

に入れてしまいました。

そして、お友達がもどつてくると、「あっ！今日は早く帰らなくっちゃ！」と言って、急いで帰ってきてしまいました。

家に帰ると、ジュンくんはお母さんにみつからないように、かくれてこの黒いスポーツカーで遊びました。ドキドキ、ゴソゴソ遊ぶのはあまり楽しくないな—と思いました。「ジュンくん！！」お母さんの呼ぶ声がありました。飛び上がるほどびっくりして、急いで車を、オモチャ箱の奥の奥にかくしました。

何日も経つと、ジュンくんはこのスポーツカーのことをいつのまにか忘れてしまいました。

オモチャ箱の奥の奥で、黒いスポーツカーは聞こえない声で、泣いていました。

〈魚つりをしよう〉

○自分の持っている物に満足して感謝すること、困っているお友達と助け合い分け合うことの喜びを小さい時から体験しましょう。

○材料・・・スチレン皿（スーパーでお肉や、お魚が入れてあるトレイ）、クリップ、油性マジックペン、

先に小さな磁石のついた釣り竿（竹ひごやハンガーを切るなどして釣り竿をつくり、たこ糸をつけ、その先に小さな磁石をつけて、あらかじめ準備しておきましょう）

○作り方・遊び方

- ①スチレン皿（トレイ、色は何色でもよい）を魚の形に切り取る。
- ②マジックで、目やウロコの模様を描き、口にクリップをとめる。
- ③人数に合わせて、バケツ・たらいなどに水を張り、魚を浮かべる。
（状況によっては、水はなくてもよい）
- ④釣った魚を、分け合う体験もしましょう。



〈折り〉

たくさんの恵みをありがとうございます。わたしも、神さまのご用ができますように。アーメン。

〈目標〉

十戒の最後の言葉も、神への感謝を学ぶことに始まる。むさぼりは「偶像礼拝」であり、まことの神イエスを知ることにより克服される。

〈礼拝説教を振り返る〉

ドラえもののポケットのこと、思い出してください。そんなポケットがあれば、本当にすごいね。でも、たくさんほしいものがあるって、私たちの部屋の中も家の中も、すぐいっぱいになるかも。

アフガニスタンの難民の子どもたちのこと、テレビなどで見ましたか。救援物資の食事を一人一人少しずつ分けてもらっています。けんかする子どもはいません。鉛筆がなくて、二つに切って使います。見ていて自分が恥ずかしくなりました。

ほしい、ほしい。そういう心だけが大きくなる。イエスさまのことを求めず、自分だけがよければと考える。本当に悲しい罪が、先生の心にもいっぱいです。

イエスさまが、自分のことを何一つ求めずに、私たちが愛してくださった。感謝しようね。

〈祈りましょう〉

めぐみの神さま
私たちにいつも良いものを
ありがとうございます
それなのにわがままです
もったもったほしいと
思ってしまいます
イエスさまは
自分を喜ばせることを
何一つ求めませんでした
イエスさまの命までくださった神様
わたしも人に分けてあげられるよう
心から献金しました
どうか神様の必要のために使ってください
イエスさまのお名前によって
アーメン。

〈必要な分だけいただきます〉

用意するもの
簡単に積み上がるもの
将棋のコマ、マッチ棒
小石 など

○遊び方

- ① マッチ棒を積み上げて小さな山にします。
順番に取れるマッチ棒を取っていく。
 - ② 自分が取れる分だけ取っていく。
 - ③ 山を崩したり他のマッチを動かしたら、次の人と替わります。
- ※欲張らないで取れるものだけをもらうこと。



自分たちで
ルールを作って下さい。

9月8日 「第十戒 むさぼりの禁止」 小学科中級 分級教案

〈目標〉

むさぼりの罪。むさぼりこそが偶像礼拝につながることを教える。

〈指導上の心得〉

神様の戒めの要約を思い起こし、そこで教えられていたことを自らの内でよく確認しておく。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・神様から与えられているものについて考える。
- ・神様がすべてのものを必要に応じて与えてくださっていることを確認し、人が持っている物やおかれている環境、その人の賜物をうらやんだりすることについて考えてみよう。この時、戒めの要約と照らして考えてみよう。
- ・様々なものに捕らわれてしまうのではなく、神様から与えられたものに満足し、神様に感謝しつつ歩んでいくことを覚えよう。

〈ワーク〉

1. 人を見てうらやましくなったり、自分も欲しくなったりすることがないか考えてみよう。
a) 全然ない b) たまになる c) いつもそう
2. なぜ十戒でむさぼりが禁止されているのか考えてみよう。(正解は一つとは限らないよ)
a) 神様から与えられていることに満足していないから
b) 神様の求めている生き方じゃないから
c) 神様と隣人を無視しているから
3. イエス様は「受けるより与える方が幸いである」とおっしゃいましたが、私たちが人に与えることがあるとすれば、どんなことがあるのか考えてみよう。

○いつも私たちが受けるより与えることを喜びとすることができるように、お祈りしよう!

〈答え〉

1. b) または c) 2. 全部

9月8日 「第十戒 むさぼりの禁止」 小学科上級 分級教案

〈目標〉

偶像礼拝の本質は、貪欲による自己礼拝であることを覚える。

〈指導上の心得〉

「貪欲」の問題について考えるためにたとえをつくってみました。

〈展開例〉

(1) 怪獣「ドンヨク」登場

「ドンヨク」という名の怪獣が、いつも皆さんの内に出現していることを知っていますか。この怪獣についてわかっていることを教えましょう。

この怪獣の身長・体重は不明ですが、「自己」というスパイスつきの「満足」を食べて、体内で貪欲光線に変換し、あたり一面にまきちらすことで有名です。この怪獣がいるために、人は皆満足できず、いつもお金や食べ物や人の持ち物をむさぼることによって自分を礼拝し、「自己満足」を量産しています。神さまはこれを偶像礼拝と名付

けて、厳しく禁じています。なぜなら貪欲という名の欲望が人を滅亡と破滅に陥れる(テモテ6:9)からです。

(2) 退治の方法

この怪獣を退治する方法はありません。ただこの怪獣はなぜか「自己」というスパイスのついていない、「満足」はまずくて食べれないのです。つまり「満足」から「自己」を取り除くことにより、この怪獣を弱らせ、おとなしくさせておくことが最善の方法なのです。そしてそれは心の目を神に向けることによってのみ可能です。そうすることによって、徐々に「自己」が取り除かれます。例えば、善行をした時「オレってすごいやつだ」という「自己満足」から「神様はこれほどのことができるようにしてください」という、純粋な「満足」へと変わるのです。

(3) 問62を斉唱で唱えましょう。



創造の秩序

「産めよ、増えよ、地に満ちて、地を従わせよ。」(創 1:28)

「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。」(創 1:29)

「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。」(創 2:15)



墮落

アダムとエバは、神の知恵をむさぼろうとした(創 3:1-)

カインは弟アベルの祝福をむさぼった(創 4:1-)



贖罪

神様は「生きて働かれる神」であることを歴史の中でお示しになった。

た。

- ・ アブラハムへの約束
- ・ イサクの井戸
- ・ ヤコブがラバンの元で受けた祝福
- ・ 出エジプト マナ・うずら・水
- ・ カナンの地への侵攻 勝利
- ・ イスラエルの繁栄 ダビデ・ソロモン
- ・ 捕囚の地での祝福 エステル・ダニエル
- ・ イスラエルの再建 エズラ、ネヘミヤ

神様は私たちの必要を全てご存じで、満たして下さる。(マタイ 6:32)

イエス様の教え 山上の説教・愚かな金持ちの譬え・宮きよめ等々。貪欲は偶像礼拝であり、貪欲に支配されて生きる者は、神の支配を拒否することを述べられる。

弟子たちの手紙 繰り返し貪欲を戒める。

満ち足れる祝福への感謝の応答。



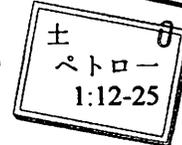
完成の途上—わたしたちの問題

最初にはっきり現われる罪はむさぼり。三才児でもむさぼるし、そのことを自覚できる。

現代の日本はむさぼることを悪としない。自分が幸せになることが人生の目標。他人を蹴落としても構わない。結果として、隣人を傷つけ、隣人を無視し、神様を無視する生活を送っている。

神様から与えられたものに感謝し、賜物を活用し、満ち足りて生きる。

毎日聖書を読もう



暗唱聖句

(出エジプト20:17a)

テキスト テトスへの手紙 2章11～15節

この書簡も短いものなので、全体を読んでください。特に2章1節～3章11節を通してこの箇所を読むと、よりよく理解できると思います。この2章、3章を通してキリスト者のあるべき姿について記されています。2章11節～15節の箇所は、その一部分です。

(1) 正しい生活の勧め(2章1節～10節)

2章1節～10節では、キリスト者としてあるべき新しい生活について述べています。この新しい生活は、社会的な身分や地位、性別や年齢などに関係なく、教会の全ての人々に対して勧められています。キリスト者となった者は、どのような者であれ、愛に根ざし、新しい歩み、正しい生活をなすことが教えられています。

そのような中で、未信者は、信仰者の新しい生に驚き、その信仰から神の恵みを感じ取るでしょう。敵対する者は、私たちに對して悪口を言うことができず、恥じ入るでしょう。そうして、キリスト者の日常生活が、神の恵みの現れとなります。

(2) 正しい生活の根拠(2章11節～15節)

キリスト者の生活は、単に道徳としての教えではありません。キリストによって示された神の救いの恵みと深い関わりがあることが示されています。私たちの救いは神からの一方的な恵みによって与えられるものです。その恵みはキリストによって現実にこの世に現れました。このキリストは偉大な神であり、私たちの救い主であられ、私たちの罪を赦し、私たちを新しい人としてくださいました。ですから、この神の恵みとは、キリスト御自身を指しています。

私たち人間は、キリストと結び合わされて新しい人に造りかえられます。キリストに結び合わされて、一人一人の現実とされます。救いの恵みはキリストからもたらされます。キリストに結び合わされて、神様に逆らう「不信心と現世的な欲望を捨てて」、神様に従って「この世で、思慮深く、正しく、信心深く生活するように教え」

られます。キリストに結び合わせられることによって、人は義とされ、古い自分を脱ぎ捨て、キリストご自身によって導かれ助けられて、正しい生活のできる新しい生へと導かれていくのです。

これは聖化の歩みにほかなりません。キリストの恵みが聖化の力となって働き、キリスト者を聖化の完成へと導いてくださいます。このように聖化の歩みをなすキリスト者は、キリストの再臨の希望の中に入れられ、再臨の時に救いが完成されるという約束を与えられ、その希望の中で今の世における生が支えられるのです。

14節では、キリストの死が私たちの贖いのためであったことが示され、11節～13節で語られたことを強調しています。キリストは、この贖いのためにご自身を死に引き渡され、私たちを奴隷として捕らえていた「あらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を御自分のものとし、清め」てくださいます。キリストが、正しい生活、愛の業に喜んで励むことができるようにしてくださいました。聖化の原動力はキリストにあります。

(3) 正しい生活がなされる場所(3章1～11節)

この新しく正しい生活は、この社会から離れたところでなされるものではありません。教会の中において、さらにはそこから送り出された教会員一人一人の生活の場においてもなされます。そのために、日常生活の中で行ってはならないこと、行うようつとめるべきことが、3章1節から11節にかけて示されます。

パウロはこのところで、支配者に従うことや隣人に対する態度について語っています。そこに示される態度をとるべき理由は、私たち自身もかつては不信心と現世的な欲望の中にいたのであり、そのような者を神が憐れみ、その救いのためにキリストが贖いの御業をなしてくださったからです。そのような救われるべき人々がいるのは、この世であり、ですから、この世で私たちは自らの生活をもって神様の恵みを表していきます。

カテキズム 子どもカテキズム 問63
ハイデルベルク信仰問答 問86, 90

子どもカテキズム

問63 あなたは、この十戒を喜んで生きるのですか。

答 はい。聖霊なる神さまの助けの中で、御言葉を喜んで守り、生きます。

〈恵みの戒め—十戒〉

十戒が、旧約時代のイスラエルの民たちに与えられた恵みの戒めであるのみならず、新約のキリストの教会に生きる私たちにとっても、やはり神の恵みの戒めであることを確かめましょう。

〈罪の悲惨を示す役割〉

十戒の役割は、確かにひとつには、私たちに罪の悲惨をさとらせることです。神の戒めはそれ自体は聖なるものですが、罪人の罪を白日のもとにさらさずにはおきません。聖にして義なる神と人間の罪とは水と油のようにはじきあうからです。

そのようにしてみずからが罪人であることを知るとき、私たちは自分がイエス・キリストの贖いによらなければ救いのない存在であることを認めずにはおれません。つまり、十戒は、私たちを贖い主のみもとに引いていく案内人の役目を果たすのです。私たちは行いによらず、ただイエス・キリストの十字架の贖いを信じる信仰によって義とされます。

〈感謝の生活の指標〉

それならば、イエス・キリストが来られた新約の時代には、もはや十戒は無用のものとなったのでしょうか。あるいは、今は十戒はただ私たちを主イエスのもとに連れていく役割を果たすのみな

のでしょうか。

そうではありません。十戒は、旧約時代とはまた異なった意味においてはありますが、新約の神の民らにとっても依然として揺るがぬ命の指標であり続けているのです。

私たちへの神の救いのみわざは、義認にとどまるものではありません。神はイエス・キリストによって私たちを義と認めてくださったが、そこから先は私たちのほうで腕まくりをして、自力で神にこたえなければならぬというわけではありません。私たちを一方的かつ主権的な恵みによって義としてくださった神は、同様にただ恵みによって、救いの完成にまで導いてくださるのです。すなわち、聖化もまた義認と同じく、神の恵みのみわざです。

恵みにより罪贖われ、義とされた私たちは、聖霊によって再生され、新しい人とされ、この神の救いの恵みにこたえる感謝の生活へと導かれていきます。そこにおいて私たちは、十戒のひとつひとつの戒めを喜んで守り行うことができるのです。自力によってではありません。聖化はイエス・キリストのみ霊が結んでくださる実りなのです。

この聖化の恵みによる感謝の生活の指標として、十戒は今日においても私たちの歩む道を照らす光であり続けているのです。

テキスト テトスへの手紙 2章 11～15節
カテキズム 子どもカテキズム 問63

「神のおきてを喜ぶ生活」

〔単元のねらい〕

これまで、十戒の「第三利益」の視点を強調してこの学びを重ねた。子どもカテキズムは、ここで「改めて」、十戒とは神の愛の言葉、祝福の言葉であることを確認する。論理としては、くどいであろう。しかし、現場においては、くどいくらいに強調したいし、するべきではなからうか。十戒は、救われた我々にとっては、神の子としての自由に生きるための憲章、道標である。詩篇 119 編の詩人は、「わたしはあなたの戒めを愛し、それを楽しみとします」(47 節)、「この仮の宿にあってあなたの掟をわたしの歌とします」(54 節)と歌う。このように掟を喜ぶ詩人の歌は延々と続く。

そして、我々には、この時の詩人以上の豊かな神の戒めへの愛、楽しみ、喜び、幸いを歌うことができよう。何故なら、「主イエス・キリスト」に贖われ、贖い主イエス・キリストを通して、神の掟を受けているからである。子どもたちにこそ、その喜びを伝えることが大切であろう。ただし、十戒の学びによる礼拝式が「暗い」「つらい」、道徳のお話になってしまったところで、この問 63 だけを明るく語る事は出来まい。第5号の十戒の序文の単元のねらいほかを常に確認しながら、十戒を語ることである。我々は、キリストの贖罪によって、聖霊の内住によって、「良い行いに熱心な民」として聖別されている。我々は「神の作品」(エフェソの人への手紙 2:10、口語訳)であって、キリスト・イエスにおいて造られた故に、「善い業を行なって」歩む。聖化の歩みである。聖化の歩みが教会形成となることは、問 34 で学んだし、問 65 で改めて確認する。

僕たち私たちは、これまで十戒をずっと学んで来ました。神さまは、この言葉の一つ一つのなかに、どんなお気持ちを込めておられるのでしょうか。

「わたしは主、あなたの神」これは、神さまの自己紹介ですね。皆も、初めて会う人達がいれば、「私は何々と言います。何々が好きです。宜しくお願いします。」って言うでしょう。神さまは、僕たち私たちに、自己紹介をして下さいました。本当は、神さまは偉いのですから、「自分はだれそれである」だなんて神さまの方から仰る必要はないのです。でも、僕たち私たちのことを愛しておられるので、自己紹介してくださったのです。

それだけではありません。神さまは、「あなたの神」と仰いました。僕たち私たちの神さまになってくださるというのです。「あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。」と仰って、神さまは僕たち私たちを愛して下さり、救ってくださったお方であると教えてくださった

ので。この神さまの自己紹介と十の言葉のひとつひとつもすべて、神さまからの愛の言葉ですね。ラブレターですね。だから、僕たち私たちも遠慮せず、「僕たち私たちを愛して救ってくださった神さま！ 私たちの神さま」とお呼びして良いのです。

神さまは、僕たち私たちをどのようにしてお救いくださったのですか。イエスさまによってですね。イエスさまが何をしてくださったので、僕たち私たちは、救われて神さまの子とされたのですか。主イエス・キリストさまが、十字架にかかって、僕たち私たちの罪の身代わりになって死んでくださって、三日目にお墓の中からよみがえられたことによってですね。このイエスさまを信じる僕たち私たちは、イエスさまと一つに結ばれました。合体させていただきました。僕たち私たちは、神さまの御子のイエスさまによって、神さまの子、養子にいただいたのです。イエスさまの弟、

妹にいただいたのです。昔は、エジプトから救い出す事によって、今は主イエス・キリストの十字架と復活によって神さまは私たちの神さまとなってくださったのです（問41）。

神さまは、そのような僕たち私たちが、もう二度と、悪魔の子、罪によって滅んでしまう子、暗闇の子になってしまうことがないように、いつも、見守ってくださっています。そのために、神さまは僕たち私たちに、「あなたがたはこのように生きなさい。こうしてはいけません。」と命じて下さいました。人間も、かわいい子どもに親は、こう言います。「危ないから、ここから外に行ってはダメだよ。」まだ、赤ちゃんの場合は、柵の中に入れてしまいます。皆も、まだ小さな赤ちゃんの時には、ベットのゲージの中に入れておくように、ゲージの中に入れられていたお友達も少なくないと思います。それは、意地悪をしているのではありませんね。危ないからです。怪我をすることがあるからです。

そして、そんな時、親はいつもそばにいるものです。つまり、十戒をロズさんでいる人、いつも十戒の言葉を生きようと心にかけている人は、神さまといつもいっしょに過ごしている人です。十戒は、神さまと一緒にいるためにしるべとなる言葉、なくてはならない言葉、掟なのです。この十戒を生きるならば、神さまはいつも一緒にいてくださるのです。そのことが良くわかるようになるのです。

ですから、僕たち私たちにとって大切な事は、今、このひとつひとつの言葉を絶対に守っているかどうか、何よりもそれを先に考えるということではありません。いつもいつも今日は大丈夫だったかな、明日はどうかと、一つ一つの言葉をドキドキしながら、考えることではありません。そうではなく、一つ一つの言葉をロズさんながら、「ああー、僕たち私たちの神さまはいつも僕を愛していてくださっているな」と喜び感謝することです。一つ一つの言葉を唱える時に、イエスさまの十字架と復活の御業を思い起こす事です。その時には、何度失敗しても、イエスさまと一緒にいてくださるので、直ぐに素直に言えるでしょう。「僕たち私たちを愛してくださる神さま、ごめんなさい、僕を助けてください。」

最後に、ザアカイさんのお話を思い出してください。ザアカイは、けちん坊でした。しかも、悪い方法でお金を儲けていました。けれども、イエスさまを家にお迎えした時に、つまり、イエスさまを心にお迎えして信じた時に、ザアカイは盗んだもの、騙し取った物を4倍にして返します。財産の半分を貧しい人に施しますと言いました。むさぼりの心から解放されたのです。僕たち私たちも、イエスさまを心の中にお迎えしているでしょう。イエスさまを心にお迎えしたザアカイさんは、イエスさまの愛を知って、第十戒は勿論の事、十戒の一つ一つを喜んでロズさん、神さまの愛を感謝して過ごしたと思います。

今週の暗唱聖句

キリストがわたしたちのために御自身を献げられたのは、
わたしたちをあらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心
な民を御自分のものとして清めるためだったのです。

テトスへの手紙 2章 14節

〈目標〉

聖霊なる神さまの助けの中で、十戒を喜んで守り、家族やお友達と過ごします。

〈ミニ・ストーリー〉

ユリちゃんは、ピーちゃんという小鳥を飼っています。ユリちゃんは、お天気の日には、お庭の木の子に、白い鳥籠をつり下げます。風が吹くと、白い鳥籠がクルクル回って、とっても気持ちがいいのです。ピーちゃんは、クルクル回りながら歌を歌うのが大好きでした。

ところがある日、えさと水を取り替えにきてくれたユリちゃんは、鳥籠の戸を閉め忘れて遊びに行っていました。ピーちゃんは、そお一つ鳥籠の戸の外に出てみました。どこへ、行ったらいいのかわからないままに、バタバタ飛んで、ず

いぶん遠くまで飛んできてしまったようです。

やがてあたりは暗くなって、お腹がすいてきました。ピーちゃんは、地面に落ちているビスケットをみつけて食べようと、降りてきました。すると、黒い影がサッと近づいてきて、ピーちゃんに襲いかかろうとしたのです！ ピーちゃんはこわくてこわくて、力いっぱい高く飛び上がりました。黒い影は「ニャーオ」と悔しそうに鳴きました。

ピーちゃんは必死で飛んで、キラキラ光っている大好きな鳥籠をみつけました。白い鳥籠を目指して飛んで行きました。鳥籠の側には、ユリちゃんが心配して待っていてくれました。鳥籠にもどった時、ピーちゃんはとても安心しました。

風に揺られてクルクル回る鳥籠の中で、ぐっすり眠りました。夢の中で、歌を歌っていました。

〈丸く輪になって、踊りましょう〉

○十戒を生きようとする事は、「神さまの愛」の中にとどまろうとする事です。

「神さまの愛の中（輪の中）」で、カー杯生きていきましょう。

○一列の円になり二人が円の中に入る。

○みなさんも、よく知っているナツカシイメロディーです。みんなうたいましょう。



○振り付け

①ひかりの こどもは ふたりし て
②ひかりの こどもは てをふっ て

①二人は歩いてきて向き合い足ぶみ
②二人は向き合って足ぶみ8回



①なかよく てをとり おどりま す
②さよなら さよなら またあし た

①手をつなぎ、かかとを交互に前に4回出す
②右手を左右に振る



ララララ ララララ ララララ ラ ラ ララララ ララララ ララララ ラ

①二人は手をつないで、円周をスキップする
②二人は別れてスキップして、他の人と交代する

〈祈り〉

十戒を教えてくださいました神さま、守れるようにお守り下さい。アーメン。

〈目標〉

主イエスによって神の子とされた私たち。神様に愛されて、光の子として、闇に打ち勝つ歩みが約束されている。

〈礼拝説教を振り返る〉

十戒のことばをおぼえたかな。一つ一つのことばに、神様が私たちをどんなに大切に思っているか、神様の大きな愛がこもっています。

十戒を学びはじめたとき、ちょっと恐かった人はいますか。礼拝で十戒を言うときも、何か叱られそうな気持ちになったこともあるね。

でも、そうでないことを、もう知っているね。私たちは、イエスさまによって神様の子どもにしていたいたのです。イエスさまから見ると、私たちは弟や妹かな。イエスさまは、私たちのいちばん大きなお兄さんです。

イエスさまのおかげで、十戒のことばは、恐ろしい法律なんかではない、神様が私たちを守って、光の子どもらしく歩くための、道案内になりました。もう迷わないで、天国への道を歩けるのです。

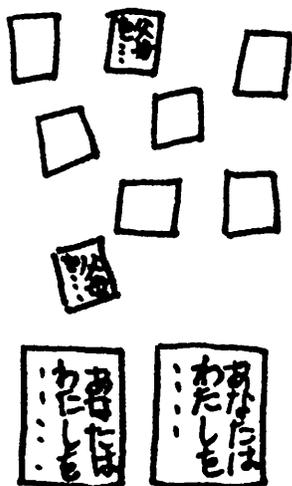
〈祈りましょう〉

めぐみのかみさま
私たちに十戒をくださり
感謝します
イエスさまによって
わたしたちをすべての罪から救い
神の子としてくださり
感謝します
十戒は神様の愛のしるしです
ひとつひとつの言葉を
私たちの心にきざみます
神様のことばに従い
ザアカイさんのように
イエスさまに喜ばれる人になり
なりたいです
イエスさまのお名前によって
アーメン

〈十戒で神経衰弱〉

○準備するもの

厚紙でカードを20枚作り、十戒のことばを書いておきます。一枚のカードに一つの戒めを書き、一つの戒めが二枚できるようにします。(40枚でつくってもよいでしょう)



○ルール

- ①カードはすべて裏返してバラバラに並べます。
- ②トランプの神経衰弱の要領で、カードを二枚ずつめくり、同じ言葉なら自分のものになります。
- ③いちばん多くとった人の勝ちです。

9月15日 「神のおきてを喜ぶ生活」 小学科中級 分級教案

〈目標〉

十戒が私たちの生きる道の道しるべであることを示し、そこに生きることの喜びを共に覚える。

〈指導上の心得〉

十戒がなぜ道しるべなのかを、自らがじっくり味わって教える。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・十戒を学ぶ前と学んだ後のイメージを聞いてみましょう。(それによってそれぞれの理解を知ることができます。)
- ・十戒を知り、それに従って生きることによって私たちはどのような生き方ができるのか考えてみましょう。
- ・十戒は神様を中心とし、神様を礼拝し賛美しつつ生きることを教え、私たちに主にある喜びの生活を与えてくれることを覚えよう。

〈ワーク〉

1. これまで十戒を学んできて十戒にどんなイメージを持ったかな? ○をつけてみよう。
優しい 厳しい 嬉しい つらい
その他自由に書いてみましょう()
 2. 神様は私たちを愛しているから十戒という道しるべを与えてくれました。神様に「ありがとう」のお祈りをみんなでしてみよう!
 3. 一戒一戒学んできた十戒はもう覚えたかな? バッチリ? 聖書を見ないで言ってみよう!
言えない人は覚えましょう!
- 神様から道しるべとして与えられた十戒を喜んで毎日口ずさみましょう! 十戒は太陽の光のように温かい言葉です。その戒めを栄養として毎日たくわえていこう!

9月15日 「神のおきてを喜ぶ生活」 小学科上級 分級教案

〈目標〉

主イエスの十字架によって、神の御前に「義」とされるだけでなく、「良い行い」に熱心にもされることをおぼえ、感謝しよう。

〈指導上の心得〉

「義」と「良い行い」との関係をおさえることにより、恵みのみによって救われるのに、なぜ良い行いが必要か? という疑問に解決の糸口を与えたい。人間に対する実に深い神の配慮を知ろう。

〈展開例〉

(1) 「義」と「良い行い」は一緒

イエス様の十字架を信じる者は、皆「義」と「良い行い」がいただけます。「義」とは神様の正しさのことです。「良い行い」をいただくとは、それができるようにされるということです。「義」と「良い行い」はいつも一緒です。「義」だけが与えられるということは決してありません。なぜなら「良い行い」をせず、悪ばかり行っている人

は決して天国へ行けないからです。信じる者は皆、良い行いに熱心な民(=教会)の一員とされるのです。

(2) 律法は完全

律法は完全です。律法には私たちが到底達成することができない最高の正しさが示されています。どうして神さまはこんなに厳しいことを求められるのでしょうか。

なぜなら、①私達がいかに罪人であることを悟り、へりくだり、キリストへと導かれ、②力の足りなさを自覚した私達が日々神に熱心に祈り続けることができ、③神への畏れを失わないためなのです。もし律法が簡単だったら、私たちはすぐに高慢になり、神さまを信じ続けることができないのです。厳しいと思える律法が、実は弱い私達人間への、神の深い配慮に基づくものなのです。

問63を斉唱しましょう。



話し合おう

前回まで十戒を学んできた感想を話し合おう。

分ったこと、気づいたこと、感じたこと、思ったこと、どんな意見でも自由に述べ合う。



問63の学び

問 63 を読んで、先程の皆の感想と比べる。「十戒を喜んで生きる」「聖霊なる神さまの助け」「御言葉を喜ぶ」「喜んで守る」「御言葉を生きる」といった意見は出てきたか？

出てきたなら十分に誉め、そういった感想を持つことができた恵みを神様に感謝する。

出てこなかったら、なぜこういった観点が抜け落ちたか、話し合ってみよう。問 64、65 に繋がるような深い洞察も出てくるかもしれない。



聖書の読み取り

11 節、「これはどういう意味？」と聞いたら、契約の子なら「イエスさまの誕生」あるいは「イエスさまの十字架」と答えることが出来るだろう。

12 節、イエスさまの教えを箇条書きで板書。

13 節、再臨待望の確認。

14 節、贖いの目的をはっきりさせ、救われた群れ（教会）は、善き生活へと聖別された民であることに注目させる。

そろそろ親のいい加減さを見抜いている子や、自分も含めて人間の弱さに気がついている子がいれば、反論や疑義が出るので、それも洞察の鋭さを誉め次週に繋ぐ。

神様の約束を純粹に信じることの出来るメンバーであれば、次週の話は今週する必要はなし。ひたすら聖霊なる神様の導きに感謝して終わろう。

月 日 「神の掟を喜ぶ生活」 中学科

名前 _____

聖書：

問

讃美：

☆十戒を学んでの感想

毎日聖書を読もう

日	ペトロ 1 2:1-10	月	ペトロ 1 2:11-25
火	ペトロ 1 3:1-7	木	ペトロ 1 4:1-11
水	ペトロ 1 3:8-22	金	ペトロ 1 4:12-19
		土	ペトロ 1 5:1-14

☆上記の感想と問 63 を比較して

暗唱聖句

(テトス2:14)

この箇所は、死をもたらしたものは何かという問題を語りつつ、律法と罪と死の関係を教えている御言葉です。

(1) 人に死をもたらすのは律法か(13節)

パウロは 7 節 ~ 11 節までのところで、律法を知らなければ人類は罪を知らなかったと言い、律法によって人類が、死に直面させられたと語っています。また、掟が登場したことによって「罪が機会を得、あらゆる種類のむさぼりをわたしの内に起こしました。」と記しています。ここだけを見ると、まるで律法が死をもたらしたかのように見ることができます。しかし、パウロは 12 節において、律法は聖であり、正しく、良いものであるとも言っています。13 節では、「その良い律法が死をもたらしたのであるのか、また、もしそうであるならば、律法自体が罪ではないのか」ということが問われています。

パウロは、ここで明らかに、律法は罪であるという考えを完全に否定しています。むしろ、この律法によって、罪が罪として明るみにされ、罪が罪としての正体を現すのです。つまり、律法によって罪とは何であるのかということが明らかにされます。律法は、義であり、聖であり、神の御心を表しています。それ故に、律法によって神に敵対する不義が明らかにされ、罪が罪として現れます。罪は律法によって「限りなく邪悪なもの」であることが示されました。

(2) 律法は霊に属するもの(14節前半)

人間が律法によって死に直面させられるのは、律法が悪いからではないことが、13 節において示されました。それでは、律法とはどのようなものなのでしょうか。

パウロは 14 節の前半で、律法が神から出ており、神的性格を持っているものであると語っています。神から出たこの律法はそれ自体としては死をもたらすものではなく、命を与えるものです。

命を与えることこそ、霊の性質なのです。

(3) なぜ律法は死をもたらすのか(14節後半)

律法は霊の性質を持っているにも関わらず、なぜ人間を生かさないのでしょうか。それは 14 節後半に記されていますように、人間のほうが罪故に弱くされている人間性 (=肉の人) を帯びているからです。この人間性は罪の下にあり、罪の奴隷として束縛されてしまっているのです。人間は生まれながらにしてその罪に束縛されているのです (=原罪)。

(4) 罪の束縛がもたらすもの(15節~25節)

罪の下に捕らえられた者の心の中に大きな恐ろしい分裂があることを、パウロ自身が告白しています。自分のなしている行いが自分の人間として本来もっているはずの意志から出たものではなく、まさにそれとは正反対のことをしてしまっているというのです。そのことをパウロは善を行いたいと願いつつも、なす事のできない現実を通して具体的に言い表しています。そのことは、21 節以下でも繰り返して語られています。人間は本来、神に従い、神をほめたたえる存在として造られており、善を行うことこそ、本来の人間が願うことなのです。しかし人間は墮落し、その身に負った原罪の故に、本来の人間が願うはずの意志に反して、罪を犯してしまいます。

たとえこれが本来願っていないことであつたとしても、人間自身が罪を犯しているのは事実であり、その罪に対する責任があることをしっかりとこのところで描き出します。また、パウロはこの事を通して、人間は罪の故に善に対して、また救いに対して全く無能力であることを語っています。この原罪の故に、人は罪を犯してしまうことが、このところで明らかにされています。

原罪の故に人間は救いに対して完全に無能力となっており、神の求められる善をなすことができなくなっています。それゆえキリストによって贖われる必要があるのです (24、25 節)。

カテキズム 子どもカテキズム 問64
ウェストミンスター小教理問答 問82
ハイデルベルク信仰問答 問114

子どもカテキズム

問64 神さまの戒めを完全に守れる人はいますか。

答 真の人であられるイエスさまのほか、だれもいません。私たちは、毎日思いと言葉と行いによって破っています。私たちは、完全に神さまに背いている罪人なのです。

ウェストミンスター小教理問答

問82 だれが神の戒めを完全に守ることができるか。

答 単なる人間は、墮落以来、だれもこの世において神の戒めを完全には守れない。かえって思いと言葉と行いにおいて日毎にこれを破っている。

〈義とされてなお罪人〉

十戒は私たちが生まれながらの罪人であることを明らかにし、私たちをイエス・キリストのもとへと導きます。

墮落前のアダムには罪がありませんでした。彼は神のみ言葉をすべて完全に守ることができました。

しかし墮落以来、全人類は罪ゆえに神の戒めを守ることができず、かえって「思いと言葉と行いにおいて」「日毎に」これを破っています。

私たちは主イエスの十字架の贖いによって罪赦され、主イエスの義を着せていただくことで神から義と認めていただき、無罪の判決を受けました。

しかし、無罪判決を受けても、なお私たちは罪の残滓の中にあります。義認によって身分の変化が生じ、神の子とされましたが、それにふさわしい実質を得ているわけではありません。つまり私たちは聖化の恵みに日々あずかりつつ、なお聖化の途上にあります。聖化は死の時に完成します(問37)から、地上にあつては私たちは義人でありつつなお罪人として歩み続けることになります。

〈悔改めと服従〉

従って、私たちは主イエスを信じる信仰に生きてはいても、なお自分が罪人であり、日々十戒に背き続ける者であることを深く自覚するひとりひとりです。むしろ罪の自覚が深まることこそ、聖化されていることのしるしであると言えます。改革派教会の礼拝式文の一つに「罪の告白と赦しの宣言」がありますが、主の日の礼拝のはじめにまず罪を告白し、赦しのみ言葉をいただくことは、そのようなわけなのです。

しかし、私たちには命に至る悔改め(問87)の恵みが与えられています。そして、主は教会に聖化の恵みを受けるための手段 - み言葉と礼典と祈り(問88) - とを備えて下さることによって、聖化の実りを確實にもたらしてくださるのです。私たちが十戒を守り行うことができるとすれば、それはひたすらに聖霊の恵みの実りなのです。

テキスト ローマの信徒への手紙 7章 13 ~ 25節
 カテキズム 子どもカテキズム 問64

「律法に背く人間」

〔単元のねらい〕

律法の「第二利益」は、我々の罪を暴き、罪人としての自覚へと誘う。しかし、今や、信仰が現われた。(ガラテヤの信徒への手紙第3章 21 ~ 27) 主イエス・キリストが出現したのである。福音の光は世界を照らしている。教会において、律法が語られ、そこに聖霊が働かれる時には、自分自身の真の姿、即ち、完全に神に背いている罪人としての悲惨な姿を認めざるを得ない。その罪がどれほど大きいのか、どれほど悲しむべきかを、教えたい。ハイデルベルク信仰問答の序に、唯一の慰めに生きるために、知るべきことの第一として教えたのは、自分自身の罪の自覚であった。我々のカテキズムでは、ここであらためて集中的に、罪の問題に取り組む。それは、主イエス・キリストへと導くための営みにほかならない。

今日も、皆と一緒に神さまを礼拝することができると本当に嬉しく思います。神さまに心から感謝します。先生たちは、毎週日曜日に子どもの礼拝式、大人の礼拝式を捧げています。そこでいつも思うのは、神さまはこんなに罪深い私のことをも愛してくださり、礼拝に招いてくださることの喜び、感謝です。天と地の造り主の神さまは、聖い神さまです。ですから、そのような神さまに、汚れた罪深い先生が近づくことは、普通に考えると神さまには迷惑かもしれません。「もっと、立派になってから来なさい。もっと、正しい行いをするようになってから来なさい。もっと、心の中をきれいにしてから来なさい。」このように仰られても当然かもしれません。もしも、皆の大切なものを、誰かが泥んこの手で触ったら、「やめて一。触るな!」と叫ぶでしょう。聖い、正しい神さまに、今近づいている僕たち私たちがです。神さまはこんな、僕たち私たちから、「天のお父さま」って呼ばれる事を嫌がらないで、逆にとってもとっても喜んでいてくださいます。心から感謝します。

さて、今日の聖書の御言葉は、ちょっと難しかったかもしれませんね。これを奮いた使徒のパウロさんは、最初の教会のお弟子さんのなかでも特別に神さまの豊かな力を与えられて、世界中に伝道

したスゴイ人です。ところが、そんな立派な働きをしたパウロさんは自分のことをなんて考えていると言ったのでしょうか。今日の暗唱聖句をもう一度、唱えましょう。「わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行なっている。」このパウロ先生の心の中の正直な思いを最初に読んだとき、先生はとても驚きました。「エーッ、パウロ先生のような偉い人がこんなことで悩んでいたなんて。心の中で自分は善いことをしたいと思いながら、実際にしていることは正反対。心の中に悪い思いを持っているなんて!」使徒パウロ先生ほどの立派なお弟子さんなら、思う事、行う事はいつも素晴らしい事ばかりだと思っているのに、本人はそうではないと言うのです。びっくりしてしまいます。

さあ、それなら、僕たち私たちも、今心の中をずかかにのぞいてみましょう。あなたは、善いことをしていますか。困ってる人がいれば助けてあげたいと考えていますか。悲しんでいる人がいれば、友達になって、そっとお話を聴いて上げたいと思いますか。十戒を心の中で唱えてみてください。お父さんお母さんを敬っていますか……。友達をいじめた事、意地悪な事や言葉を言っていませんか……。誰かの物を借りて返さないままということはありますか……。嘘を言って、人を困らせたり、悲しませたりしたことはありま

せんか……。もしも、一つでも十戒を破っているなら、僕たち私たちは、罪人です。

十戒の一つ一つの掟はすべてとても良いものです。僕たち私たちは、良い掟だと分かっています。けれども皆の心の中にこのような思いがありませんか。「ああ、この戒めを完全に守れてなんていない。僕は、心の中で悪い事を考えている。考えるだけでなく、やっちゃっているな……。やっぱり罪人だ。」

そのように考えて、悩んでいるのは、先生をも含めた僕たち私たちだけではありません。「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。」これは、誰かどうしようもないくらい悪い人、人々からあいつは悪い人間の親分のようなどうしようもない奴だと、後ろ指をさされるような人のことばではありません。偉大な使徒、パウロの言葉なのです。ちょっとほっとするかもしれませんね。

でも、それだからといって、僕たち私たちの罪は残ったままです。心がいつも悪い事をするほうへと傾いてしまう。坂道にボールを落としたら必ず、下へ下へと転げ落ちてゆきますね。それと同じように、罪人の心は、放っておけば神さまから離れるほうへ離れるほうへ、悪い事へ、汚れたことへと転げ落ちていってしまうのです。

それなら、どうすれば良いのでしょうか。いけないと分かっているのにやってしまう自分は、もうダメなのでしょうか。神さまの御言葉を聞いて、日曜学校に通っているのに、善くないことをして

いるなら、もう、教会に来る資格なんてないのでしょうか。いいえ違います。神さまはそんな僕たち私たちの心の中も、行っている事も全部ご存知です。それでも、そのまま神さまは僕たち私たちを愛していただきます。どうしてでしょうか。それは、僕たち私たちが、神さまの独り子、天のお父さまの御子のイエスさまを信じているからです。信じている僕たち私たちは、神さまからイエスさまを通して見られているのです。たとえば黄色のメガネをかけて世界をみると回りは黄色になって見えます。天のお父さまはイエスさまというメガネをかけていつも僕たち私たちを見てくださるのです。だから、僕たち私たちを罪人でありながら、同時にイエスさまによって、罪を贖われた人、罪のない人のように認めていただけるのです。

天のお父さまは、僕たち私たちの暗い心、汚い心をご存知です。僕たち私たちも、自分が罪人だと教えて頂きました。だから、十戒を唱えるときには、「罪を赦してください」といつもお祈りする心で唱えるのです。それだけでなく、イエスさまによって赦されていると信じて、喜びの心で唱えるのです。それに加えて、この掟を守る力を与えてくださいという祈りの心でも唱えるのです。今週も、イエスさまを信じ、見上げて、神さまに喜ばれる思い、喜ばれる行いをしていくよう心がけましょう。

今週の暗唱聖句

わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。

ローマの信徒への手紙 7章 19節

〈目標〉

神さまに喜ばれない（神さまを悲しませる）心があることを知り、それでもなお、受け入れてくださる神さまの愛を知る。

〈ミニ・ストーリー〉

ある日、日曜学校の先生が、幼稚科のみんなに、「みんなの心の中に、何本のボウ（棒）がありますか？」と聞きました。

〇〇教会の幼稚科のお友達はみんな、「心の中に、棒なんて入っていませんー！」と答えました。

先生は、少し考えてから、「例えば・・・『あばれんボウ、いばりんボウ、どろボウ、らんボウ

なまけんボウ、きかんボウ、おこりんボウ・・・どう？ みんなの心の中に、そんな棒をしまつてないかな？」

みんなは、あるある・・・と思いました。幼稚園の先生から、「ヒロくん！ お友達に乱暴してはいけません。」と、しかられた事がありました。おかあさんに、「本当に、アッコはきかんぼうで困るわ・・・」と言われたを思い出しました。

あなたの心の中にも、ボウが入っていませんか？もし入っていたら、神さまにお祈りをしてゆるしていただきましょう。

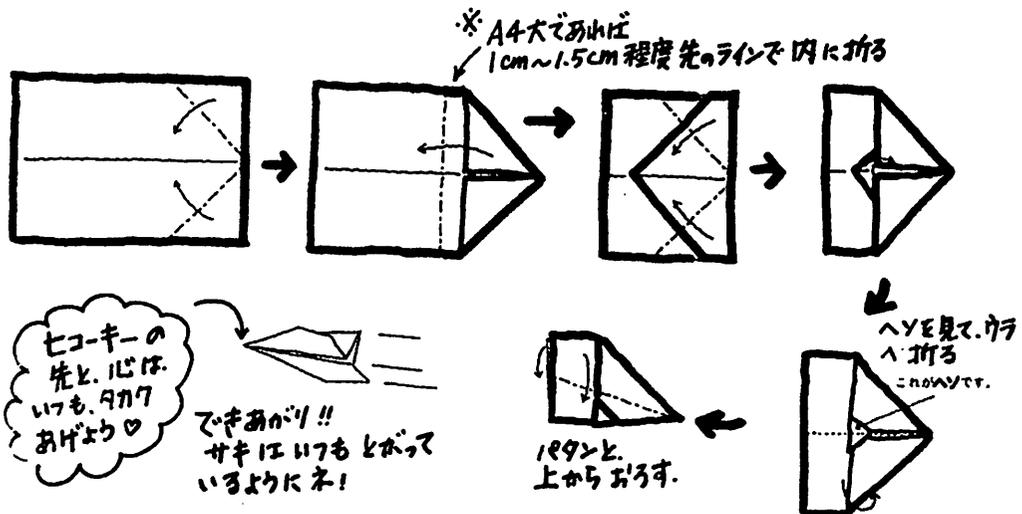
イエスさまは、あなたをゆるすために十字架にかかってくださいました。

〈紙ひこうき〉

風によって、よく飛ぶヘソヒコーキ

〇材料・・・長方形の広告紙（A4大）

ぼくたち、わたしたちの心がいつも、イエスさまに向かって真っ直ぐ飛んでいきますように。



〈折り〉

新しい一週間も、イエスさまにお祈りできますようお守りください。アーメン。

〈目標〉

主イエスに愛されながらも、人はどこまでも神の戒めに背き、十戒をやぶる罪をおかす。イエスによって義とされる、神の憐れみこそが、罪人の希望であることを伝える。

〈礼拝説教を振り返る〉

パウロさんのような、立派な人が、きよい、正しい心をまだもっていない。驚きましたね。十戒のひとつひとつのことばは、まっすぐな「ものさし」です。私たちの心を映す「かがみ」です。

かがみの前に立つでしょう。すると、ボタンがかけ違っていたり、姿勢がゆがんでいるのが、すぐわかるね。私たちの心も、どんなに正しく見えても、ゆがんでいるのです。

こんなわたしは、神様から嫌われるのかな？
そうではないね。イエスさまが、私たちに代わって十字架についてくださったことを、いつも忘れないようにしよう。そして、「わたしの罪をゆるしてください。イエスさまの御名によって、アーメン」と、心から祈ろうね。

〈祈りましょう〉

めぐみのかみさま
イエスさまが罪をゆるし
神さまの子どもにしてくださり
感謝します
神さまに愛されているのに
まだ罪をおかします
十戒を守ることもできません
こんな私を導いてください
私の心に住んでください
悪い心が芽生えるとき
私を叱ってください
イエスさまのお言葉を聞き
イエスさまのゆるしを祈ります
イエスさまのお名前によって
アーメン

〈〇×ゲーム〉

〇のスペースと×のスペースをつくり、〇×クイズをしましょう。
クイズの内容は自由に考えてください。

- ・わたしたちはうそをついたことはありません
- ・イエスさまを信じる人は、神さまが罪をゆるしてくださいます
- ・神さまはただお一人です。
- ・ベトロは、鶏が鳴く前に、五回、イエスさまを知らないと言いました。
- ・私たちのそばにはいつもイエスさまがいてくださいます。
- ・自分でがんばったら、十戒を全部まもれます。
- ・聖書には、人はパンだけで生きると、書いてある。
- ・アブラハムの子どもはイサクです。
- ・カインとアベルは親子です。
- ・お祈りを一度もしたことはありません。



〈目標〉

自分たちが罪人であることを悟らせ、罪人であることの自覚へと導く。

〈指導上の心得〉

罪とは何かをもう一度よく理解した上で分級を展開する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・十戒に書いてあることを守ることは簡単かどうか一緒に考えてみよう。(できないという答えに導こう)
- ・なぜできないかを考えて、話し合おう。
- ・できない原因である罪とはいったい何なのかを話し合い理解する。
- ・十戒を守れないという罪の問題は、それぞれが持っている問題である。教師が自ら罪の現実があることを示しつつ、悔い改めへと導こう。

〈ワーク〉

1. みんなはいつもどんな事をしたいとしたいと思っている? ○をつけてみよう。
正しいこと 悪いこと 何も思っていない
喜ぶこと 悲しむこと
2. では、実際にすることはどんなこと?
正しいこと 悪いこと 何もしていない
喜ぶこと 悲しむこと
3. 今まで学んできた十戒を完全に守れる人はいますか? 次の中から選ぼう。
a) そんな人はいません! 私たちは罪人だから十戒を完全に守ることはできません
b) そんなこと簡単に守れます
4. 悪いことをしたら神様に「ごめんなさい」と言ひましょう。みんなでこの一週間の悪い行いを謝って、祈ろう!

〈答え〉

3. a)

〈目標〉

私たちが罪人であることをあらためて示し、救い主を仰ぐことへと導く。

〈指導上の心得〉

聖化の途上にあるキリスト者の「救われてなお罪人」としての姿を、主イエスとの比較において正しく伝えたい。またイエス・キリストを信じる信仰と希望にかたく立つようにうながしたい。

〈展開例〉

カルヴァンという人は、私たち人間はまことの神様を正しく知ることをゆるされたときにはじめて、私たち自身の本当の姿を知ることができると語りました。

神様は完全に正しいお方です。この神様の光に私たち自身の姿がうつし出されるとき、私たちはみな罪人であることがはっきりとわかります。ほ

んどうに正しいお方はイエスさまのほかにはいません。

私たち人間はみな、神様の御言葉「十戒」の一つ一つの戒めを守ろうという願いはあっても、実際には御言葉と反対のことをしてしまう罪人です。それは、私たちはイエスさまを信じて救われていますが、なお罪の中にあるからです。パウロさんはイエスさまを知る前には、自分ほど正しい人は世の中にはいないと信じていました。でも、今イエスさまを知って、わたしはみじめな罪人、罪人のかしらであると叫んでいます。でも、この叫びは幸いな叫びです。パウロさんはすでにイエスさまの救いの恵みを知っているからです。

〈祈り〉

神様、私たちがイエスさまの恵みによってはじめて生きることができるようひとりひとりであることを知ることができて感謝します。アーメン。

この御言葉は、聖霊なる神によって与えられる罪と死からの自由について書いてある箇所です。この御言葉をよく読み、罪と死からどのように解放されたのかを味わって下さい。

(1) キリストを通して示された神の御業

パウロは、「従って」と語り、議論をさらに深めています。この「従って」という言葉は、7章25節で、パウロがキリストを通して神に感謝していることを受けています。つまり、主イエス・キリストによる救いの御業です。彼は7章25節において、神がキリストによって自らにもたらしくださった恵みを思いめぐらしていました。そして、彼は感謝しました。

「死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。」という人間の罪と悲惨の現実が7章24節で語られました。しかし、彼はキリスト・イエスの贖いの御業によって、その罪と悲惨の状態から救い出されたのです。だからこそ、彼は7章25節で感謝をすることができました。それゆえ、キリストに結びつけられた者は、罪に定められないといわれます。

(2) 聖霊の法則によって解放される

キリストの贖いの御業の故に、キリストに結ばれている者は罪に定められないことが1節で示されましたが、それはいったいなぜなのでしょう。そのことが2節に示されています。

2節を読んでみますと、霊の法則がそうさせたと記されています。このところで言われています。霊とは、命を与えるものであり、その命を与えることこそが霊の法則です。この霊の法則とは、主イエス・キリストの恵みにほかなりません。

私たちの人間性は、罪と悲惨の中にあり、律法を全うすることはできません。その私たちのために、神は御自身の御子をお遣わしくくださり、その御子の肉において私たちの罪を罪として処罰されました。御子キリストは、御父に服従して歩み、

律法を満たし、完成されたお方です。この神のまつたき小羊の犠牲によって、私たちの罪が担われ、罰せられました。

このキリストに結び合わせられて、私たち罪人も、律法を満たす者とされます。このキリストに結び合わせられ、キリストに生かされることこそが、霊の法則です。キリストに結ばれた者はキリストの霊、聖霊に満たされて、罪と死の法則から解放されるのです。

(3) 霊によって新たにされた者の歩み

キリストにおいて救われ、新たにされた者は、キリストの支配のもとに移され、神に従って歩む者とされました。その歩みは律法の要求を満たした歩みです。すなわち、キリストが律法を満たして獲得された義が、聖霊によってキリストと一つにされることにより、キリスト者に与えられたのです。それゆえ、霊によって新たにされた者は、神とその律法に逆らおうとする肉によらず、神に従う霊によって生きる者とされるのです。

(4) 律法の成就

霊の法則によって、律法がキリスト者の中で全うされます。それは、キリストがその生涯を通して、またその十字架の贖いの御業を通して、律法を全うされたからです。このキリストの御業は、私たちのために成し遂げられました。キリストの霊により、キリストが私たちの内に住んでくださり、私たちの内においても、律法が全うされるとみなされるのです。

(5) 死から命へ

キリストの霊が我々の内に住んでくださるということは、命を意味しています。罪の故に死んだ体、そして肉体が罪の故に現実の死を迎えなくてはならなくても、この命の御霊により義とされるのです。そして、その御業は、主を復活させられた方の御業であり、私たちを死から命へと引き出してくださるのです。

カテキズム

子どもカテキズム 問64

ウェストミンスター小教理問答 問85, 86

ハイデルベルク信仰問答 問114, 115

ウェストミンスター小教理問答

問85 罪のため、私たちに当然である神の怒りとどのろいをまぬがれるために、神は私たちに何を求められるか。

答 罪のため、私たちに当然である神の怒りとどのろいをまぬがれるために、神は私たちに、イエス・キリストへの信仰、生命に至る悔改め、それとともに、キリストがあがないの恵みを私たちに伝達されるすべての外的手段を、忠実に用いることを求められる。

問86 イエス・キリストへの信仰とは何であるか。

答 イエス・キリストへの信仰とは、救いの恵みであって、それによって私たちが、救いのために、福音において提供されているままに、ただキリストを受け入れ、そしてより頼むのである。

〈ただ一人正しいお方〉

アダムのすえである全人類は、罪ゆえに、誰ひとりとして十戒を完全に守ることはできず、むしろ日々これに背いています。「正しい人はいない。ひとりもない」（ローマ 3:20）とあるとおりです。

しかし、正しい人はただひとりあります。イエス・キリストです。

ウェストミンスター小教理問答問82が「単なる人間は」（だれもこの世において神の戒めを完全には守れない）という注意深い言い方をしていたことを思い起こしましょう。イエス・キリストは「単なる人間」ではなく、「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」（ヨハネ 1:14）と言われるお方であり、真の神にして真の人間であられるお方です。

このお方には罪がありませんでした。そして私たちの救いのために、父なる神の戒めに「死に至るまで従順」（フィリピ 2:8）を貫かれました。主イエスは十字架上で息を引き取られるとき「成し遂げられた」（ヨハネ 19:30）と言われました。ご自身が罪人のかわりにみ父の戒めを守り通されたことによって、罪人を救う救いが成し遂げられ

たという意味です。

人としての、地上の生涯にあつて御父の戒めに対する義を貫き通されたその義をそのまま私たちに着せて下さることによって、主イエスは私たちの罪をすべて贖い、私たちを神の前に義なる者として下さいました。主イエスが神の戒めを完全に守られたことこそが、私たちの救いの土台なのです。

さらに主イエスは私たちに聖化の祝福を与え、かの日には「わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださる」（フィリピ 3:21）のです。その日私たちの救いは完成します。救いとはイエス・キリストの真の人間性にあずかることです。これこそが私たちの目指すべき目標です。

このように私たちの救いにとって、イエス・キリストはアルファであり、オメガであります。人はイエス・キリストを信じる信仰によって、神の恵みのみによって救われます。そして信仰とは「福音において提供されているまま」のイエス・キリストを「受け入れ」「より頼む」ことです（ウ小教理問86）。

テキスト ローマの信徒への手紙 8章1～11節
カテキズム 子どもカテキズム 問64

「十戒の完成者キリスト」

〔単元のねらい〕

本号の最初の主題、第一戒の単元のねらいを改めて読み返して頂きたい。十戒を読む視点として、十戒の成就者としてイエス・キリストからの視点を定めてここまで来た。本日はその意味でその総仕上げとなろう。真の人なる主イエスのご生涯は、十戒を神と人との前で生き抜かれたご生涯であった。その主イエスの美しさ、聖さを仰ぎたい。しかもその聖さは、我々の穢れ、醜さを際立たせて終わるようなものではなく、我々にこの美しさ、聖さへの憧れを抱かせ、我々をその聖さへと化してしまうのである。このキリストを紹介して、キリストのもとに来なさいと招きたい。そこでこそ、また問われるのは、毎主日の礼拝式こそが、この主イエス・キリストとの出会いの場となっているかということである。我々は、確信をもって、ここに、主イエス・キリストが共におられる、あなたがたは、このお方の御前にいると宣言したい。そのために、教師会、奉仕者、教会員がこの子ども礼拝式のために、祈ることが求められている。子ども礼拝式は、礼拝式の真似事では決してない。神の言葉の説教が語られ、信じて聴く者がいる礼拝式である。キリストの勝利に繋がり、巻き込まれ、我々もまた、小キリストとされている。真の親分はイエスさまなので、このお方の子分もまた、同じ勝利者、復活者とされている。この事実を感動を込めて語りたい！！

先週は、使徒パウロ先生の心の中を御言葉によって知らされました。先週の暗唱聖句を唱えましょう。「わたしは自分の望む善は行なわず、望まない悪を行なっている。」つまり、パウロ先生は、自分は罪人で、惨めな人間ですと言っていましたね。

それなら、パウロ先生は、くら一い顔つきで、「ああもう夢も希望もない、自分はダメだ、生きていても悪い事ばかりをして、神さまから見捨てられる以外にない・・・生きていたってしかたがない」そんな気持ちでいたのでしょうか。違いますね。今日の暗唱聖句を覚えましょう。「従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。」パウロ先生は、こうも言っています。「わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。」一体、パウロ先生は、何を感謝しているのでしょうか。何がうれしいのでしょうか。それは、パウロ先生がイエスさまを信じているからです。主イエス・キリストがどんな事をしてくださったのか。それを知っていたからです。

イエスさまが荒野に導かれて悪魔から誘惑を受けられたことを覚えていますか。三つの挑戦を受けられました。一つは、石をパンに変えなさい。二つ目は、屋根から飛び降りなさい。三つ目は、悪魔にひれ伏しなさい。こう言うものでした。つまり、神さまに従わないように、神さまを神さまとして第一にしないようにという罪への誘惑でした。けれども、イエスさまはその全てに打ち勝ってくださいだったのでした。それは、昔、神の民のイスラエルが荒野で失敗した悪い、マイナスの歴史をすばらしい、プラスの、良い歴史に塗り替えられた御業でした。

僕たち私たちがどれほど、罪の誘惑に負けて、神さまの子どもになるにはまったくふさわしくないものであっても、真の神さまの御子であられるイエスさまが、真の人間となって、十字架の上で罪と戦って勝利していただきました。十字架にかかって、僕たち私たちの罪の支払う罰を完全に償って下さいました。イエスさまは、十字架から降りられないで、本当に、本当の死を死んでくだ

さったのです。そして、天のお父さまは、愛するイエスさまを死人の中から甦らせてくださいました。そして、天のお父さまは、信じる僕たち私たち自身に聖霊なる神さまのお働きによって、このイエスさまの御業を、当てはめてくださったのです。イエスさまを信じる人は誰でも、イエスさまと結ばれた人、イエスさまと繋がっている人、イエスさまと合体している人、イエスさまと一つになって、神さまの子とされているのです。

けれども、もしかすると皆の中には、「信じているけれど、そんな気がしない」と考えているお友達もいるかもしれません。でも、イエスさまを信じていることは事実なのでしょう？ それなら、大丈夫です。イエスさまを信じていること、それこそが、聖霊なる神さまのお働きにすでにあずかっていることですから、大丈夫です。だから、本当に、あのパウロ先生のように、「わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。」と言ってよいのです。何故なら、パウロ先生が仰ったように、本当に「キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることは」ないからです。カテキズム問 30 を開いて見てください。そこに書いてあるとおりです。

イエスさまは、誘惑に負けてしまいやすい僕たち私たち、罪へと転がり落ちてしまいやすい僕たち私たちを憐れんでくださいます。そればかりで

なく、罪に負けない強い心、神さまと人々を愛する心を豊かに与えてくださいます。今日も、喜びと感謝とをもって、礼拝を捧げているお友達は、皆、既に、イエスさまによって、そのような強い心、愛の心を与えていただいているのです。それだけでなく、僕たち私たちもお甦りになられたイエスさまと同じように、死んでも甦ります。新しい体を与えられます。死ぬ事も恐れない、勝利を与えられます。死を恐れない人、これ以上に、強い人間はいません。そのような人間に、イエスさまを信じるなら育ってゆくのです。

イエスさまは僕たち私たちの王さま、大将、親分です。この王さまは、家来のために戦って下さいました。そして、勝って下さいました。そして、このイエスさまの家来は、弱いままではありません。イエスさまのために戦おうとするなら、家来もまた、王さまのように強い人になれるのです。

あのパウロ先生は、イエスさまのために、自分の命をも捧げて、どんなに脅かされても、苦しめられても、伝道を止めない、素晴らしいお弟子さんでした。僕たち私たちも、同じイエスさまを信じているのです。「イエスさまのために、何か役に立ちたい。」そうお祈りしている人は、必ず、天のお父さまが聖霊によって、あなたをイエスさまのように、神さまと人々のために役に立つ人にならせてくださるのです。

今週の暗唱聖句

従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。

ローマの信徒への手紙 8章1節

〈目標〉

正しいお方は、イエス・キリストのみであることを知り、イエスさまの恵みによって、十戒を生きていることを知る。

イエスさまは何一つ罪をおもちになりませんでした。ですから、汚れもシミもまったくなく、真っ白な心をもっておられました。

〈ミニ・ストーリー〉

シンデレラ姫のお話を知っていますか？

シンデレラはいじわるなお姉さんに、そうじばかりさせられていました。ある日、シンデレラは、魔法使いのおばあさんに魔法で、着ていたよごれた貧しい服を美しいドレスに変えてもらい、王子さまの舞踏会に出かけていきましたね。

わたしたちの心は、泥んこをして汚れてしまったTシャツのようかもしれません。泥んこのTシャツでパーティーにはいけませんよね。イエスさまは、〇〇ちゃんのことをとても愛しているので、いっしょにパーティーに行きたいのです。イエスさまは、泥んこのTシャツを洗って、イエスさまの衣（洋服）のように真っ白にしてくださいのために、十字架におかかりになりました。天国は、パーティーよりも、もっと楽しくて嬉しい所です。イエスさまに、心を真っ白にしてください、天国に行くことができうれしいね！

美しいドレスを着て、王子さまと一緒にダンスを踊ったシンデレラはどんなに嬉しかったことでしょう。

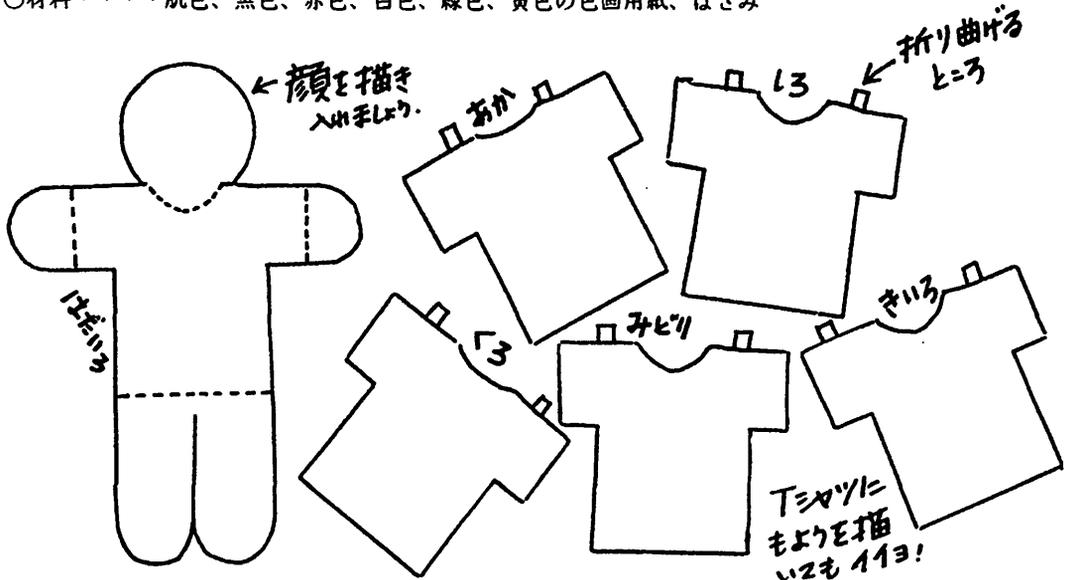
〈着せ替え〉

〇いのちのことは社『ふくいんこどもさんびか』の61番「じのないほんのうた」を賛美しよう。

〇画用紙で、衣の着せ替えをしよう。

神さまは、人として地上の生涯にあつて、義をつらぬき通して下さったイエスさまの衣を、わたしたちに着せて下さいます。

〇材料・・・肌色、黒色、赤色、白色、緑色、黄色の色画用紙、はさみ



〈折り〉

イエスさまが私たちが救って、光の子どもにして下さったことをありがとうございます。アーメン。

〈目標〉

主イエスにつながっている私たちは、たとえ罪人でも、もはや罪の奴隷ではない。イエスと共に生きる私たちは、ついに主と共に勝利者となる。

〈礼拝説教を振り返る〉

親分はイエスさまだつて。おもしろい言葉だけど、ほんとうのことだね。私たちはイエスさまの子分です。みんなも、いまと同じように、ずっとイエスさまの子分でいたいね。イエスさま以外の、別の親分ではだめだよ。

イエスさまによって、神さまの子どもになった私たちは、もう罪によって滅びることはありません。罪にも、死にも、イエスさまが勝ってくださいから。

まだ弱い私たちも、イエスさまといっしょに罪と戦おう。イエスさまによって強くしてもらおう。

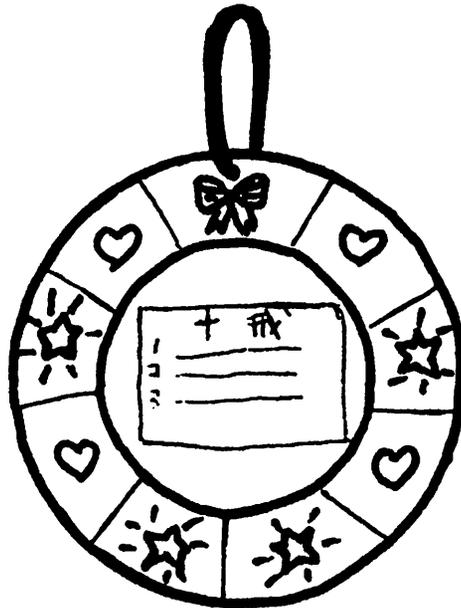
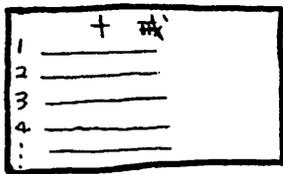
〈折りましょう〉

めぐみのかみさま
涼しい秋の季節になります
今朝も日曜日の礼拝を
感謝します
私たちは罪人ですが
イエスさまによっていつも神の子です
もう罪によって滅びることは
ありません
誘惑する悪魔とイエスさまが
戦われたように
私たちも罪と戦います
強くしてください
私と一緒にいて
いつも見守ってください
イエスさまのお名前によって
アーメン

〈壁かざりをつくります〉

○必要なもの

- 十戒のコピーを人数分用意する
- 紙皿
- サインペン
- 折り紙など



〈目標〉

十戒を唯一守られた方であるキリストを示し、その方に結ばれることの恵みを教える。

〈指導上の心得〉

主に結ばれている恵みを確信し、喜びのうちに語る。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・私たち人間が、十戒を守ることができるのかを短く話し合ってみよう。(先週のおさらい)
- ・十戒を完全に守られた方とは誰だろうか？
- ・イエス様が十戒を完全に守られたが、なぜ、十字架にかけられたのかを話し合ってみよう。
- ・イエス様は十字架で死んで、よみがえってくださった。そのイエス様に結ばれることによって、神様から十戒を守ったと見なされ、十戒の喜びの内に生きることができることを覚えよう。

〈ワーク〉

1. 十戒を完全に守られた人がいます！ それはだれですか？ 次の中から選んでみよう。
a) アダム b) サタン c) イエス・キリスト
d) バラバ・イエス e) モーセ
2. 私たちが救われるのは、イエスさまを信じる信仰によつてです。では信仰とはどうする事でしょうか？ 下の文章の○の中に文字を入れてみよう。
○○○・○○○○を受け入れて、よりのむことです！
3. ローマ8:1を書いて覚えましょう！

○十戒をカンペキに守られたイエス・キリストの聖さと美しさを目指して、毎日祈り過ごしていきましょう！

〈答え〉

1. c) 2. イエス キリスト

〈目標〉

神の民の罪を償い、霊の生命をお与えくださる主イエスを信じる幸いに生きる。

〈指導上の心得〉

主イエスの正しさこそが私たちの救いの根拠であることを正しく覚えたい。

〈展開例〉

先週は、私たちはみな、神様の御言葉「十戒」のひとつひとつの戒めを自分の力では守ることができない罪人であることを学びました。けれどもその私たちを、神様はイエスさまによって罪から救って下さったのです。

イエスさまにだけは罪はまったくなかったことを覚えましょう。イエスさまは完全に正しいお方でした。それで、父なる神さまの御言葉をすべて守られました。

そして私たちが罪と滅びから救うために、私たちのかわりに十字架にかかって、罪の罰を受けて死んで下さったのです。死ぬ必要のない正しいお方が、私たち罪人の身代わりとなって死んで下さったのです。父なる神様はこのイエスさまの正しさを私たちの正しさとして下さって、私たちが罪なき者とみなして、私たちの罪をゆるして下さったのです。

いいえ、それだけではありません。神様は私たちをイエスさまと同じ姿・・・イエスさまのようにきよく正しい姿・・・につくりかえて下さるのです。神の民にふさわしい人にして下さるのです。すべては神さまの恵みです。

〈祈り〉

神さま、私たちがイエスさまにあやかる人にして下さる恵みを感謝します。アーメン。



問64の学び

キリストの積極的服従と消極的服従。この二つの言葉を知っているか聞く。知っていたら説明してもらおう。知らなかったら説明する。後者は先週学んだ。今週は前者を学ぶ。

先週学んだように、わたしは罪人であるが、その罪の罰はキリストが十字架で完全に贖ってくださった(消極的服従)。さらに、わたしが行なわなければならない全ての善いことを、キリストがそのご生涯に全て行なってくださった(積極的服従)。そのキリストの義が、わたしに転嫁されたので、わたしは神の前に義と認められる。



話し合おう

イエスさまは地上の生涯において、十戒を完全に守られた。どのように守られたのか、考え話し合ってみよう。

(唯一の神のみを神とし、正しい方法で礼拝し、御名を崇め、安息日を正しい意味で守り、父と母に従い、人を生かし、貞潔を守り、ほどこし、真実を語り、賜物に満足された・・・というような話が出るとよい)



暗唱聖句

「イエス・キリストに結ばれている者」って誰？(わたしたち)

「今や」って、どういうこと？(キリストがそのご生涯において全ての義を満たして下さったので)

だから、どうなったの？(わたしたちは罪に定められることはありません)

月 日「十戒の完成者キリスト」中学科

名前 _____

聖書：

問

讃美：

☆キリストの消極的服従

☆キリストの積極的服従

毎日聖書を読もう

日	ヨハネ 1 2:18-28	火	ヨハネ 1 2:28-3:10
水	ヨハネ 1 4:1-6	木	ヨハネ 1 4:7-21
金	ヨハネ 1 5:1-12	土	ヨハネ 1 5:13-20

暗唱聖句

(ローマ8:1)

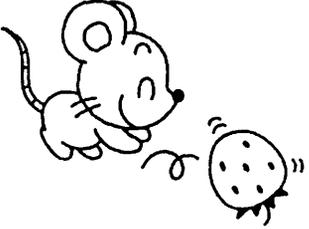
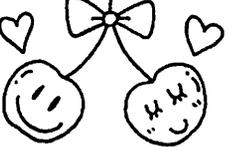
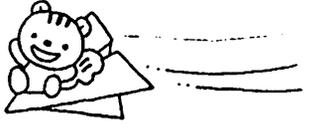
《十戒カード ①》

拡大コピーをして切り取るなどして、カードとして自由にお使いください。

<p>だい 1 かい あなたには、 わたしをおいてほかに かみがあってはならない。</p> 	<p>だい 2 かい あなたはいかなるぞうも つくってはならない。</p> 	<p>だい 3 かい あなたのかみ、 しゅのなをみだりに となえてはならない。</p> 
<p>だい 4 かい あんそくびをこころにとめ これをせいべつせよ。</p> 	<p>だい 5 かい あなたのちちとははを うやまえ。</p> 	<p>だい 6 かい ころしてはならない。</p> 
<p>だい 7 かい かんいんしてはならない。</p> 	<p>だい 8 かい ぬすんではならない。</p> 	<p>だい 9 かい りんじんにかんして ぎしょうしてはならない。</p> 

切り取る。カードとしてお使い下さい

《十戒カード ②》

<p>だい 10 かい りんじんのいえを ほっしてはならない。</p> 	<p>とい 39 かみさまのみこころの、 あきらかにされたきじゅんは どこにありますか。</p> <p>こたえ じっかいのなかにあります。</p> 	<p>とい 40 かみとひとへのあい、 ふたつでひとつのあい いきることです。</p> 
<p>とい 41 こたえ わたしはしゅ、 あなたのかみ、 あなたをエジプトのくに、 どれいのいえからみちびき だしたかみである。</p> 	<p>とい 41 じっかいのまえがきは なんですか。</p> 	<p>とい 63 あなたは、このじっかいを よろこんでいきるのですか。</p> <p>こたえ はい。せいれいなるかみさまの たすけのなかで、みことばを よろこんでまもり、いきます。</p> 

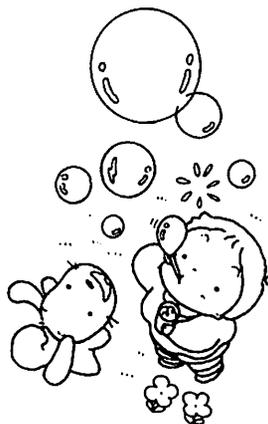
《十戒のうた》

- | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|-----------|-----------|
| ①一番目の約束 | なゝに?なゝに? | まことの神さま | まことの神さま | 礼拝 | いたします |
| ②二番目の約束 | なゝに?なゝに? | 造った神さま | 造った神さま | 拝みません | 拝みません |
| ③三番目の約束 | なゝに?なゝに? | 主の名をみだりに | 主の名をみだりに | 唱えません | 唱えません |
| ④四番目の約束 | なゝに?なゝに? | 主の日の礼拝 | 主の日の礼拝 | ささげます | ささげます |
| ⑤五番目の約束 | なゝに?なゝに? | おとうさんと | おかあさんを | 神さまに | 感謝します |
| ⑥六番目の約束 | なゝに?なゝに? | 殺すことは | 殺すことは | いたしません | いたしません |
| ⑦七番目の約束 | なゝに?なゝに? | 男の子も | 女の子も | たいせつに | いたします |
| ⑧八番目の約束 | なゝに?なゝに? | 盗むことは | 盗むことは | いたしません | いたしません |
| ⑨九番目の約束 | なゝに?なゝに? | となりの人に | となりの人に | うそをつきません | うそをつきません |
| ⑩十番目の約束 | なゝに?なゝに? | となりの家を | となりの家を | ほってはいりません | ほってはいりません |

(* 「おとうさん ゆび どこでしょう」のメロディーで)



- | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|
| ①まこと | のかみ | さま | まこと | のかみ | さま | れ | い | はい | いた | しま | しょう | |
| ②つく | った | かみ | さま | つく | った | かみ | さま | おが | みま | せん | おが | みま |
| ③主の | 名を | みだ | りに | 主の | 名を | みだ | りに | とな | えま | せん | とな | えま |
| ④主の | 日の | れい | はい | 主の | 日の | れい | はい | ささ | げま | すー | ささ | げま |
| ⑤おと | うさ | んー | とー | おか | あさ | んー | をー | かみ | さま | にー | かん | しゃ |
| ⑥殺 | すこ | とー | はー | 殺 | すこ | とー | はー | いた | しま | せん | いた | しま |
| ⑦おと | この | こー | もー | おん | なの | こー | もー | たい | せつ | にー | いた | しま |
| ⑧盗 | むこ | とー | はー | 盗 | むこ | とー | はー | いた | しま | せん | いた | しま |
| ⑨とな | りの | ひと | にー | とな | りの | ひと | にー | うそ | をつ | きま | せん | うそ |
| ⑩とな | りの | いえ | をー | とな | りの | いえ | をー | ほう | して | はー | なり | ませ |



日曜学校 2002年度カリキュラム (2002年10～12月分)

2年サイクル第2年 (子どもカテキズム問34～85)

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
単 元 の 目 標			
10月6日	教会に生きる (一)	問 65	ウ小 85、ウ告白 25:2,3、ハイ 54
		使徒言行録 2:37-47	使徒言行録 2:47
聖霊によって結ばれた教会共同体に生きることが喜びの道である			
13日	教会に生きる (二)	問 66	ウ小 85,86、ハイデ 65
		使徒言行録 9:1-19a	使徒言行録 20:21
聖霊の働きによって、ただ恵みとして信仰と悔い改めに導かれる			
20日	信仰と悔い改め	問 67	ウ小 86,87、ウ告白 14-15 章
		使徒言行録 9:19b-22	エフェソ 4:15
信仰と悔い改めに生き、神に向かって歩む			
27日	恵みの手段	問 68	ウ小 88、ハイデ 65
		使徒言行録 2:37-47	使徒言行録 2:42
御言葉と礼典と祈りが教会生活の土台である			
11月3日	生ける神の御言葉	問 69	ウ小 89,90、ハイデ 67
		使徒言行録 8:26-40	使徒言行録 8:35
生ける神の御言葉イエス・キリストが聖書を与え、説教で語っておられる			
10日	御言葉への聴従	問 70	ウ小 89,90、ハイデ 84
		ルカ 10:38-42	ルカ 10:42
御言葉をよく聴くことこそ、神への愛と奉仕である			
17日	礼典	問 71	ウ小 92,93、ハイデ 66-68
		ルカ 24:28-35	ルカ 24:30
礼典を通して祝福が注がれる。すべての人がこの祝福へと招かれている			
24日	洗礼	問 72,73	ウ小 94,95、ハイデ 69-74
		使徒言行録 16:16-34	使徒言行録 10:48a
洗礼の恵みを知り、信仰告白と洗礼・入会へと招く			
12月1日 アドベント	到来への備え	待降節	-
		イザヤ 40:1-11	イザヤ 40:3
クリスマスを前に、神の御子イエス・キリストの到来に備える			
8日 アドベント	ザカリアとエリサベト	待降節	-
		ルカ 1:5-25	ルカ 1:13
ザカリアとエリサベトの姿を通して、神の御言葉の確かさを確信することへ招く			
15日 アドベント	マリア	待降節	-
		ルカ 1:26-38	ルカ 1:38
マリアの姿を通して、神の御言葉を信頼し、待ち望むことへと招く。			
22日 クリスマス	主イエスの誕生	降誕祭	-
		ルカ 2:1-20	ルカ 2:12
罪人の救い主イエス・キリストが与えられた喜びを祝い、分かち合う。			
29日	一年の感謝	-	-
		申命記 8:1-10	申命記 8:10
一年の歩みを振り返って、主なる神に感謝をささげ、御名をほめたたえよう			

日曜学校 2002年度カリキュラム 年間計画

2年サイクル第2年（子どもカテキズム問 34～85）

月 日	教会暦・行事	主 題（仮 題）	子どもカテキズム
2002年		第二部 信仰の道 五 聖霊なる神さま	
4月 7日	進級	神の民の祈りの家	問 34
14日		キリストの体なる教会	問 34
21日		再臨の約束	問 35
28日		再臨に備える	問 35
5月 5日		死のときの祝福	問 36
12日	母の日	復活のときの祝福	問 36
19日	ペンテコステ	教会の誕生	聖霊降臨祭
26日		第三部 生活の道 一 感謝について 感謝－神の求め	問 37
6月 2日		感謝としての服従	問 38
9日	花の日	第三部 生活の道 二 感謝に生きる道 十戒－感謝の道標	問 39
16日	父の日	神と人への愛	問 40
23日		贖いの御業－過越	問 41,42
30日		過越の成就－キリスト	問 41,42
7月 7日		第一戒 神を神とする	問 43,44
14日		第二戒 刻んだ像	問 45,46
21日		第三戒 神の御名	問 47,48
28日		第四戒 主の日の安息	問 49,50
8月 4日		第五戒 父母を敬う	問 51,52
11日		第六戒 殺人の禁止	問 53,54
18日		第七戒 姦淫の禁止	問 55,56
25日		第八戒 盗みの禁止	問 57,58
9月 1日		第九戒 偽りの禁止	問 59,60
8日		第十戒 むさぼりの禁止	問 61,62
15日	敬老の日	神の掟を喜ぶ生活	問 63
22日		律法に背く人間	問 64
29日		十戒の完成者キリスト	問 64

月 日	教会暦・行事	主題（仮題）	子どもカテキズム
		第三部 生活の道 三 教会に生きる道	
10月 6日		教会に生きる(一)	問 65
13日		教会に生きる(二)	問 66
20日		信仰と悔い改め	問 67
27日	宗教改革記念日	恵みの手段	問 68
11月 3日		生ける神の御言葉	問 69
10日		御言葉への聴従	問 70
17日		礼典	問 71
24日		洗礼	問 72,73
12月 1日	アドベント	到来への備え	待降節
8日	アドベント	ザカリアとエリサベト	待降節
15日	アドベント	マリア	待降節
22日	クリスマス	主イエスの誕生	降誕祭
29日	年末	一年の感謝	
2003年			
1月 5日	新年	聖餐	問 74,75
		第三部 生活の道 四 祈りに生きる道	
12日		祈り	問 76
29日			問 76
26日		主の祈り	問 77
2月 2日		呼びかけ	問 78
9日		第一の祈願	問 79
16日		第二の祈願	問 80
23日		第三の祈願	問 81
3月 2日		第四の祈願	問 82
9日		第五の祈願	問 83
16日		第六の祈願	問 84
23日		頌栄、アーメン	問 85
30日			問 85

編集後記

●替え歌で「十戒の歌」を付録として載せました。メロディーはおなじみの「指の歌」です。皆で歌って覚えてください（名古屋岩の上传道所日曜学校）。●初めての教案づくりでした。多くの方々の努力に感謝します。それぞれの教会でより良く用いられますよう祈ります（多治見教会日曜学校）。●皆と共に教案誌を作る働きは学びとなるだけでなく、それ以上の大きな益を与えられるものであり、共にこの働きにあずかれたことを感謝しています（津島伝道所日曜学校）。●今回も6名の日曜学校教師で分担しました。すこしでもみなさんのお役に立てれば幸いです（豊明教会日曜学校）。●教案誌作成の実体験は大きな恵みです。出来上がった教案誌は私たち教師の宝物です（関キリスト教会教会日曜学校）。●表紙について・・・幼い頃、神様は空の上にいらっしやると思い、いつも夜空を見上げて話しかけていました。夏の星空を見上げてみると、神様がわかるかな？神様が見えるかな？（宮川裕希子、名古屋教会）。●日曜学校

教師会の皆様のすばらしい労作に驚き、心から感謝しています。今号も新しい協力者を得ることができました。御教会も是非、執筆側に回ってください！力を合わせて、子どもたちの信仰を育み、伝道してまいりましょう（相馬伸郎、名古屋岩の上传道所宣教教師）。●各教会の日曜学校教師方との語らいを通して、多くのことを学ばせていただけますことは感謝です（木下裕也、豊明教会牧師）。●夏のキャンプの季節到来。楽しい時となりますように（村手淳、太田伝道所宣教教師）。●主が用いてくださるならと、聖書研究の半分をさせていただいています。この働きが守られるように、良い教案誌ができるように祈りつつ、この働きに当たることができ、喜びを感じています（春名義行、津島伝道所宣教教師）。●日曜学校の苦闘を見聞きし、そこに注がれている主の恵みを覚えることが許されて、励まされています。日曜学校は福音宣教の最前線だと思わされます（望月信、高蔵寺教会牧師）。

執筆担当

聖書研究

前半・・・村手淳

後半・・・春名義行

カテキズム研究

前半・・・望月信

後半・・・木下裕也

説教展開例・・・相馬伸郎

分級展開例

幼稚科・・・名古屋岩の上传道所

小学科下級・・・多治見教会

小学科中級・・・津島伝道所

小学科上級・・・豊明教会

中学科・・・関キリスト教会

表紙デザイン・・・宮川裕希子

編集部

相馬伸郎（長）

木下裕也

村手淳

春名義行（会計、販売取次）

望月信（編集）

日本キリスト改革派教会 中部中会 『日曜学校教案誌』

2002年7・8・9月号（季刊）

第6号

2002年6月16日発行

発行 日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会

編集・発行所 日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校教案誌編集部

名古屋岩の上传道所 宣教教師 相馬伸郎

〒458-0008 愛知県名古屋市緑区平手北2-1701 協英ビル3F

Tel/Fax. 052-877-8962

頒布取り次ぎ 津島伝道所 宣教教師 春名義行

〒496-0038 愛知県津島市橋町2-30

Tel/Fax. 0567-26-4221

印刷 株式会社あるむ

頒価 900円（本体価格）